

目 次

【前期】

【区分】

科目番号

時 間 割

口 腔 組 織 学	【講義】	OD031102		1
生体構造学実習Ⅰ（口腔組織系）	【実習】	OD031113		4
口 腔 生 理 学	【講義】	OD031103		7
細胞分子生物学実習Ⅱ（生理・薬理系）	【実習】	OD031111		9
口 腔 生 化 学	【講義】	OD031105		12
機能生物化学実習Ⅱ（細菌系）	【実習】	OD031112		15
口 腔 病 理 学	【講義】	OD031107		17
生体構造学実習Ⅱ（病理系）	【実習】	OD031114		20
口 腔 保 健 学Ⅱ	【講義】	OD031201		22
齲 蝕 学Ⅰ	【講義】	OD031203		24
顎 口 腔 機 能 学	【講義】	OD031207		27
内 科 学Ⅰ	【講義】	OD031313		30
隣接医学Ⅰ（小児科）	【講義】	OD031311C		32
隣接医学Ⅰ（形成・美容）	【講義】	OD031311D		34
隣接医学Ⅰ（皮膚科）	【講義】	OD031311A		36
隣接医学Ⅰ（産婦人科）	【講義】	OD031311B		37

【後期】

時 間 割

課題解決演習Ⅱ（地域医療・災害口腔医学）	【演習】	OD031001A		38
課題解決演習Ⅱ（口腔保健学実習）	【演習】	OD031001B		39
課題解決演習Ⅱ（歯冠修復基礎実習）	【演習】	OD031001C		40
課題解決演習Ⅱ（基礎研究演習）	【演習】	OD031001D		41
臨 床 薬 理 学	【講義】	OD031115		42
基 礎 研 究 演 習	【演習】	OD031110		45
社 会 歯 科 学	【講義】	OD031116		46
医 事 法 制	【講義】	OD031117		48
口 腔 保 健 学 実 習	【実習】	OD031213		50
地 域 医 療 ・ 災 害 口 腔 医 学	【演習】	OD031214		52
齲 蝕 学Ⅱ	【講義】	OD031215		57

	【区分】	科目番号	
歯 内 療 法 学	【講義】	OD031204	．．．．． 60
歯 周 治 療 学 I	【講義】	OD031205	．．．．． 63
冠 橋 義 歯 学 I	【講義】	OD031206	．．．．． 67
歯 冠 修 復 基 礎 実 習	【実習】	OD031208	．．．．． 69
有 床 義 歯 補 綴 学 I	【講義】	OD031210	．．．．． 71
小 児 歯 科 学 I	【講義】	OD031211	．．．．． 74
歯 科 矯 正 学 I	【講義】	OD031212	．．．．． 76
介 護 実 習	【実習】	OD031209	．．．．． 79
内 科 学 II	【講義】	OD031314	．．．．． 82
隣 接 医 学 II (整 形)	【講義】	OD031312B	．．．．． 85
隣 接 医 学 II (泌 尿 器)	【講義】	OD031312D	．．．．． 86
隣 接 医 学 II (耳 鼻 科)	【講義】	OD031312C	．．．．． 87
隣 接 医 学 II (眼 科)	【講義】	OD031312A	．．．．． 88
臨 床 栄 養 学	【講義】	OD031310	．．．．． 90

前 期

口腔組織学 【講義】

科目番号 OD031102

前期：15コマ

評価責任者：稲井哲一郎

担当教員：稲井哲一郎、児玉 淳、大谷崇仁、林 慶和、二階堂美咲

（一般目標）

生物学ならびに組織学総論・各論の理解のもとに、歯・歯周組織の発生、歯の硬組織、歯髄、歯周組織、舌、口腔粘膜、唾液腺、顎関節などの口腔の組織学的特性を学習し、口腔病理学および臨床科目の履修に必要なそれぞれの組織構造を理解する。さらに、口腔と連絡する呼吸器系、消化器系、および扁桃を含むリンパ系の組織学的特性および組織構造を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-1, Ⅲ-2, Ⅲ-6, Ⅲ-7

（教育方法）

教科書を中心に、板書、プリント、写真、スライド、e-learningシステム(Moodle)、人体組織学カラスライド・データベース（神戸大学）などを用いて講義する。

（実習・演習）

（学習方法）

シラバスを読んで講義内容を確認し、e-learning(Moodle)の資料や問題、教科書を使って予習する。復習は、講義ノートを見直して不明な点がないかを確認する。総合学力試験の範囲は全授業の行動目標とする。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0 時間】

（評価）

定期試験（100％）で評価する。

定期試験の解説・結果については試験終了後、公表可能な範囲で総評と合わせて行う。

（教科書）

①磯川桂太郎ほか、「カラーアトラス 口腔組織発生学（第4版）」、わかば出版

図が豊富で理解しやすい。

②牛木辰男、「入門組織学(改訂第2版)」、南江堂

組織学の入門書として定評がある。

③人体組織学カラスライド・データベース（神戸大学）

※参考サイト参照（<https://onl.bz/FS3e9EE>）

人体組織の豊富な画像が閲覧できるので、予習・復習に活用できる。

（参考書）

脇田稔ほか、「口腔組織・発生学」、医歯薬出版

川崎堅三ほか、「Ten Cate 口腔組織学（第6版）」、医歯薬出版

磯川桂太郎ほか、「組織学・口腔組織学（第4版）」、わかば出版

澤田 元ほか、「機能を中心とした 図説組織学（第5版）」、医学書院

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/7	稲井	【ユニット1】歯と歯周組織の発生	歯と歯周組織の発生を理解する。	歯堤、歯胚（三原基：エナメル器、歯乳頭、歯小囊）を説明する。 歯胚を蕾状期、帽状期、鐘状期に分類する。 硬組織（エナメル質・象牙質・セメント質）の形成を説明する。 歯根の形成（Hertwig上皮鞘）と歯の萌出を説明する。	Ⅲ-7 Ⅲ-7 Ⅲ-6 Ⅲ-6	教科書①「第3編 歯の発生」（21～32ページ）「第4編 歯と歯周組織の構成」（33～36ページ）「第12編 歯の萌出と脱落」（97～101ページ）教科書②「第10章 消化器系・3歯と歯周組織」（158～164ページ）	1.0
2	4/14	稲井	【ユニット2】エナメル質	エナメル質の性状と構造を理解する。	エナメル質の物理・化学的性状と組織構造を説明する。 エナメル質の成長線を列記する。 Hunter-Schreger条を説明する。 エナメル質にみられる構造（エナメル葉、エナメル叢、エナメル紡錘）を説明する。	Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6 Ⅲ-6	教科書①「第7編 エナメル質の発生と微細構造」（57～71ページ）	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
3	4/18	稲井	【ユニット3】象牙質・歯髄複合体①	象牙質の性状と構造を理解する。歯髄の組織構築を理解する。(1)	象牙質の物理・化学的性状と組織構造を説明する。	Ⅲ-6	教科書①「第5編 象牙質」(37～50ページ)「第6編 歯髄の発生と微細構造」(51～55ページ)	1.0
					象牙質の成長線を列記する。	Ⅲ-6		
					外套象牙質、髄周象牙質、管間象牙質、管周象牙質を説明する。	Ⅲ-6		
					象牙質の石灰化様式（基質小胞性石灰化、添加性石灰化）を説明する。	Ⅲ-6		
4	4/21	稲井	【ユニット3】象牙質・歯髄複合体②	象牙質の性状と構造を理解する。歯髄の組織構築を理解する。(2)	第一、第二、第三象牙質を説明する。	Ⅲ-6	教科書①「第5編 象牙質」(37～50ページ)「第6編 歯髄の発生と微細構造」(51～55ページ)	1.0
					象牙質にみられる構造（球間区、球間網、Tomes顆粒層、透明象牙質、死帯）を説明する。	Ⅲ-6		
					歯髄にみられる細胞と、冠部歯髄表層の3層構造を説明する。	Ⅲ-6		
					Raschkowの神経叢を説明する。	Ⅲ-6		
5	4/28	稲井	【ユニット4】セメント質	歯根の発生と、セメント質の性状と構造を理解する。	歯根の発生、Hertwig上皮鞘、Malassez上皮遺残を説明する。	Ⅲ-6	教科書①「第8編 セメント質の発生と微細構造」(73～78ページ)	1.0
					セメント質の物理・化学的性状と組織構造を説明する。	Ⅲ-6		
					セメント質の成長線を説明する。	Ⅲ-6		
6	5/1	稲井	【ユニット5】歯根膜	歯根膜の組織構築を理解する。(1)	歯根膜の組織構築（特に、歯根膜に存在する細胞）を説明する。	Ⅲ-6	教科書①「第9編 歯根膜の発生と微細構造」(79～86ページ)	1.0
					歯根膜の線維（歯根膜主線維、オキシタラン線維）を説明する。	Ⅲ-6		
7	5/12	稲井	【ユニット6】歯槽骨	歯槽骨の組織構築を理解する。(2)	皮質骨と海綿骨の構造を説明する。	Ⅲ-6	教科書①「第2編 顎骨および顎関節の発生と微細構造」(11～20ページ)「第10編 歯槽骨の発生と微細構造」(87～90ページ)	1.0
					固有歯槽骨と支持歯槽骨の違いを説明する。	Ⅲ-6		
					Sharpey線維を説明する。	Ⅲ-6		
8	5/19	稲井	【ユニット7】皮膚、口腔粘膜	口腔粘膜（咀嚼粘膜、被覆粘膜、特殊粘膜）の組織構築を理解する。(1)	皮膚と口腔粘膜の違いを説明する。	Ⅲ-6	教科書①「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」(103～111ページ)教科書②「第10章 消化器系 2口腔」(149～151ページ)「第16章 皮膚」(295～312, 315～317ページ)	1.0
					咀嚼粘膜、被覆粘膜、特殊粘膜を説明する。	Ⅲ-6		
					軟口蓋、硬口蓋の組織構築を説明する。	Ⅲ-6		
					口唇、頬の組織構築を説明する。	Ⅲ-6		
9	5/26	稲井	【ユニット7】歯肉、舌	口腔粘膜（咀嚼粘膜、被覆粘膜、特殊粘膜）の組織構築を理解する。(2)	歯肉の組織構築を説明する。	Ⅲ-6	教科書①「第11編 歯肉の発生と微細構造」(91～95ページ)「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」(103～111ページ)教科書②「第10章 消化器系 2口腔」(151～154ページ)	1.0
					舌（特に舌乳頭）の組織構築を説明する。	Ⅲ-6		
10	6/2	稲井	【ユニット8】唾液腺、顎関節、上顎洞	唾液腺の組織構築を理解する。顎関節、上顎洞の組織構築を理解する。	大唾液腺、小唾液腺を説明する。	Ⅲ-6	教科書①「第2編 顎骨および顎関節の発生と微細構造」(11～20ページ)「第14編 唾液腺（口腔腺）の発生と微細構造」(113～118ページ)教科書②「第10章 消化器系・2口腔・C唾液腺」(154～158ページ)「第11章 呼吸器系・1鼻腔と副鼻腔」(199～200ページ)	1.0
					唾液腺の組織構築を説明する。	Ⅲ-1		
					顎関節、上顎洞の組織構築を説明する。	Ⅲ-6		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
11	6/9	稲井	【ユニット9】呼吸器系	呼吸器系を構成する器官と組織構築を理解する。	鼻腔、副鼻腔の組織構築を説明する。	Ⅲ-6	教科書②「第11章 呼吸器系」(199～210ページ)	1.0
					喉頭、気管、気管支の組織構築を説明する。	Ⅲ-6		
					肺の組織構築を説明する。	Ⅲ-2		
12	6/12	稲井	【ユニット9】消化器系（咽頭、食道、胃）	消化管を構成する器官と組織構築を理解する。(1)	消化管の四層構造を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第10章 消化器系」(147～149, 164～172ページ)	1.0
					咽頭、食道の組織構築を説明する。	Ⅲ-2		
					胃の組織構築を説明する。	Ⅲ-2		
13	6/16	稲井	【ユニット9】消化器系（小腸、大腸）	消化管を構成する器官と組織構築を理解する。(2)	小腸の組織構築を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第10章 消化器系」(172～183ページ)	1.0
					大腸の組織構築を説明する。	Ⅲ-2		
14	6/23	稲井	【ユニット9】消化腺（肝臓、膵臓）	消化腺とその組織構築を理解する。	肝臓、胆嚢の組織構築（特に、肝小葉）を説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第10章 消化器系」(183～198ページ)	1.0
					膵臓の組織構築を説明する。	Ⅲ-2		
15	6/30	稲井	【ユニット9】リンパ系	リンパ性器官を構成する器官と組織構築を理解する。 *唾液腺は第10回講義で学習済み。	中枢性リンパ器官と末梢性リンパ器官を説明する。	Ⅲ-2	教科書①「第15編 扁桃の発生と微細構造」(119～122ページ) 教科書②「第9章 リンパ性器官」(133～146ページ)	1.0
					扁桃、パイエル板を含む粘膜関連リンパ組織（MALT）を説明する。	Ⅲ-6		
					胸腺の組織構築を説明する。	Ⅲ-2		
					リンパ節の組織構築を説明する。	Ⅲ-6		
					脾臓の組織構築を説明する。	Ⅲ-2		

生体構造学実習Ⅰ（口腔組織系）【実習】

科目番号 0D031113

前期：32コマ
評価責任者：稲井哲一朗
担当教員：大谷崇仁、二階堂美咲、林 慶和、児玉 淳、小倉 綾乃、稲井哲一朗

（一般目標）
ヒトの身体を構成しているさまざまな細胞、組織、器官の観察を通して、その構造と機能を学習する。この実習では、歯科医師として必要な歯、歯周組織、口腔粘膜、口腔と関連する組織・器官の正常な組織構造を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）
Ⅲ-1, Ⅲ-2, Ⅲ-6, Ⅲ-7

（教育方法）
実習はPC, iPadまたはスマートフォンなどの学内LAN接続可能な端末を教材として顕微鏡実習を行う。実習が始まるまでに「各自のIDとパスワード」を確認してmoodleにアクセスできるようにし、実習開始前に教材を読み、予習しておくこと。さらに人体組織学カラースライド・データベース（神戸大学）を見て組織像を確認しておくこと。専用のスケッチブック（30cm×20cm程度）、シャープペンシル（鉛筆）、色鉛筆、白衣を用意すること。光学顕微鏡で組織切片を観察し、moodleのスケッチデモを参考にして、スケッチを行う。スケッチブックは、前期実習試験終了後に提出すること。【実習には学内LAN設定をした機器（PC, タブレット端末, スマホ等）、moodleのIDとパスワードが必要です。】

（実習・演習）
（学習方法）
【予習方法】教科書、口腔組織学配布資料およびmoodleを読み、観察項目の構造、関連知識を整理する。理解度によっては、3年次科目だけでなく、1～2年次の解剖・生理・組織・発生系科目、歯の解剖学等の復習が必要となる。各標本には多数の組織が含まれる。そのため、観察前に目的の細胞・組織の位置関係、特徴的構造を理解しておく必要がある。
【復習方法】教科書、口腔組織学配布資料、moodleおよびスケッチブックを用いて、組織の判別基準が理解できているか復習する。
【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：26.0時間】

（評価）
実習試験（実習の内容を問う問題が80%）と実習課題（スケッチ、課題学習および出欠を含む実習態度が20%）の合計点で判定する。実習試験は試験後に結果を掲示する。

（教科書）
①カラーアトラス 口腔組織発生学（第4版）：磯川桂太郎、稲井哲一朗 わかば出版
・図が豊富で理解しやすい。
②入門組織学（改訂第2版）：牛木辰男 南江堂
・組織学の入門書として定評がある。
③人体組織学カラースライド・データベース（神戸大学）
※参考サイト参照（<https://onl.bz/FS3e9EE>）
人体組織の豊富な画像が閲覧できるので、予習・復習に活用できる。

（参考書）
組織学・口腔組織学（第4版）：磯川桂太郎、稲井哲一朗 わかば出版

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/7	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット1】顔面および歯の発生①	実習の進め方を理解する。顕微鏡の使い方、HE染色、解剖学的方向用語を理解する。胎児の顔面の組織構造を理解する。歯と歯周組織の基本的な構造を理解する。	顕微鏡、標本を確認する。	Ⅲ-7	[1回] 教科書①「第1編 顔面と口腔の発生」（7～10ページ） 「第2編 顎骨および顎関節の発生と微細構造」（11～17ページ） 「第4編 歯と歯周組織の構成」（33～36ページ） 教科書②「第4章 支持組織・3骨組織」（61～67ページ） 「第10章 消化器系・3歯と歯周組織」（158～161ページ）	1] 1.0 2] 1.0
2	4/7				胎児の顔面（Meckel軟骨、下顎骨の発生、唾液腺の発生および歯胚）を描き説明する。	Ⅲ-7		
					歯の硬組織（エナメル質、象牙質およびセメント質）と歯周組織（セメント質、歯根膜、歯槽骨および歯肉）を描き位置関係を説明する。	Ⅲ-6		
3	4/14	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット1】顔面および歯の発生②	胎児の顔面と歯・歯周組織の発生を理解する。	蕾状期、帽状期、鐘状期前期の歯胚を描き説明する。	Ⅲ-7	[3回] 教科書①「第3編 歯の発生」（20～32ページ）教科書②「第10章 消化器系・3歯と歯周組織・D歯の発生」（161～164ページ）	3] 1.0 4] 1.0
4	4/14				硬組織形成期である鐘状期後期（象牙芽細胞と象牙質の形成、エナメル芽細胞とエナメル質の形成、Hertwig上皮鞘、歯根膜および固有歯槽骨の形成）を描き説明する。	Ⅲ-7		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
5	4/18	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット2】エナメル質	エナメル質の組織構造を理解する。	エナメル小柱の構造および走行を描き説明する。	Ⅲ-6	[5回] 教科書①「第7編 エナメル質の発生と微細構造」(57～71ページ)	5] 1.0 6] 1.0
6	4/18				エナメル質の成長線(横紋、Retzius条および周波条)を描き説明する。	Ⅲ-6		
					Hunter-Schreger条を描き説明する。	Ⅲ-6		
					エナメル質にみられる構造(エナメル叢、エナメル葉およびエナメル紡錘)を描き説明する。	Ⅲ-6		
					新産線を描き説明する。	Ⅲ-6		
7	4/21	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット3】象牙質・歯髄①	象牙質の組織構造を理解する。(1)	エナメル象牙境を描き説明する。	Ⅲ-6	[7回] 教科書①「第5編 象牙質の発生と微細構造」(37～50ページ)「第6編 歯髄の発生と微細構造」(51～55ページ)	7] 1.0 8] 1.0
8	4/21				象牙細管の走行、細管の終枝、側枝と象牙細管の横断(管周象牙質、管間象牙質およびTomes線維)を描き説明する。	Ⅲ-6		
					成長線(0wenの外形線、Andresen線および石灰化条)を描き説明する。	Ⅲ-6		
					象牙質の構造(球間区、球間網およびTomes顆粒層)を描き説明する。	Ⅲ-6		
9	4/28	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット3】象牙質・歯髄②	象牙質の組織構造を理解する。(2)	象牙質の構造(透明象牙質、死帯および第二象牙質)を描き説明する。	Ⅲ-6	[9回] 教科書①「第5編 象牙質の発生と微細構造」(37～50ページ)「第6編 歯髄の発生と微細構造」(51～55ページ)	9] 1.0 10] 1.0
10	4/28				歯髄の細胞(象牙芽細胞および歯髄細胞)および冠部歯髄の3層構造を描き説明する。	Ⅲ-6		
11	5/1	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット4】歯周組織(セメント質、歯根膜、歯槽骨)①	セメント質、歯根膜、歯槽骨の組織構造を理解する。(1)	セメント質の構造(無細胞セメント質、有細胞セメント質、セメント小体および成長線(休止線)を描き説明する。	Ⅲ-6	[11回] 教科書①「第8編 セメント質の発生と微細構造」(73～78ページ)	11] 1.0 12] 1.0
12	5/1		【ユニット4】歯周組織(セメント質、歯根膜、歯槽骨)②	セメント質、歯根膜、歯槽骨の組織構造を理解する。(2)	歯槽骨(固有歯槽骨および支持歯槽骨)を描き説明する。	Ⅲ-6		
13	5/12	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット4】歯周組織(セメント質、歯根膜、歯槽骨)②	セメント質、歯根膜、歯槽骨の組織構造を理解する。(2)	歯根膜(セメント芽細胞、骨芽細胞、線維芽細胞、歯根膜主線維、脈管神経線およびマラッセの上皮遺残)を描き説明する。	Ⅲ-6	[13回] 教科書①「第9編 歯根膜の発生と微細構造」(79～86ページ)「第10編 歯槽骨の発生と微細構造」(87～90ページ)	13] 1.0 14] 1.0
14	5/12							
15	5/19	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット5】皮膚	顔面皮膚の組織構造を理解する。	顔面皮膚の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	[15回] 教科書①「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」(103～111ページ)教科書②「第16章 皮膚」(295～312, 315～317ページ)	15] 1.0 16] 1.0
16	5/19		【ユニット5】口腔粘膜①(被覆粘膜)	被覆粘膜(軟口蓋、口唇、頬)を理解する。	頬の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6		
17	5/26	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット5】口腔粘膜①(被覆粘膜)	被覆粘膜(軟口蓋、口唇、頬)を理解する。	軟口蓋の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	[17回] 教科書①「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」(103～111ページ)教科書②「第10章 消化器系 2口腔」(149～151ページ)	17] 1.0 18] 1.0
18	5/26				口唇の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6		
19	6/2	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット5】口腔粘膜②(咀嚼粘膜)	咀嚼粘膜(歯肉、硬口蓋粘膜)の組織構造を理解する。	歯肉の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	[19回] 教科書①「第11編 歯肉の発生と微細構造」(91～95ページ)「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」(103～111ページ)	19] 1.0 20] 1.0
20	6/2				硬口蓋の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
21	6/9	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット5】口腔粘膜③（特殊粘膜）	特殊粘膜（舌背粘膜、舌体の舌乳頭）を理解する。	舌乳頭（糸状乳頭、茸状乳頭、葉状乳頭および有郭乳頭）の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	[21回] 教科書①「第13編 口腔粘膜の発生と微細構造」（103～111ページ）「第14編 唾液腺（口腔腺）の発生と微細構造」（113～118ページ）教科書②「第10章 消化器系・2 口腔・C唾液腺」（154～158ページ）	21] 0.5
22	6/9		【ユニット6】唾液腺	唾液腺の組織構造を理解する。	耳下腺、顎下腺、舌下腺およびエブネル腺の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6		22] 0.5
					漿液半月の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-1		
					導管系（介在部および線条部）の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6		
23	6/12	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット7】呼吸器系	呼吸器系（気管、肺）を理解する。	気管の組織学的構造を描き説明する。	Ⅲ-2	[23回] 教科書②「第10章 消化器系」（147～149, 164～166ページ）「第11章 呼吸器系」（199～210ページ）	23] 0.5
24	6/12				肺（終末細気管支から肺胞まで）の組織学的構造を描き説明する。	Ⅲ-2		24] 0.5
			【ユニット7】消化器系①（消化管）	消化管（食道、胃、小腸、大腸）を理解する。	食道の組織学的構造を描き説明する。	Ⅲ-2		
25	6/16	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット7】消化器系①（消化管）	消化管（食道、胃、小腸、大腸）を理解する。	胃の組織学的構造を描き説明する。	Ⅲ-2	教科書②「第10章 消化器系」（147～149, 166～172ページ）	0.5
26	6/16	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット7】消化器系①（消化管）	消化管（食道、胃、小腸、大腸）を理解する。	十二指腸の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2	[26回] 教科書②「第10章 消化器系」（147～149, 172～198ページ）	26] 0.5
27	6/19				空腸の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2		27] 0.5
					結腸の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2		
			【ユニット7】消化器系②（消化腺）	消化腺（肝臓）を理解する。	肝臓（肝小葉および小葉間結合組織）を描き説明する。	Ⅲ-2		
28	6/19	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【ユニット7】リンパ系	リンパ系（胸腺、リンパ節、扁桃）を理解する。	舌扁桃の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-6	[28回] 教科書①「第15編 扁桃の発生と微細構造」（119～122ページ）教科書②「第9章 リンパ性器官」（133～146ページ）	28] 0.5
29	6/23				胸腺の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2		29] 0.5
					リンパ節の組織構造を描き説明する。	Ⅲ-2		
30	6/23	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【点検・清掃】	器具点検、清掃、スケッチ、レポートの仕上げ	実習で学習したことを復習し、スケッチ、レポートを完成する。	Ⅲ-2		0.5
					顕微鏡、標本を点検する。	Ⅲ-2		
31	6/30	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【実習試験A】1～30回の内容	学習の理解度の評価（1）	実習内容について実習試験を行う。	Ⅲ-6		0.5
32	6/30	大谷、二階堂、林、児玉、小倉、稲井	【実習試験B】1～30回の内容	学習の理解度の評価（2）	実習内容について実習試験を行う。	Ⅲ-6		0.5

口腔生理学 【講義】

科目番号 OD031103

前期：15コマ

評価責任者：藤田亜美

担当教員：藤田亜美、鍛冶屋 浩、進 正史

（一般目標）

正常な咀嚼・構音機能の形成及び維持を目標とする歯科臨床の基礎知識を養うため、口腔生理学では、口腔・顎・顔面領域の構造を咀嚼、消化、構音の器官系と考え、それらの機能と調節機序について理解する。また、口腔機能と全身疾患との関連性についての理解を深め、口腔医学の理念を身につける。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-2, Ⅲ-3, Ⅲ-6

（教育方法）

講義ユニット毎に配付する資料及び教科書に沿って行動目標に掲げた内容をスライドや板書等により解説する。

（学習方法）

授業前に教科書に目を通しておく。授業後は配布資料、講義ノート、教科書をもとに講義の内容を要約し、重要事項を理解する。理解が不十分な項目は教科書や参考書で復習すると共にチューデントアシスタントや教員への質疑を通じて確実に修得する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：16.0 時間】

（評価）

中間試験30%、定期試験70%とする。中間試験および定期試験の成績は試験終了後、概ね2週間以内に通知する。

（教科書）

岩田幸一、井上富雄、船橋 誠、加藤隆史 編 「基礎歯科生理学 第7版」 医歯薬出版 2020

（全身から口腔領域にわたって生理学の基本的事項が簡潔かつ解りやすく記載されている。口腔医学を学ぶ上で有用なテキストである。1学年で履修する生理学Ⅰおよび2学年で履修する生理学Ⅱや生理学Ⅲでも本教科書を使用するため、1学年から3学年で学んだ知識の統合に有用である。）

（参考書）

岡田泰伸 監訳 「ギャノン生理学 原書26版」 丸善出版 2022

（基礎から臨床生理学まで最新の知見も含め簡潔にまとめられている。口腔医学の知識を深める上で有用なテキストである。実習や演習の参考書としても活用できる。電子書籍版は、図版説明も詳しくなり、生体機能への理解をさらに深める工夫がなされている。）

多久和 典子 他 著 「なるほどなっとく！解剖生理学 改訂3版」 南山堂 2023

（人体の正常構造（解剖学）と機能（生理学）を関連付けて理解するための基本的事項が多彩なイラストによって簡潔に解りやすく記載されている。予習・復習に適したテキストである。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/2	藤田	ユニット1 顎運動と顎反射	顎運動と顎反射について説明できる。	顎関節の構造と運動について説明できる。	Ⅲ-6	教科書のp356-362	1.0
					咀嚼筋の種類と神経支配について説明できる。	Ⅲ-6		
2	4/9	藤田	ユニット1 顎運動と顎反射	顎運動と顎反射について説明できる。	顎反射の種類と反射弓について説明できる。	Ⅲ-6	教科書のp364-369	1.0
					下顎張反射のメカニズムについて説明できる。	Ⅲ-6		
3	4/16	藤田	ユニット1 顎運動と顎反射	顎運動と顎反射について説明できる。	開口反射について説明できる。	Ⅲ-6	教科書のp368-369, p223-229	1.0
					顎反射と脊髄反射の類似点と相違点を説明できる。	Ⅲ-6		
4	4/23	藤田	ユニット2 咀嚼	咀嚼運動について説明できる。	舌の運動と神経支配について説明できる。	Ⅲ-6	教科書のp373-378, p379-399	1.0
					咀嚼と舌運動について説明できる。	Ⅲ-6		
					咀嚼リズムの形成と調節について説明できる。	Ⅲ-6		
5	4/30	進	ユニット3 口腔・顎・顔面領域の感覚	歯の感覚及び口腔顎顔面領域の体性感覚及び特殊感覚の特徴と伝導路について理解する。	歯髄、象牙質及び歯根膜の感覚の特徴について述べる。	Ⅲ-6	教科書のp301-321	1.0
					歯痛の発生機序と関連痛について説明できる。	Ⅲ-6		
					口腔粘膜の感覚の特徴について述べる。	Ⅲ-6		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	5/7	進	ユニット3 口腔・顎・顔面領域の感覚	歯の感覚及び口腔顎顔面領域の体性感覚及び特殊感覚の特徴と伝導路について理解する。	においの受容機序と嗅覚伝導路説明する。	Ⅲ-6	教科書のp322-355	1.0
					味覚の受容機序と伝導路を説明できる。	Ⅲ-6		
					味覚障害の種類と原因及び味覚検査について述べる。	Ⅲ-6		
7	5/14	藤田、進、鍛冶屋	中間試験	-	-	Ⅲ-6	1～6回までの講義ノート及び配付資料	1.0
8	5/21	藤田	ユニット4 発声と言語	発声器官と構音の仕組みおよび音声の性質について説明できる。	発声器官の構造と喉頭原音及び構音の仕組みを説明する。	Ⅲ-6	教科書のp442-454	1.0
					母音構音と子音構音について説明する。	Ⅲ-6		
9	5/28	藤田	ユニット4 発声と言語	発声器官と構音の仕組みおよび音声の性質について説明できる。	子音の発声様式と構音様式を分類し説明する。	Ⅲ-6	教科書のp448-462	2.0
					構音障害について述べる。	Ⅲ-6		
10	6/4	鍛冶屋	ユニット5 唾液と唾液腺	唾液腺の構造と唾液分泌機序及び唾液成分の機能について理解する。	唾液腺の種類と構造について説明する。	Ⅲ-6	教科書のp426-433	1.0
					唾液腺の神経支配について説明する。	Ⅲ-6		
					交感神経、副交感神経による唾液分泌調節機序を説明する。	Ⅲ-6		
					唾液の無機イオンと水分及びタンパク質の分泌機序を説明する。	Ⅲ-6		
11	6/11	鍛冶屋	ユニット5 唾液と唾液腺	唾液腺の構造と唾液分泌機序及び唾液成分の機能について理解する。	唾液の無機イオンと水分及びタンパク質の分泌機序を説明する。	Ⅲ-6	教科書のp434-439	1.0
					唾液に含まれる成分と機能について説明する。	Ⅲ-6		
12	6/18	鍛冶屋	ユニット6 嚥下と嘔吐	嚥下運動の特徴と神経機構及び嘔吐の機序について理解する。	嚥下運動と食塊の動きについて述べる。	Ⅲ-6	教科書のp400-412	1.0
					嚥下運動の特徴と神経機構について説明する。	Ⅲ-6		
13	6/25	鍛冶屋	ユニット6 嚥下と嘔吐	嚥下運動の特徴と神経機構及び嘔吐の機序について理解する。	嘔吐の誘発原因について説明する。	Ⅲ-2	教科書のp413-425	1.0
					嘔吐中枢と化学受容器引金帯(GIZ)について述べ、嘔吐の神経機構を説明する。	Ⅲ-2		
14	7/2	鍛冶屋	ユニット7 骨代謝	カルシウム代謝と骨代謝調節機構について理解する。	生体機能の調節におけるカルシウムの役割を説明する。	Ⅲ-2	教科書のp147-148及び配付資料	1.0
					ホルモンによる血中カルシウム濃度の調節機序を説明する。	Ⅲ-2		
					骨リモデリングの概要と調節因子及び調節機序について説明する。	Ⅲ-2		
					骨代謝異常と歯周疾患について説明する。	Ⅲ-2		
15	7/2	鍛冶屋	ユニット8 加齢と生体機能の変化	加齢による生体機能の変化について理解する。	老化の特徴について述べる。	Ⅲ-3	配布資料	1.0
					老化による運動及び感覚機能の変化について述べる。	Ⅲ-3		
					老化による内分泌機能の変化について述べる。	Ⅲ-3		
					老化による高次脳機能及び睡眠の変化について述べる。	Ⅲ-3		

細胞分子生物学実習Ⅱ（生理・薬理系）【実習】

科目番号 0D031111

前期：35コマ
評価責任者：八田光世
担当教員：藤田亜美、鍛冶屋 浩、進 正史
八田光世、長岡良礼

（一般目標）

生理学及び薬理学で学んだ知識を深めることを目的に、生体あるいは生体を構成する組織や器官の機能とそれらに及ぼす薬物の作用を実験により観察し、生命活動が維持・調節されるメカニズムについて考察する。また、討論会を通じてコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を高める。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

I-2, III-1, III-2, III-19, III-20

（教育方法）

生体機能と薬物の作用を実験により観察し結果を考察する。実験終了後に行う課題討論・レポート提出・口頭試問・客観試験により知識を整理し理解を深める。実習は5つのグループに分れ、各グループがユニット3、4、5、6、7の実験項目をローテーションする。ただし、新型コロナウイルス感染症の発生状況によっては実習の実施方法を変更する可能性がある。変更等がある場合は、事前に周知する。

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】

各項目（各ユニット）に関連する実習書、教科書及び参考書の該当箇所を読む。

【討論課題・レポート作成】

実験結果をまとめグループディスカッションにより結果を考察し討論課題に取り組む。また、グループワークにより討論会でのプレゼンテーションの準備を行う。レポート作成及びプレゼンテーション準備は、実習書、教科書、参考書、配布資料、図書館やWebサイト等を利用して行う。

【復習方法】

レポート、プレゼンテーション資料、実習書、教科書及び参考書を用いて実習内容の理解を深める。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 20.0 時間】

（評価）

【評価方法】

各項目（各ユニット）毎に態度・意欲、討論会での発言及び質疑の内容、口頭試問、レポート提出及び客観試験によって評価する。評価項目と評点については実習オリエンテーションで説明する。

【学生へのフィードバックの時期と方法】

前期終了までに成績を周知する。合格基準点に満たない場合は、夏期休暇を利用して再度の実習または試験を行い再評価する。

（教科書）

福岡歯科大学 細胞分子生物学講座 編集、「細胞分子生物学実習Ⅱ 生理・薬理系」、2025年度版
（教員が作成した実習書である。実習日程、動物実験の意義・倫理、各項目の実験方法などをわかりやすく解説している。実習初日に配布する。）

（参考書）

鈴木邦明 監修 「現代歯科薬理学」第7版 医歯薬出版 2024年
（薬理学講義の指定教科書であり、薬理学・歯科薬理学の新しい知識も反映した内容となっている。）

田中千賀子、加藤隆一 編 「NEW薬理学 改訂第7版」南江堂 2017年
（作用メカニズム、分子薬理学などを中心に充実している。）

岡田泰伸 監修 「ギャノン生理学 原書26版」丸善出版 2022年
（臨床医学の視点にも関連付けた生理学の基本的事項が簡潔に解説されている。）

岩田幸一、井上富雄、船橋 誠、加藤隆史 編 「基礎歯科生理学 第7版」医歯薬出版 2020年
（生理学・口腔生理学の基本知識が豊富な図表によって解りやすく解説してある。）

大地陸男 著 「生理学テキスト 第9版」文光堂 2022年
（生理学の基本的事項が図表によって簡潔かつ解りやすくまとめている。）

本間研一 監修 「標準生理学 第9版」医学書院 2019年
（生理学全般を広く網羅し、情報が充実している。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/8	八田、長岡、藤田、鍛冶屋、進	ユニット1 オリエンテーション、動物実験の倫理	実習の目的と内容について説明し、口腔医学の見地から本実習の意義と動物実験の倫理を認識する。	実習目的と実習内容の概要を説明する。	I-2	細胞分子生物学実習Ⅱ実習書、生理学・薬理学の教科書及びノート	1] 0.5
2	4/8				実験動物の扱い方と倫理について理解する。	I-2		2] 0.5

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
3	4/8	[3回] 藤田、鍛治屋、進 [4回] 藤田、鍛治屋、進 [5回] 藤田、鍛治屋、進 [6回] 八田、長岡 [7回] 八田、長岡	ユニット2 実習に必要な生理学・薬理学知識の復習	実習内容に関連する生理学・薬理学知識について復習する。	実習内容に関連する生理学・薬理学知識を説明する。また、実験データの解析方法を説明する。	Ⅲ-2	細胞分子生物学実習Ⅱ実習書、生理学・薬理学の教科書及びノート	3]
4	4/8							0.5
5	4/8							4]
6	4/15							0.5
7	4/15							5]
		0.5						
		6]						
		0.5						
								7]
								0.5
8	4/15	八田、長岡、藤田、鍛治屋、進	ユニット3 自律神経作用薬	受容体を介した薬理作用の発現及び用量-反応関係について理解する。さらに、薬物併用による拮抗を理解する。	作動薬による腸管収縮および拮抗薬の影響などを観察・記録する。	Ⅲ-20	細胞分子生物学実習Ⅱ実習書、生理学・薬理学の教科書及びノート	8]
9	4/15							0.5
10	4/15							9]
11	4/22							0.5
12	4/22							10]
13	4/22							0.5
14	4/22							11]
15	4/22							0.5
16	5/13							12]
17	5/13							0.5
18	5/13							13]
19	5/13							0.5
20	5/13							14]
21	5/20		0.5					
22	5/20		15]					
23	5/20		0.5					
24	5/20		16]					
25	5/20		0.5					
26	5/27		17]					
27	5/27		0.5					
28	5/27		18]					
29	5/27		0.5					
30	5/27		19]					
31	6/3		0.5					
32	6/3		20]					
			0.5					
			21]					
		0.5						

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
			ユニット6 複合活動電位 と局所麻酔薬	活動電位の発生機序と興奮伝導機序を理解する。さらに、興奮伝導に対する局所麻酔薬の作用とその機序を理解する。	動物の坐骨神経を用いて活動電位を観察し、その発生機序を説明する。	Ⅲ-2		22] 0.5
					興奮の伝導速度を求め、神経線維の種類を分類する。	Ⅲ-2		23] 0.5
					局所麻酔薬による興奮伝導の抑制作用を観察し、抑制機序を説明する。	Ⅲ-20		24] 0.5
					モルモットによる局所麻酔の検定法のビデオを供覧し、興奮伝導の抑制と浸潤麻酔効果を関連づける。	Ⅲ-20		25] 0.5
					小グループごとに実験結果を共有し、結果と考察を口頭で説明する。	Ⅲ-20		26] 0.5
					課題討論及び口頭試問を通じて、実習内容を整理して系統立てる。	Ⅲ-2		27] 0.5
			ユニット7 循環機能	血圧の測定原理を理解し、血圧の変動機序を理解する。また、心電図の誘導原理を理解し、種々の生理的变化が心電図に及ぼす効果を認識する。	触診法および聴診法による血圧測定を行い、血圧の測定原理を説明する。	Ⅲ-19		28] 0.5
					体位変化や運動が血圧に及ぼす影響を調べ、結果を基に血圧変動機序を考察する。	Ⅲ-19		29] 0.5
					心電図を記録し、その誘導原理を説明する。	Ⅲ-19		30] 0.5
					小グループごとに実験結果を共有し、結果と考察を口頭で説明する。	Ⅲ-19		31] 1.0
					課題討論及び口頭試問を通じて、実習内容を整理して系統立てる。	Ⅲ-19		32] 1.0
33	6/3	[33回] 八田、長岡	ユニット8 実習内容の復習	実習で学んだ事項を復習してまとめ、医学・口腔医学における意義と有用性を認識する。	実習内容を整理し、系統立てる。	Ⅲ-2	細胞分子生物学実習Ⅱ実習書、生理学・薬理学の教科書及びノート	33] 1.0
34	6/3	[34回] 藤田、鍛冶屋、進			実習内容と歯科医療との接点を見出す。	Ⅲ-19		34] 1.0
35	6/3	八田、長岡、藤田、鍛冶屋、進	ユニット9 到達度試験	実習内容の理解度および学習目標の達成度について評価する。	客観試験にて実習内容の理解度および学習目標の達成度を評価し、今後の学習にフィードバックする。	Ⅲ-19	細胞分子生物学実習Ⅱ実習書、生理学・薬理学の教科書及びノート	1.0

口腔生化学 【講義】

科目番号 OD031105

前期：19コマ

評価責任者：梅津桂子

担当教員：梅津桂子、林 道夫、橋口一成

（一般目標）

口腔内ならびにその周辺の器官や組織について、生化学的成り立ちを理解し、その代謝の仕組みや調節について認識する。また、これらの異常が引き起こす疾患について発生機序を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅲ-2, Ⅲ-6

（教育方法）

教科書の内容にそったプリントを配布し、受講者が講義内容をプリントに書き込んでいく形で進める。講義はスライドを中心に用いて行う。講義には教科書を必ず持参すること。

（ディスカッション・ディベート）（実習・演習）

（学習方法）

講義の前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。講義後は、講義中に指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習すること。また、各自で自己学習課題に取り組むことで講義内容のまとめや他の項目との関連を確認する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 7.0 時間】

（評 価）

講義内容の区切り毎に計2回の筆記試験（中間試験と定期試験）を実施する。各試験の点数は試験範囲のコマ数に応じて比例配分し、総合して最終的な評点とする。講義の出欠状況についても考慮に入れる。総合評価についてはポータルサイトに掲示する。

（教 科 書）

早川太郎 他著 『口腔生化学』第6版 医歯薬出版

中村桂子・松原謙一 監訳 『Essential 細胞生物学』原書第5版 南江堂

（参 考 書）

荒川俊哉、池尾隆 他編 『スタンダード生化学・口腔生化学』第4版 学建書院

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/3	梅津	ユニット1・序論	口腔医学の中での口腔生化学の位置付けや意義を理解する	口腔生化学で対象とする器官や組織の生化学的成分の成り立ちと組織の発生や分化との関係を述べる	Ⅲ-2	『口腔生化学』 3章「骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム」Ⅱ-V	0.4
2	4/10	梅津	ユニット2・血清カルシウム（1）	【血清カルシウムの調節】血清カルシウムの恒常性と調節機構について理解する（1）	カルシウムの恒常性維持と硬組織の役割について説明する 血清カルシウムの恒常性に関わるホルモンの全体像を述べる	Ⅲ-2 Ⅲ-2	『口腔生化学』 8章「血清カルシウムの恒常性とその調節機構」Ⅰ, Ⅱ	0.4
3	4/17	梅津	ユニット2・血清カルシウム（2）	【血清カルシウムの調節】血清カルシウムの恒常性と調節機構について理解する（2）	カルシトニンの構造と作用を述べる ビタミンDの構造と代謝経路について説明し、その作用を述べる 副甲状腺ホルモンの構造と作用を述べる	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2	『口腔生化学』 8章「血清カルシウムの恒常性とその調節機構」Ⅳ, V, Ⅲ	0.4
4	4/24	梅津	ユニット2・血清カルシウム（3）	【血清カルシウムの調節】血清カルシウムの恒常性と調節機構について理解する（3）	活性型ビタミンDと副甲状腺ホルモンの相互作用を中心に、血清カルシウム調節の制御を説明する	Ⅲ-2	『口腔生化学』 8章「血清カルシウムの恒常性とその調節機構」Ⅲ, V	0.4
5	5/1	梅津	ユニット3・結合組織（1）	【結合組織の構成成分】結合組織の成り立ちを理解し、構成成分とその作用を認識する	結合組織の成り立ちを述べ、構成成分を列挙する 細胞外マトリックスの線維成分の構成と作用を概説する 細胞外マトリックスの（非定形）基質成分作用の構成と作用を概説する	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-2	『口腔生化学』 4章「結合組織と上皮組織の生化学」：p87-88, Ⅰ	0.4

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	5/8	梅津	ユニット3・結合組織（2）	〔結合組織の線維性成分〕 コラーゲンとエラスチンの構造と機能を理解する	主なコラーゲンの種類と特徴を列挙する	Ⅲ-2	『口腔生化学』 4章「結合組織と上皮組織の生化学」：Ⅰ，Ⅱ	0.4
					コラーゲンの生合成過程と各反応の場所について説明する	Ⅲ-2		
					エラスチンの構造と特徴を説明する	Ⅲ-2		
					コラーゲンとエラスチンの構造や架橋の特徴を比較し、作用と関連付ける	Ⅲ-2		
7	5/15	梅津	ユニット3・結合組織（3）	〔結合組織の基質成分〕 結合組織の基質成分の種類を理解し、主なものについて構造と機能の関係を認識する	プロテオグリカンとその構成成分であるグリコサミノグリカンの構造と機能を説明する	Ⅲ-2	『口腔生化学』 4章「結合組織と上皮組織の生化学」：Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ	0.4
					主なプロテオグリカンを列挙する	Ⅲ-2		
					接着性タンパク質の構造と機能を説明し、主なものを列挙する	Ⅲ-2		
8	5/15	梅津	ユニット4・がんの分子生物学（1）	〔遺伝的な変化とがん〕 多段階発がん説の根拠を理解し、がんと遺伝的な変化（変異・ゲノム再編）との関係を認識する	がんの特徴を分子生物学的見地から説明する	Ⅲ-2	『Essential 細胞生物学』20章「細胞のつくる社会」がん / 『口腔生化学』 2章「がんはどうしてできるか」	0.4
					がんの発生や進行と遺伝的な変化（変異・ゲノム再編）の関係を説明し、その根拠を列挙する	Ⅲ-2		
					多段階発がんについて説明する	Ⅲ-2		
9	5/22	梅津	ユニット4・がんの分子生物学（2）	〔がんに関わる遺伝子〕 がんの発生や進行に関わる遺伝子の働きを理解し、診断や治療への応用を認識する	原がん遺伝子とがん遺伝子を関係づけ、がん遺伝子の作用について述べる	Ⅲ-2	『Essential 細胞生物学』20章「細胞のつくる社会」：がん / 『口腔生化学』 2章「がんはどうしてできるか」	0.4
					がん抑制遺伝子の働きを述べる	Ⅲ-2		
					がんの遺伝子診断や遺伝子治療について概説する	Ⅲ-2		
10	5/22	梅津	ユニット5・硬組織（1）	〔硬組織の成分〕 硬組織の種類と成り立ちを認識し、それぞれの組織の成分的特徴と性状の関係を理解する	骨・象牙質・セメント質の組成を述べ、これらの組織の特性と関連づける	Ⅲ-6	『口腔生化学』 5章「歯、骨と歯周組織の有機質成分とその代謝」：Ⅰ	0.4
					エナメル質の組成を述べ、その特性と関連づける	Ⅲ-6		
					軟骨の組成を述べ、その特性と関連づける	Ⅲ-2		
11	5/29	梅津 林 橋 口	中間試験					0.4
12	6/5	梅津	ユニット5・硬組織（2）	〔歯と骨の有機質成分〕 歯や骨に共通の有機成分の特徴と基本構造を理解する	硬組織の有機成分の全体像を述べ、機能や形成過程と関連づける	Ⅲ-2	『口腔生化学』 5章「歯、骨と歯周組織の有機質成分とその代謝」Ⅱ	0.4
					骨・象牙質・セメント質に特有のタンパク質を列挙し、それぞれの構造的特徴と機能を関連づける	Ⅲ-2		
13	6/10	梅津	ユニット5・硬組織（3）	〔歯と骨の有機質成分〕 歯の主なタンパク質の構造の特徴と作用を理解する	象牙質に特有のタンパク質について特徴を述べる	Ⅲ-6	『口腔生化学』 5章「歯、骨と歯周組織の有機質成分とその代謝」Ⅱ，Ⅳ	0.4
					エナメル質に特有のタンパク質について特徴を述べる	Ⅲ-6		
14	6/12	梅津	ユニット5・硬組織（4）	〔歯や骨の無機質成分〕 歯や骨の無機質成分の特徴と基本構造を理解する	リン酸カルシウム塩とアパタイト結晶の関係を説明する	Ⅲ-2	『口腔生化学』 6章「骨と歯の無機成分と石灰化機構」Ⅰ-V	0.4
					ヒドロキシアパタイトの構造を述べ、イオン交換について説明する	Ⅲ-2		
					エナメル質と象牙質におけるアパタイト構造の違いを説明し、う蝕感受性と関連づける	Ⅲ-6		
					硬組織の無機成分を列挙し、エナメル質における分布を述べる	Ⅲ-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
15	6/17	梅津	ユニット5・硬組織（5）	〔石灰化の機構〕 硬組織の石灰化の機構を分子レベルで理解する	押し上げ説、エビタキシー説、基質小胞説について考え方の変遷を説明する	Ⅲ-2	『口腔生化学』 6章「骨と歯の無機成分と石灰化機構」Ⅵ, Ⅶ	0.4
					基質小胞の形成過程や構成成分を述べ、石灰化における役割について説明する	Ⅲ-2		
					エナメル質の石灰化の特徴を他の硬組織と比較して説明する	Ⅲ-6		
16	6/19	梅津	ユニット5・硬組織（6）	〔硬組織の形成〕 エナメル質と象牙質の形成過程について理解する	エナメル質と象牙質の石灰化の機構を比較する	Ⅲ-6	『口腔生化学』 6章「骨と歯の無機成分と石灰化機構」Ⅶ, Ⅷ	0.4
					エナメル質と象牙質の石灰化過程の関係を説明する	Ⅲ-6		
					エナメル質と象牙質の形成過程について、組織像と生化学的成分の変化を関連づける	Ⅲ-6		
17	6/24	梅津	ユニット6・唾液（1）	〔唾液の組成〕 唾液の組成について理解し、血液との違いを認識する	唾液の組成の全体像を説明する	Ⅲ-6	『口腔生化学』 9章「唾液の生化学」Ⅱ, Ⅲ	0.4
					唾液の無機質の種類を述べる	Ⅲ-6		
					唾液の有機質の種類を述べる	Ⅲ-6		
18	6/26	梅津	ユニット6・唾液（2）	〔唾液の無機成分〕 原唾液の分泌・再吸収と唾液の無機成分の関係を理解し、その作用を認識する	唾液の緩衝作用について説明する	Ⅲ-6	『口腔生化学』 9章「唾液の生化学」Ⅳ, Ⅴ	0.4
					唾液のイオン交換作用について説明する	Ⅲ-6		
					唾液のCa濃度維持作用について述べる	Ⅲ-6		
19	7/3	梅津	ユニット6・唾液（3）	〔唾液のタンパク質〕 唾液のタンパク質の種類と作用を理解する	唾液の抗菌因子とその作用について説明する	Ⅲ-6	『口腔生化学』 9章「唾液の生化学」Ⅳ	0.4
					唾液の酵素とその作用について説明する	Ⅲ-6		
					唾液特有のタンパク質とその作用について列挙する	Ⅲ-6		

機能生物化学実習Ⅱ（細菌系）【実習】

科目番号 0D031112

前期：24コマ
評価責任者：田中芳彦
担当教員：田中芳彦、永尾潤一、岸川咲吏、豊永憲司

（一般目標）
生菌を用いた実験、実習を通して感染症における生体と微生物のかかわり合いを理解する。また、滅菌、消毒、無菌操作など、医療行為における最も基本的な事項を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）
I-7, IV-15

（教育方法）
病原菌を含む数種の細菌、真菌を実際に培養し、染色標本として顕微鏡による観察を行う。また、菌の生化学的な性状や物理、化学的な抵抗性について実習する。なお、実習は小グループを単位とし、グループ毎で実験、実習を行う。実習レポートは当日の実習終了時に提出し、担当教員と内容について討議する。実習書を中心に、教科書、プリント、板書、パワーポイント、ビデオ、動画、インターネットなどを使用して進める。実習中に使用するため、教科書を毎回必ず持参すること。
（グループワーク）（実習・演習）

（学習方法）
実験書にある各実験項目に関連する教科書および講義ノートを用いて実習内容の予習を行う。実習報告書で報告した実験結果に関連する授業項目について、予習・復習を行う。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：0.8時間】

（評価）
【評価の割合】実習状況、実習レポート、および実習試験 90%、実習態度（質疑応答、出席等を含む）10%。すべての実習に参加することを前提とする。実習レポートに関する学生へのフィードバックとして、次回実習時にレポート返却。
【フィードバックの時期と方法】フィードバックの時期：試験終了後、概ね二週間。フィードバックの方法：総合判定をポータルサイトに提示。

（教科書）
石原和幸ほか 編集 『口腔微生物学 ―感染と免疫―』 第8版 学建書院、2024。

（参考書）
川端重忠ほか 編集 『口腔微生物学・免疫学』第5版 医歯薬出版、2021。
選定理由：簡潔に編集されており、復習時などの学習に使いやすい。
吉田真一ほか 編集 『戸田新細菌学』 改訂34版 南山堂、2013。
選定理由：非常に詳しい権威ある専門書で、参考書として利用しやすい。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/11	田中 永尾 岸川 豊永	ユニット1 微生物学の基礎技術	グラム染色による細菌の分類を理解し、その方法と観察方法を知る。	細菌の一般的な培養を行う。	IV-15	教科書p18-p20.	0.1
					グラム染色法を行う。	IV-15		
					グラム染色による細菌の分類を比較する。	IV-15		
2	4/25	田中 永尾 岸川 豊永	ユニット2 消毒と滅菌	滅菌と消毒の定義を理解し、その代表的な方法を身につける。	消毒薬の種類を列挙し、効果を比較する。	IV-15	教科書p370-p382.	0.1
					滅菌の種類を列挙し、効果を比較する。	IV-15		
3	5/2	田中 永尾 岸川 豊永	ユニット3 微生物の形態、構造物、機能	細菌および真菌の構造、形態の特徴と特殊染色による観察方法を知る。	細菌の特徴的な構造物とその染色方法を類別する。	IV-15	教科書p16-p28. p191-p201.	0.1
					真菌の特徴的な形態を説明する。	IV-15		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4	5/9	田中 永尾 岸川 豊永	ユニット4 院内感染と薬剤感受性	医療現場で問題となる病院内感染を知るために、抗生物質の作用を理解する。	抗生物質の種類を列記する。	IV-15	教科書p383-p417.	0.1
					抗生物質の効果を比較する。	IV-15		
5	5/16	田中 永尾 岸川 豊永	ユニット5 歯周病原細菌	プラークからの歯周病原細菌の分離と観察方法を知る。	プラーク中に歯周病原細菌が存在することを指摘する。	IV-15	教科書p282-p299. p336-p350.	0.1
					プラークからの歯周病原細菌の分離法を実施する。	IV-15		
6	5/23	田中 永尾 岸川 豊永	ユニット6 う蝕原性細菌	プラークからのう蝕原性細菌の分離と観察方法を知る。	プラーク中にう蝕原性細菌が存在することを指摘する。	IV-15	教科書p282-p299. p321-p3231	0.1
					プラークからのう蝕原性細菌の分離法を実施する。	IV-15		
7	5/30	田中 永尾 岸川 豊永	ユニット7 口腔感染症における病原因子	口腔感染症原因菌の病原因子を理解する。	う蝕原性を説明する。	IV-15	教科書p321-p331. p79-82.	0.1
					病原細菌の溶血性を比較する。	IV-15		
8	6/6	田中 永尾 岸川 豊永	ユニット8 実習内容確認	実習内容の理解度を判断する。	理解の達成度を評価する。	I-7	1回から7回までの実習内容	0.1

口腔病理学 【講義】

科目番号 OD031107

前期：30コマ

評価責任者：病態構造学分野教授

担当教員：吉本尚平、和田裕子、嶋 香織（鹿児島大学）

（一般目標）

口腔疾患および全身含む関連領域の疾患の本態、すなわち疾病の原因、発生機序、経過、転帰および病変の病理組織学的特徴などを理論的に理解し、臨床歯科医学における診断、治療、予防との関わりを知る。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅲ-5, Ⅲ-10

（教育方法）

口授、スライド、板書による講義。

資料（Moodleや配布）を予習、聴講、復習に併用する。

（学習方法）

授業前後に、指定教科書、配布サプノート、Moodle資料などによる予習、復習ならびに中間試験の復習を行なう。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 30.0 時間】

（評 価）

中間試験20%、定期試験80%

「学生へのフィードバックの時期と方法」

中間試験については、試験後、模範解答を掲示するとともに、成績を概ね2週間後に通知する。

定期試験の成績は試験終了後、概ね1週間後に通知する。

（教 科 書）

1. 下野正基、高田隆、田沼順一、豊澤悟 編集『新口腔病理学』第3版 医歯薬出版 2021

（口腔病理学について最新の内容で、情報量も最も充実した教科書である）

（参 考 書）

1. 高木實 監修 高田隆・豊澤悟 編『口腔病理アトラス』第3版 文光堂 2018

（口腔領域の主要疾患の病理組織像が網羅されている。6年の国家試験対策まで充分使用に耐える）

2. 賀来亨、田中昭男 編集『簡明 口腔病理アトラス』永末書店 2015 第2刷

（関連する臨床写真と病理組織像が沢山あり、診断のポイントも分かりやすく記載され、病理組織像の学習に有用である）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/7	和田	歯の発育異常	歯の発育異常の定義、原因および病態を理解する。	1) 歯の異常（形、大きさ、数、構造）について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p2～p11	1.0
2	4/7	和田	歯の発育異常	歯の発育異常の定義、原因および病態を理解する。	2) 歯列・咬合の異常について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p12～p16	1.0
3	4/14	和田	歯の発育異常	歯の発育異常の定義、原因および病態を理解する。	3) 歯の萌出の異常について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p16～p18	1.0
4	4/14	和田	歯の損傷および歯の沈着物と歯の着色・変色	歯の損傷(物理的、化学的損傷や外傷性損傷)および歯の沈着物と歯の着色・変色について理解する。	1) 咬耗症、摩耗症、侵蝕症、破折、脱臼について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p19～p30	1.0
5	4/21	吉本	齲蝕の病理	齲蝕の疫学、分類、原因、疾患の成り立ち、歯の硬組織病変について臨牀的、病理組織学的特徴を理解できる。	1) 齲蝕の概念、疫学、分類、原因と成り立ちについて説明する。	Ⅲ-10	教科書 p31～p40	1.0
6	4/21	吉本	齲蝕の病理	齲蝕の疫学、分類、原因、疾患の成り立ち、歯の硬組織病変について臨牀的、病理組織学的特徴を理解できる。	2) 齲蝕の病態について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p41～p47	1.0
7	4/28	吉本	象牙質・歯髄複合体の病理	象牙質・歯髄複合体における加齢的変化、退行性病変、進行性病変ならびに歯髄炎について理解する。	1) 象牙質・歯髄複合体の加齢的変化および退行性病変について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p48～p55	1.0
8	4/28	吉本	象牙質・歯髄複合体の病理	象牙質・歯髄複合体における加齢的変化、退行性病変、進行性病変ならびに歯髄炎について理解する。	2) 象牙質・歯髄複合体の進行性病変について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p55～p58	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
9	5/12	吉本	象牙質・歯髄複合体の病理	象牙質・歯髄複合体における加齢的变化、退行性病变、進行性病变ならびに歯髄炎について理解する。	3) 象牙質・歯髄複合体の感染と炎症について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p58～p66	1.0
10	5/12	吉本	根尖性歯周組織疾患の病理	根尖性歯周組織疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	1) 根尖性歯周組織疾患ならびにその继发症について、原因、分類、病態を説明する。急性の病態を中心に。	Ⅲ-10	教科書 p67～p78	1.0
11	5/19	吉本	根尖性歯周組織疾患の病理	根尖性歯周組織疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	2) 根尖性歯周組織疾患ならびにその继发症について、原因、分類、病態を説明する。慢性の病態を中心に。	Ⅲ-10	教科書 p67～p78	1.0
12	5/19	吉本	辺縁性歯周組織の病変	辺縁性歯周組織の病変の診断と治療に必要な臨床病理学および病理組織学的特徴を理解する。	1) 辺縁性歯周組織疾患の原因、分類、病態を説明する。また、これに影響を与える全身疾患についても説明できる。①	Ⅲ-10	教科書 p79～p97	1.0
13	5/26	吉本	辺縁性歯周組織の病変	辺縁性歯周組織の病変の診断と治療に必要な臨床病理学および病理組織学的特徴を理解する。	2) 辺縁性歯周組織疾患の原因、分類、病態を説明する。また、これに影響を与える全身疾患についても説明できる。②	Ⅲ-10	教科書 p79～p97	1.0
14	5/26	和田	歯科治療に伴う治癒の病理	各種歯科治療に伴う生体反応とくに治癒の病理について理解する。	各種歯科処置（修復処置、歯内処置、歯周処置、矯正処置、抜歯など）における生体組織の反応と治癒過程について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p98～p119	1.0
15	6/2	嶋	顎骨の病変	顎骨の炎症性疾患、顎関節疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	顎骨の炎症性疾患、顎関節疾患の分類や病態を説明できる。	Ⅲ-10	教科書 p229～p238	1.0
16	6/2	嶋	口腔粘膜疾患および免疫疾患	口腔粘膜に発生する疾患ならびに免疫疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	1) 口腔粘膜に発生する各種疾患の分類と病態を説明する。	Ⅲ-10	教科書 p143～p168	1.5
17	6/9	和田	口腔粘膜疾患および免疫疾患	口腔粘膜に発生する疾患ならびに免疫疾患の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	2) 口腔とくに口腔粘膜に発生する免疫疾患の分類と病態を説明する。	Ⅲ-10	教科書 p283～p291	1.0
18	6/9	和田	口腔領域の嚢胞	口腔顎顔面領域に発生する嚢胞および嚢胞様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	口腔顎顔面領域に発生する嚢胞および嚢胞様病変の分類および病態を説明する。	Ⅲ-10	教科書 p182～p195	1.5
19	6/10	吉本	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および嚢腫様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	1) 前癌病変、上皮内癌、口腔癌について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p169～p181	1.5
20	6/10	吉本	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および嚢腫様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	2) 良性歯源性腫瘍のうち、歯原性上皮からなり、成熟した線維性間質を伴い、歯源性外胚葉性間葉組織を伴わないものについて説明する。	Ⅲ-10	教科書 p196～p202	1.5
21	6/16	吉本、和田	中間試験	—	—	Ⅲ-10		
22	6/16	吉本	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および嚢腫様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	3) 良性歯源性腫瘍のうち、混合性ならびに間葉性腫瘍ならびに悪性歯源性腫瘍について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p202～p211	1.0
23	6/17	和田	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および嚢腫様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	4) 顎骨の線維骨性病変ならびに骨形成性病変について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p212～p219	1.0
24	6/19	和田	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および嚢腫様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	5) 顎骨の軟骨形成性病変ならびに巨細胞性病変について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p220～p228	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
25	6/23	和田	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および腫瘍様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	6) 口腔領域軟組織の腫瘍・腫瘍様病変（Ⅰ～Ⅳ）について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p239～p251	1.0
26	6/23	和田	口腔領域の腫瘍	口腔領域の腫瘍および腫瘍様病変の診断と治療に必要な臨床病理学的特徴を理解する。	7) 口腔領域軟組織の腫瘍と腫瘍様病変（Ⅴ～Ⅶ）について説明する。	Ⅲ-10	教科書 p252～p256	1.5
27	6/24	和田	唾液腺の病変	唾液腺に発生する非腫瘍性疾患および腫瘍性疾患の診断と治療に必要な臨床病理学および病理組織学的特徴を理解する。	1) 唾液腺に発生する非腫瘍性疾患の分類、病態を説明する。	Ⅲ-10	教科書 p271～p282	1.0
28	6/30	嶋	唾液腺の病変	唾液腺に発生する非腫瘍性疾患および腫瘍性疾患の診断と治療に必要な臨床病理学および病理組織学的特徴を理解する。	2) 唾液腺に発生する腫瘍性疾患の分類、病態を説明する。	Ⅲ-10	教科書 p271～p282	1.5
29	6/30	嶋	唾液腺の病変	唾液腺に発生する非腫瘍性疾患および腫瘍性疾患の診断と治療に必要な臨床病理学および病理組織学的特徴を理解する。	3) 唾液腺の腫瘍の病態を説明する。	Ⅲ-10	教科書 p257～p270	1.0
30	7/1	吉本、和田	加齢・全身疾患に伴う口腔病変、病理診断	加齢や全身疾患による口腔への影響、病理診断の概要について理解する。	1) 加齢・全身疾患に伴った口腔病変、病理診断について説明する。	Ⅲ-5	教科書 p292～p340	1.0

生体構造学実習Ⅱ（病理系）【実習】

科目番号 0D031114

前期：45コマ

評価責任者：病態構造学分野教授

担当教員：吉本尚平、和田裕子

（一般目標）

口腔領域の疾患や全身の重要臓器疾患の知識と肉眼的、顕微鏡的形態変化に関連させ、各種疾患の病態像およびその相違を深く理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー〔DP〕）

Ⅲ-5, Ⅲ-10

（教育方法）

顕微鏡実習の前に、各回の実習テーマについて板書、プリント、スライドを用いて実習ポイントの説明。視覚素材によるディスカッションおよび口頭試問、理解度テスト。

P Cのマクロ剖検所見やミクロ組織所見の視覚デジタル画像による病態の読解および病理診断などE B M演習。
（ディスカッション・ディベート）（実習・演習）

（学習方法）

実習前後に指定教科書、配布資料、客観テスト、e-learning等による予習および復習を行なう。光学顕微鏡を用いて病理組織標本の観察し、スケッチする。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：9.0時間】

（評価）

実習試験（90%）、毎回の課題はじめアクティブラーニングのプロダクツ（10%）

「学生へのフィードバックの時期と方法」

実習試験後概ね2週間後までに合格基準点に満たない学生に周知をし、再試験を行い再評価する。

（教科書）

1. 高木寛 監修 高田隆・豊澤悟 編『口腔病理アトラス』第3版 文光堂 2018
（口腔領域の主要疾患の病理組織像が網羅されている。6年時の国家試験対策まで使用できる。）

（参考書）

1. 下野正基、高田隆、田沼順一、豊澤悟 編集『新口腔病理学』第3版 医歯薬出版 2021
（口腔病理学について最新の内容で、情報量も最も充実した教科書である）
2. 賀来亨、田中昭男 編集『簡明 口腔病理アトラス』永末書店 2015 第2刷
（関連する臨床写真と病理組織像が沢山あり、診断のポイントも分かりやすく記載され、病理組織像の学習に有用である）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/2	吉本、和田	病理学総論1	退行性病変および循環障害の病態について、画像を通して理解する。	退行性病変および循環障害の病態について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-5	教科書 p5~p6, p163~p176 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
2	4/9	吉本、和田	病理学総論2	急性炎症および慢性炎症について、画像を通して理解する。	循環障害、急性炎症および慢性炎症の病態について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-5	教科書 p5~p6, p163~p176 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
3	4/16	吉本、和田	歯の発育不全・歯の硬組織疾患	歯の発育異常および硬組織異常の種類および病態について、画像を通して理解する。	歯の発育異常および硬組織異常について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	教科書 p2~p30 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
4	4/23	吉本、和田	齲蝕／歯髄の病変1	齲蝕、象牙質の増殖および歯髄の退行性病変について、画像を通して理解する。	齲蝕、象牙質の増殖および歯髄の退行性病変について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	教科書 p31~p58 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
5	4/30	吉本、和田	歯髄の病変2	各種歯髄炎および歯髄処置（生活歯髄切断法）の病態について画像を通して理解する。	各種歯髄炎および生活歯髄切断法によるデンティンブリッジの形成過程について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	教科書 p58~p66, p104~p105 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	5/7	吉本、和田	歯周組織の疾患／顎骨の病変	歯周組織の疾患、顎骨病変の病態について、画像を通して理解する。	根尖性歯周炎、辺縁性歯周疾患を中心に歯周組織の疾患および顎骨の病変について、スケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	教科書 p67～p97, p212～p238 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
7	5/14	吉本、和田	口腔粘膜疾患／口腔領域の嚢胞 1	口腔粘膜疾患、口腔領域の嚢胞について、画像を通して理解する。	口腔粘膜疾患および口腔領域の嚢胞について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	教科書 p143～p168, p182～p195 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
8	5/21	吉本、和田	口腔領域の嚢胞 2	口腔領域の嚢胞について、画像を通して理解する。	口腔領域の嚢胞について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	教科書 p182～p195 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
9	5/28	吉本、和田	EBM に基づいた鑑別診断 1	ユニット1～8の疾患について、他の症例も加えて鑑別診断し、病態を理解する。	ユニット1～8の疾患の病態について説明し、鑑別診断を行う。	Ⅲ-10	ユニット1～8 の内容	1.0
10	6/4	吉本、和田	口腔潜在的悪性疾患と口腔上皮性異形成、口腔癌	口腔粘膜に生じる潜在的悪性疾患および口腔癌について、画像を通して理解する。	口腔粘膜に生じる潜在的悪性疾患および口腔癌について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	教科書 p169～p181 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	1.0
11	6/11	吉本、和田	口腔領域に生じる腫瘍（歯源性腫瘍）	口腔領域に生じる腫瘍（歯源性腫瘍）について、画像を通して理解する。	口腔領域に生じる腫瘍（歯源性腫瘍）について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	教科書 p196～p211 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
12	6/13	吉本、和田	口腔領域に生じる腫瘍（非歯源性腫瘍）	口腔領域に生じる腫瘍（非歯源性腫瘍）について、画像を通して理解する。	口腔領域に生じる腫瘍（非歯源性腫瘍）について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	教科書 p212～p228, p239～p256 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
13	6/18	吉本、和田	唾液腺の疾患	唾液腺の疾患について、画像を通して理解する。	唾液腺の疾患について、病態をスケッチに描き、解説し、鑑別する。	Ⅲ-10	教科書 p257～p282 のうち配布プリントのテーマ疾患を中心に	0.5
14	6/20	吉本、和田	EBM に基づいた鑑別診断 2	ユニット1～8, 10～13の疾患について、他の症例も加えて鑑別診断し、病態を理解する。	ユニット1～8, 10～13の疾患について病態を解説し、臨床所見、X線所見の情報とともにエビデンスに基づいて病態を鑑別する。	Ⅲ-10	ユニット1～13の全内容	1.0
15	6/25	吉本、和田	実習試験	全ユニットで実習した疾患その他重要疾患について、鑑別診断を行いながら病態を理解する。	全ユニットで実習した疾患その他重要疾患について、鑑別すべき疾患とともに、病態を解説し、鑑別診断ならびに病理組織診断を行なう。	Ⅲ-10	実習で学習した全内容	1.0

口腔保健学Ⅱ 【講義】

科目番号 OD031201

前期：18コマ

評価責任者：谷口奈央

担当教員：谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、内藤麻利江、矢田部尚子、竹下 徹（九州大学大学院）、築山雄次（つきやま歯科医院）

（一般目標）

国民の口腔保健の現状を知り、口腔の健康診断およびリスクの診断・除去の技術への理解を深める。さらに、口腔の健康増進や口腔疾患の予防に関する予防歯科臨床を含む公衆衛生対策を、個人および集団に適用するための基本知識を習得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-5、Ⅲ-6、Ⅲ-7、Ⅲ-8、Ⅲ-10、Ⅲ-16、Ⅲ-22、Ⅲ-23

（教育方法）

教科書と配布資料を利用した講義を中心に行う。

（学習方法）

授業前後に予習の項目について教科書や配布資料、参考書の該当箇所を読むこと 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：17.0 時間】 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：17.0 時間】

（評価）

各授業毎に受講態度および必要に応じたレポート評価のフィードバック（10%）ならびに定期試験（90%）による評価を行う。

（教科書）

1. 安井利一、山下喜久、廣瀬公治、小松崎明、山本龍生、弘中祥司編、「口腔保健・予防歯科学 第2版」、医歯薬出版、2023
2. 安井利一、尾崎哲則、埴岡 隆、森田 学、山下喜久、岸 光男、嶋崎義浩編、「新編衛生学・公衆衛生学」、医歯薬出版、2021

（参考書）

1. 日本口腔衛生学会編、「フッ化物応用の科学 第2版」、口腔保健協会 2018
（フッ化物の応用に必要な知識を解説している）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/1	谷口奈央	ユニット1 予防歯科臨床の意義、歯・口腔の沈着物と健康	口腔の異常と歯の沈着物、その評価のための指標を理解する。	歯、口の健康と機能、加齢変化を説明できる。	Ⅲ-5	歯、口の健康と機能、加齢変化	1.0
2	4/3	谷口奈央	ユニット1 予防歯科臨床の意義、歯・口腔の沈着物と健康	口腔の異常と歯の沈着物、その評価のための指標を理解する。	ペリクルと歯垢を説明できる。 歯石、舌苔、外来性沈着物を説明できる。	Ⅲ-6 Ⅲ-7	ペリクル、歯垢、歯石、舌苔、外来性沈着物	1.0
3	4/3	谷口奈央	ユニット2 疾患リスクと予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	う蝕の発生要因と予防方法を説明できる。	Ⅲ-5	う蝕の発生要因	1.0
4	4/10	谷口奈央	ユニット2 疾患リスクと予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	う蝕の発生要因と予防方法を説明できる。	Ⅲ-5	う蝕の評価と予防方法	1.0
5	4/17	矢田部尚子	ユニット2 疾患リスクと予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	う蝕のリスク診断を説明できる。	Ⅲ-22	う蝕活動試験	1.0
6	4/17	竹下 徹、 谷口奈央	ユニット2 疾患リスクと予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	口腔ディスプレイを説明できる。	Ⅲ-22	口腔ディスプレイ	0.5
7	4/24	谷口奈央	ユニット2 疾患リスクと予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	歯周病の発生要因を説明できる。 歯周病の予防法を説明できる。	Ⅲ-8 Ⅲ-8	歯周病の評価と予防方法	1.0
8	4/24	谷口奈央	ユニット3 ブラークコントロール	ブラークコントロールを理解する。	口腔の自浄作用と物理的ブラークコントロールを説明できる。	Ⅲ-22	口腔の自浄作用と物理的ブラークコントロール	1.0
9	5/1	谷口奈央	ユニット3 ブラークコントロール	ブラークコントロールを理解する。	化学的ブラークコントロールと歯磨剤を説明できる。	Ⅲ-22	化学的ブラークコントロールと歯磨剤	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
10	5/8	島津 篤	ユニット2 疾患リスクと 予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	フッ化物の予防機序を説明できる。	Ⅲ-22	フッ化物	1.0
11	5/15	島津 篤	ユニット2 疾患リスクと 予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	フッ化物応用の方法を比較し、説明できる。	Ⅲ-22	フッ化物の予防機序	1.0
12	5/22	島津 篤	ユニット2 疾患リスクと 予防歯科	口腔疾患リスクと予防法を理解する。	フッ化物応用の方法を比較し、説明できる。	Ⅲ-22	フッ化物応用の方法	1.0
13	5/29	谷口奈央	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	口臭の診断と予防法を説明できる。	Ⅲ-10	国民の歯科保健状況	1.0
14	6/5	谷口奈央	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	国民の歯科保健状況を図表を用いて説明できる。	Ⅲ-23	口臭の発生要因と予防法	1.0
15	6/12	築山雄次、 谷口奈央	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	地域保健活動・歯科保健活動の全体像を説明できる。（予防歯科臨床）	Ⅲ-16	地域保健活動、歯科保健活動（臨床の立場から）	0.5
16	6/19	谷口奈央	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	行動科学と歯科疾患について説明できる。	Ⅲ-16	行動科学と歯科疾患	1.0
17	6/26	藤本暁江	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	高齢者・有病者の口腔健康管理を説明できる。	Ⅲ-22	高齢者・有病者の口腔健康管理	1.0
18	7/3	藤本暁江	ユニット4 歯科保健	歯科保健・歯科保健活動の状況と行動変容を理解する。	地域保健活動・歯科保健活動の全体像を説明できる。（地域保健を支える制度）	Ⅲ-22	地域保健活動、歯科保健活動（行政中心に）	1.0

齲蝕学Ⅰ 【講義】

科目番号 OD031203

前期：18コマ

評価責任者：松崎 英津子

担当教員：松崎 英津子、晴佐久 悟、山田 和彦、松本 典祥、水上 正彦

（一般目標）

近年、歯の解剖学、病理学および細菌学をはじめとする齲蝕関連基礎科目と予防歯科学および保存修復学を包含した齲蝕学（Cariology）という概念が導入されている。齲蝕を中心とした歯の硬組織疾患の予防・検査・治療・管理に関する基礎的能力を身につけるために基礎齲蝕学および齲蝕治療学に関する知識を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-4、Ⅲ-5、Ⅲ-6、Ⅲ-7、Ⅲ-8、Ⅲ-12、Ⅲ-21、Ⅳ-2、Ⅳ-3、Ⅳ-4

（教育方法）

教科書、プリントおよびスライドによる講義

（学習方法）

予習はシラバスに記載された教科書「第六版 保存修復学21」「第七版 保存修復学」の授業関連項目を読むこととする。また、復習は配布資料および教科書の関連ページを再読し、CBT PASS、見開き問題集に提示された問題を解くことにより行う。さらに、参考書を用いて関連領域の学習をすることを推奨する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：18.0 時間】

（評価）

記述試験および客観試験（定期試験：100%）

「学生へのフィードバックの時期と方法」

試験終了後、希望する者には教科書および講義資料を用いてフィードバックする。

（教科書）

田上順次、奈良陽一郎、山本一世、斎藤隆史 監修『第六版 保存修復学21』永末書店、2022

写真や図表が多く、初学者にも理解しやすい。

（参考書）

千田 彰、寺中敏夫、寺下正道、宮崎真至 編集『第七版 保存修復学』医歯薬出版、2019

日本接着歯学会 編『接着歯学 第2版』医歯薬出版、2015

特定非営利活動法人日本歯科保存学会編 保存修復学専門用語集 第3版 医歯薬出版、2023

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/3	晴佐久	ユニット1 齲蝕の疫学	わが国の齲蝕の罹患状況を経年変化、国際比較のなかで理解する。	わが国の齲蝕罹患状況の変化、現状を説明する。	Ⅲ-5	第7版 保存修復学 P17 第六版 保存修復学21 第2章 齲蝕 P24-37	1.0
					諸外国における齲蝕罹患状況を述べる。	Ⅲ-5		
					わが国における齲蝕罹患の特徴を表現する。	Ⅲ-5		
2	4/10	松崎	ユニット2 感染症としての齲蝕	齲蝕原性菌の生態を理解する。	生活習慣や食生活と齲蝕発症との関係を説明する。	Ⅲ-4	第六版 保存修復学21 第2章 齲蝕 P29、P38-43（第7版 保存修復学 P14-19）	1.0
					齲蝕原性細菌の特徴を述べる。	Ⅲ-4		
					カリエスリスクを説明する。	Ⅲ-4		
3	4/11	松本	ユニット3 乳歯および永久歯の構造と組成（1）	硬組織の齲蝕過程を知るために乳歯、永久歯の形態学的比較、歯冠の表面構造、エナメル質の正常構造、組成とその特徴を理解する。	乳歯、永久歯の構造や組織学的違いを説明する。	Ⅲ-12	第六版 保存修復学21第1章 概論 P8-27、第2章齲蝕 P37（第7版 保存修復学 P6-13、17）	1.0
					歯冠表面にみられる齲蝕好発部位（裂溝、窩、頂窩）を説明する。	Ⅲ-8		
					エナメル質の組成を説明し、構造を描き、その特徴を述べる。	Ⅲ-6		
			ユニット3 乳歯および永久歯の構造と組成（2）	硬組織の齲蝕過程を知るために象牙質とセメント質の組成と構造および象牙質・歯髄複合体の特徴を理解する。	象牙質の特徴を説明する。	Ⅲ-6		
					象牙質・歯髄複合体の特徴を説明する。	Ⅲ-6		
					セメント質の特徴を説明する。	Ⅲ-6		
4	4/17	松本	ユニット4 齲蝕の分類と病変の成り立ち	齲蝕の好発部位やその病因・齲蝕の拡がり方・分類とエナメル質齲蝕・象牙質齲蝕の特徴に関する基礎的知識を身につける。	齲蝕の好発部位について説明する。	Ⅲ-8	第六版 保存修復学21第2章 齲蝕 P29-38（第7版 保存修復学 P25-26、73-74）	1.0
					齲蝕の進行様式を説明する。	Ⅲ-8		
					急性齲蝕と慢性齲蝕を比較する。	Ⅲ-8		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
5	4/24	松本	ユニット5 齲蝕病変の形態学的変化	エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕の臨床所見および病理組織学的特徴を理解する。	エナメル質齲蝕病巣の特徴について説明する。	Ⅲ-8	第六版 保存修復学21第2章 齲蝕 P29-38（第7版 保存修復学 P23-25、71-77）	1.0
					象牙質齲蝕病巣の特徴について説明する。	Ⅲ-8		
6	4/25	水上	ユニット6 齲蝕の予防	各種齲蝕予防法を評価し、それらの特徴を理解する。	ブラッシング、甘味の種類と摂取法、フッ化物応用法について、それぞれの齲蝕予防効果を比較する。	Ⅲ-7	第六版 保存修復学21第1章 概論 P24-26、第2章 齲蝕 P43-44（第7版 保存修復学 P19-21、68-72、238）	1.0
					場面に応じた正しい予防法を選択する。	Ⅲ-8		
7	5/2	水上	ユニット7 非齲蝕性硬組織疾患	Tooth wearの特徴に関する基礎的知識を身につけるとともに、硬組織疾患と歯髄・根尖歯周組織疾患との関連性について理解する。	くさび状欠損について説明する。	Ⅲ-8	第六版 保存修復学21第3章 齲蝕以外の硬組織疾患 P61-63、P75-78（第7版 保存修復学 P30-31、36-37、81-82、84-85）	1.0
					象牙質知覚過敏症について説明する。	Ⅲ-8		
8	5/9	松崎	ユニット8 齲蝕の検査	齲蝕の検査に関する基礎的知識を身につける。	齲蝕の検査法について説明する。	Ⅳ-3	第六版 保存修復学21第2章 齲蝕 P44-57（第7版 保存修復学 P68、71-77）	1.0
					齲蝕検知液について説明する。	Ⅳ-4		
			ユニット9 齲蝕の診断・治療計画	歯科診療に求められる Minimal Intervention Dentistry (MI: 最小限の侵襲に基づく歯科医学) について理解する。	MI（ミニマルインターベンション）を基にした齲蝕治療について説明できる。	Ⅳ-4		
9	5/15	松本	ユニット10 硬組織の切削（1）	歯を切削する器具・機械・方法に関する知識について理解する。	歯の切削器具・器械について説明する。	Ⅲ-21	第六版 保存修復学21第5章 診療設備・器材 P97-112（第7版 保存修復学 P40-44、P98-105）	1.0
					切削時の診察姿勢について説明する。	Ⅲ-21		
10	5/16	松本	ユニット10 硬組織の切削（2）	歯を切削する際の罹患歯質の鑑別法と象牙質切削時の除痛法について理解する。	罹患歯質の鑑別と除去法について理解する。	Ⅳ-2	第六版 保存修復学21第2章 齲蝕 P51-54、第7章 修復方法 P144-145（第7版 保存修復学 P71-79、137-138）	1.0
					象牙質切削時の除痛法について説明する。	Ⅳ-2		
11	5/22	松崎・松本	ユニット11 歯髄障害・歯髄保護（1）	修復時の歯髄障害とその要因に関する知識を身につける。	切削に伴う歯髄刺激について説明する。	Ⅲ-5	第六版 保存修復学21第4章 歯髄傷害・歯髄保護 P81-87（第7版 保存修復学 P122-123）	1.0
					修復材料の歯髄刺激について説明する。	Ⅲ-5		
					微少漏洩による歯髄刺激について説明する。	Ⅲ-5		
12	5/23	松崎・松本	ユニット11 歯髄障害・歯髄保護（2）	歯髄保護および修復システムについて理解する。	歯髄保護法の目的・種類について説明する。	Ⅳ-4	第六版 保存修復学21第4章 歯髄傷害・歯髄保護 P87-95（第7版 保存修復学 P122-128）	1.0
					裏層法について説明する。	Ⅳ-4		
					覆髄法について説明する。	Ⅳ-4		
13	5/30	水上	ユニット12 歯の修復治療の留意点（1）	各修復法の特徴を知り、修復治療の留意点について理解する。	各修復法の適応症について説明できる。	Ⅳ-4	第六版 保存修復学21第7章 修復方法 P133-135 第8章 コンポジットレジン修復 P180 第9章 グラスアイオノマーセメント修復 P214-216 第11章 コンポジットレジンインレー修復 P230 第12章 セラミックインレー修復 P243-244 第13章 メタルインレー修復 P254-255 第5章 診療設備・器材 P100-103、（第7版 保存修復学 P160-161、174-175、208-209）	1.0
					回転切削器具とその特徴について説明できる。	Ⅳ-4		
14	6/6	水上	ユニット12 歯の修復治療の留意点（2）	罹患歯質の除去法を身につけるとともに修復時に使用するレーザーについて理解する。	罹患歯質の鑑別と除去法について理解できる。	Ⅳ-4	第六版 保存修復学21第2章 齲蝕 P51-54 第5章 診療設備・器材 P104-107（第7版 保存修復学 P71-79、106-107）	1.0
					修復時に使用するレーザーについて説明できる。	Ⅳ-4		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
15	6/13	松崎・松本	ユニット13 修復の前準備	修復時の前準備である防湿法、歯間分離法について理解する。	防湿法について説明する。	IV-4	第六版 保存修復学21第7章 修復方法 P148-151、153-154 （第7版 保存修復学 P129-134）	1.0
					歯間分離法について説明する。	IV-4		
16	6/20	松崎・松本	ユニット13 修復の前準備	修復時の前準備である防湿法、歯間分離法について理解する。	歯肉排除法について説明する。	IV-4	第六版 保存修復学21第7章 修復方法 P151-153、141-148 （第7版 保存修復学 P134-137）	1.0
					隔壁法について説明する。	IV-4		
17	6/27	山田	ユニット14 窩洞（1）	窩洞の分類や構成に関する基礎的知識を身につける。	窩洞の分類について説明する。	IV-2	第六版 保存修復学21第6章 窩洞 P117-120 （第7版 保存修復学 P110-113）	1.0
					回転切削器具とその特徴について説明できる。	IV-4		
18	7/4	山田	ユニット14 窩洞（2）	窩洞形態に関する諸条件について理解する。	保持形態について説明する。	IV-4	第六版 保存修復学21第6章 窩洞 P120-127 （第7版 保存修復学 P114-122）	1.0
					便宜形態について説明する。	IV-4		
					歯質と修復物のための抵抗形態について説明する。	IV-4		
					窩縁形態の目的と名称について説明する。	IV-4		

顎口腔機能学 【講義】

科目番号 0D031207

前期：15コマ

評価責任者：都築 尊

担当教員：都築尊、松浦尚志

（一般目標）

教科書を基本として顎口腔系の解剖と機能について理解する。補綴装置の基本的構造を理解する。咬合器の種類と構造、機能について理解する。
配布講義ノートに書き込む形式の講義を展開する。学生は国家試験対策ノートを自分の手で作り上げる。
講義の中で動画を用いて視覚的に理解を深める。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-6, Ⅲ-7, Ⅲ-21

（教育方法）

教科書を基本として顎口腔系の解剖と機能について理解する。補綴装置の基本的構造を理解する。咬合器の種類と構造、機能について理解する。
配布講義ノートに書き込む形式の講義を展開する。学生は国家試験対策ノートを自分の手で作り上げる。
講義の中で動画を用いて視覚的に理解を深める。
講義内容に関連したCBTPassおよび国家試験過去問を解説する。

（学習方法）

【予習方法】

Moodleにアップしている教科書のハイライト部分を自分の教科書に写しておく。

【講義】

講義ノートに書き込む形式の講義を展開する。3～5色のペンを用意しておいてください。

【復習】

Moodleにアップしている復習動画およびCBTPass解説動画を視聴する。講義で解説した厳選問題とCBTPass関連問題を解いて理解を深める。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

【進級要件】

①中間試験が100点満点換算で60点以上であること。60点に満たない学生は個別に口頭試問を行う。合格すれば中間試験の成績は60点となる。
②定期試験が100点満点換算で60点以上であること。60点に満たない学生は再試験を行う。再試験で合格した場合、成績は60点となる。

【評価】

最終成績は中間試験と定期試験の平均点で算出する（小数点以下四捨五入）。定期試験を再試験で合格した場合、最終成績は60点となる。定期試験に中間試験の範囲は含まない。

【フィードバック】

マークシート問題は持ち帰り可とする。試験終了後に、マークシート問題のみフィードバック動画をMoodle にアップロードするので各自で復習すること。
成績不振の学生は個別指導を行う。

【備考】

中間試験は日程を変更することがある。

（教科書）

- ①市川哲雄他編 「無歯顎補綴治療学 第4版」 医歯薬出版
（全部床義歯補綴治療を臨床手順に沿ってまとめた学生必読書である。かなり詳しいのでこれを基本教科書とする。）
- ②三谷春保他編 「歯学生のパーシャルデンチャー 第7版」 医歯薬出版
（部分床義歯補綴治療を臨床手順に沿ってまとめた学生必読書である。かなり詳しいのでこれを基本教科書とする。）
- ③日本補綴歯科学会編 「歯科補綴学専門用語集第6版」 医歯薬出版
（専門用語の検索に用いる。下記URLより無償ダウンロード可）

（参考書）

- ①「入門咬合学」 医歯薬出版
（図が多く理解しやすい。）
- ②「有床義歯補綴学」 永末書店
（全部床義歯と部分床義歯が1冊にまとまっている。別角度からの知識の確認に有用である。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/2	都築尊	ユニット1 咬合学概論	咬合と咬合器の歴史を理解する。	ボンウィル三角とバルクウィル角を説明する。	Ⅲ-6	配布資料	1.0
					スピーの湾曲、モンソン球面説、ウィルソンカーブを説明する。	Ⅲ-6		
					顎運動と咬合面形態の関係を説明する。	Ⅲ-6		
					咬合器の歴史を説明する。	Ⅲ-6		
2	4/9	都築尊	ユニット2 解剖	下顎運動に関与する歯以外の解剖を理解する。	顎関節と咀嚼筋の働きを説明する。	Ⅲ-6	歯学生のパーシャルデンチャー第6版P26～P33 無歯顎補綴治療学第4版P31～P35	1.0
			ユニット3 下顎位	補綴学的咬合様式を理解する。	下顎安静位を説明する。	Ⅲ-6		
					咬頭嵌合位を説明する。	Ⅲ-6		
					中心咬合位を説明する。	Ⅲ-6		
					筋肉位を説明する。	Ⅲ-6		
3	4/16	都築尊	ユニット4 下顎運動	基本となる下顎運動を理解する。	下顎最後退位を説明する。	Ⅲ-6	歯学生のパーシャルデンチャー第6版P34～P37 無歯顎補綴治療学第4版P35～P39	1.0
					矢状面における下顎運動を説明する。	Ⅲ-6		
4	4/23	都築尊	ユニット7 咬合様式	補綴学的咬合様式を理解する。	機能的基本位を説明する。	Ⅲ-6	歯学生のパーシャルデンチャー第6版P51～P58 無歯顎補綴治療学第4版P40～P43	1.0
					偏心位における咬合様式を説明する。	Ⅲ-6		
					犬歯誘導咬合の有意性を説明する。	Ⅲ-6		
5	4/30	都築尊	ユニット8 咬合器	咬合器の概念を理解する。	解剖学的咬合器の分類を説明する。	Ⅲ-6	歯学生のパーシャルデンチャー第6版P59～P65	1.0
					調節性咬合器の顎路指導機構による分類を説明する。	Ⅲ-6		
					咬合器の選択を説明する。	Ⅲ-6		
6	5/7	都築尊	ユニット9 下顎運動の記録	下顎運動の記録法を理解する。	フェイスボウトランスファーを説明する。	Ⅲ-6	歯学生のパーシャルデンチャー第6版P185～P188 無歯顎補綴治療学第4版P192～P194	1.0
					模型の咬合器装着を説明する。	Ⅲ-6		
7	5/14	都築尊	ユニット9 下顎運動の記録	下顎運動の記録法を理解する。	ゴシックアーチ描記法を説明する。	Ⅲ-6	無歯顎補綴治療学第4版P180～P186	1.0
					ゴシックアーチ描記図を評価する。	Ⅲ-6		
8	5/21	都築尊	ユニット9 下顎運動の記録	下顎運動の記録法を理解する。	チェックバイト法を説明する。	Ⅲ-6	無歯顎補綴治療学第4版P26～P33 歯学生のパーシャルデンチャー第6版P189～P191	1.0
					スプリットキャスト法を説明する。	Ⅲ-6		
9	5/28	都築尊	中間試験				1～8回の講義の復習をすること。	1.0
10	6/4	都築尊	ユニット10 無歯顎の病因と病態	歯の喪失による顎口腔系の変化を理解する。	顎関節の加齢変化を説明する。	Ⅲ-7	無歯顎補綴治療学第4版P11～P30	1.0
					筋の加齢変化を説明する。	Ⅲ-7		
					神経系の加齢変化を説明する。	Ⅲ-7		
					下顎運動・下顎位の加齢変化を説明する。	Ⅲ-7		
					唾液・味覚の加齢変化を説明する。	Ⅲ-7		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
11	6/11	都築尊	ユニット11 全部床義歯の咬合	補綴装置としての全部床義歯を理解する。	人工歯と義歯床を説明する。	Ⅲ-21	無歯顎補綴治療学第4版P57～P63、P218～P221	1.0
					全部床義歯の各部の名称と役割を説明する。	Ⅲ-21		
					物理的、生理的維持力を説明する。	Ⅲ-21		
					維持力に影響を及ぼす因子を説明する。	Ⅲ-21		
					全部床義歯の支持を説明する。	Ⅲ-21		
					平衡咬合を説明する。	Ⅲ-21		
12	6/18	都築尊	ユニット12 部分床義歯の特徴と構成要素	部分床義歯の構成要素を理解する。	部分床義歯の構成要素と役割を説明する。	Ⅲ-21	歯学生のパーシャルデンチャー第6版P66～P76	1.0
					支台装置の目的と分類を説明する。	Ⅲ-21		
					連結子の目的と分類を説明する。	Ⅲ-21		
					義歯床の目的と分類を説明する。	Ⅲ-21		
					人工歯の目的と分類を説明する。	Ⅲ-21		
13	6/25	都築尊	ユニット13 部分床義歯の支持・把持・維持	部分床義歯の支持・把持・維持を理解する。	部分床義歯の支持機構を説明する。	Ⅲ-21	歯学生のパーシャルデンチャー第6版P87～P98	1.0
					部分床義歯の把持機構を説明する。	Ⅲ-21		
					部分床義歯の維持機構を説明する。	Ⅲ-21		
14	7/2	都築尊	ユニット14 クラスプの基本的理解	レスト付き二腕鉤を理解する。	クラスプの一般的構造と機能を説明する。	Ⅲ-21	歯学生のパーシャルデンチャー第6版P98～P102	1.0
15	7/2	都築尊	ユニット15 症型分類	部分床義歯の設計に有用な症型分類を理解する。	力の負担様式を説明する。	Ⅲ-6	歯学生のパーシャルデンチャー第6版P77～P82	1.0
					中間欠損と遊離端欠損を説明する。	Ⅲ-6		
					Kennedyの分類を説明する。	Ⅲ-6		
					Eichnerの分類を説明する。	Ⅲ-6		

内科学 I 【講義】

科目番号 OD031313

前期：15コマ

評価責任者：得能智武

担当教員：得能智武

（一般目標）

口腔は体の中の重要な臓器であり、口腔の疾患や障害が全身の疾患を引き起こし、同時に全身疾患が口腔に病変を引き起こす。また、超高齢化社会においては、歯科領域においても全身疾患を有する患者を診察する機会が増加している。1年時に医口腔医学概論で学んだことを基礎として、神経・内分泌代謝・感染・免疫の病態生理と代表的な疾患の臨床を学び、口腔医学における全体的視点の重要性を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-17, IV-16

（教育方法）

教科書・プリントによる講義 マルチメディアによる説明

（学習方法）

授業前に下記教科書や参考書の該当箇所を読み、授業後に教科書や参考書と共に配布された資料やプリント等を参照して学習する。

【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0 時間】

（評価）

中間試験（36%）、定期試験（64%）

小テストを行い、次の授業で解答状況にあわせて解説を行う。

各試験の後にも質問を受け付ける。

（教科書）

井村裕夫 編集、『わかりやすい内科学』第5版、文光堂、2023（判りやすい内科学の教科書）

（参考書）

千葉俊美・山田浩之 編集、『歯科医師のための内科学』第1版、医歯薬出版、2021（歯科医師向けの内科学の教科書）

西田次郎他 編集、『歯科のための内科学』第4版、南江堂、2018（歯科向けの内科学の教科書）

矢崎義雄 総編集、『内科学』第12版、朝倉書店、2022（内科学の代表的なテキスト）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOS）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/11	得能	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。	中枢神経系と末梢神経系の形態機能とその連関を説明する。 神経疾患へのアプローチの方法を列記する。	Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第7章神経疾患、561-564頁	1.0
2	4/25	得能	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。	重要な神経徴候を列挙し、神経学的診断法による鑑別の方法を説明する。 脳血管障害を発症機序に基づいて類別する。	Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第7章神経疾患、564-571頁	1.0
3	5/2	得能	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。	脳梗塞を臨床分類に基づいて説明し、診断と治療を述べる。 一過性脳虚血発作、脳内出血、くも膜下出血を説明し、診断と治療を述べる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第7章神経疾患、570-575頁	1.0
4	5/9	得能	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。	認知症を類別し、各々の特徴を説明する。 神経系の変性疾患を類別し、各々の特徴を説明する。 神経系の感染症を述べる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第7章神経疾患、576-595頁、605-608頁	1.0
5	5/16	得能	ユニット2 感染症の基礎と臨床	感染症の発症機序の知識を身につけ、代表的感染症の概念・診断・治療を理解する。	感染の成立における宿主感染防御能の意義を説明する。 日和見感染を院内感染に関連づけ、臨床上の問題点を述べる。 ウイルス性感染症の特徴を述べる。 ウイルス性の呼吸器感染症・発疹症・脳炎等の臨床像を説明する。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第5章感染症、365-379頁、406-413頁、422-432頁	1.0
6	5/23	得能	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。	末梢神経の疾患を列挙し、その特徴を説明できる。 筋肉疾患と機能的神経疾患を列挙し、説明できる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第7章神経疾患、596-605頁、608-639頁	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
7	5/30	得能	ユニット2 感染症の基礎と臨床	感染症の発症機序の知識を身につけ、代表的感染症の概念・診断・治療を理解する。	細菌感染症を分類し、代表的病原細菌を列挙する。	Ⅲ-17	教科書の第5章感染症、379-395頁	1.0
					グラム陰性桿菌感染症の代表的疾患を説明する。	Ⅲ-17		
					グラム陽性球菌感染症の代表的疾患を説明する。	Ⅲ-17		
					敗血症の診断と治療を説明する。	Ⅲ-17		
8	6/6	得能	ユニット1 神経系の構造・機能と神経疾患	神経系の構造と機能を身につけ、神経疾患の特徴と臨床像を理解する。			中間試験	1.0
9	6/13	得能	ユニット2 感染症の基礎と臨床	感染症の発症機序の知識を身につけ、代表的感染症の概念・診断・治療を理解する。	性感染症の特徴と種類を列挙する。	Ⅲ-17	教科書の第5章感染症、360-363頁、399-405頁、414-421頁	1.0
					AIDSの臨床像を説明する。	Ⅲ-17		
					真菌感染症の特徴を述べ、カンジダ症を説明する。	Ⅲ-17		
					リケッチア・マイコプラズマ・寄生虫感染症の特徴を説明する。	Ⅲ-17		
10	6/17	得能	ユニット3 内分泌疾患の病態と診断・治療	内分泌臓器の形態・機能とホルモン分泌調節の知識を身につけ、代表的内分泌疾患の診断と治療を理解する。	ホルモン動態および内分泌機能検査を説明する。	Ⅲ-17	教科書の第8章内分泌疾患、651-656頁、663-667頁	1.0
					視床下部疾患の病態生理を知り、その診断と治療を説明する。	Ⅲ-17		
11	6/20	得能	ユニット4 免疫の基礎と免疫疾患	免疫疾患の発症機序を知り、免疫の異常で起こる疾患を理解する。	アレルギー（免疫）反応を4型に類別する。	Ⅲ-17	教科書の第4章免疫疾患、303-347頁	1.0
					自己免疫疾患を全身性自己免疫疾患と臓器特異性自己免疫疾患に分類する。	Ⅲ-17		
					膠原病の病態を知り、代表的膠原病の診断と治療を説明する。	Ⅲ-17		
					不明熱の病因と診断を説明する。	Ⅲ-17		
12	6/24	得能	ユニット3 内分泌疾患の病態と診断・治療	内分泌臓器の形態・機能とホルモン分泌調節の知識を身につけ、代表的内分泌疾患の診断と治療を理解する。	下垂体の機能異常により発症する下垂体性疾患の診断と治療を説明する。	Ⅲ-17	教科書の第8章内分泌疾患、657-716頁	1.0
					甲状腺、副甲状腺、副腎皮質および副腎髄質の異常により発症する疾患の病態を説明する。	Ⅲ-17		
					甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎皮質疾患および副腎髄質疾患の診断・治療を説明する。	Ⅲ-17		
13	6/27	得能	ユニット4 免疫の基礎と免疫疾患	免疫疾患の発症機序を知り、免疫の異常で起こる疾患を理解する。	アナフィラキシーの原因と病状を説明する。	Ⅳ-16	教科書の第4章免疫疾患、347-363頁	1.0
					薬物アレルギー、気道アレルギーの臨床像を述べる。	Ⅳ-16		
					免疫不全の特徴を説明する。	Ⅲ-17		
14	7/1	得能	ユニット5 代謝・栄養疾患の基礎と臨床	代謝・栄養の基礎を身につけ、代謝の障害と栄養の過剰・欠乏で起こる疾患の特徴を理解する。	代謝の基礎的事項を説明する。	Ⅲ-17	教科書の第9章代謝・栄養疾患、717-755頁、767-771頁	1.0
					糖尿病を分類し、その診断・治療および糖尿病性合併症を理解する。	Ⅲ-17		
					高脂血症、痛風等の生活習慣病の種類と診断・治療について説明する。	Ⅲ-17		
15	7/4	得能	ユニット5 代謝・栄養疾患の基礎と臨床	代謝・栄養の基礎を身につけ、代謝の障害と栄養の過剰・欠乏で起こる疾患の特徴を理解する。	栄養素の種類と機能を述べる。	Ⅲ-17	教科書の第9章代謝・栄養疾患、755-767頁	1.0
					ビタミン欠乏状態から発症する病態を説明する。	Ⅲ-17		
					病的肥満の病態生理とその合併症を説明する。	Ⅲ-17		

隣接医学Ⅰ（小児科）【講義】

科目番号 OD031311C

前期：7コマ
評価責任者：鳥巢 浩幸
鳥巢 浩幸
岡田 賢司
担当教員：奥園 清香
一宮 優子

（一般目標）

小児の特性および小児期特有の疾患について理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

I -6, Ⅲ-3, Ⅲ-4, Ⅲ-12, Ⅲ-16, Ⅲ-17, Ⅲ-18, Ⅲ-22, IV-13

（教育方法）

小児の成長発達、小児保健および小児疾患全般について解説する。
講義終了後、配布資料を用いて講義を行い、コピー資料を配布する。

（学習方法）

予習は、講義ごとの行動目標のキーワードについて調べておく。
講義終了後、配布資料を用いて、復習を行い、参考書で理解を深めておく。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：5.8 時間】

（評 価）

出席点は1回2点、総計14点とする。
中間試験（第1～3回講義の範囲）20点
定期試験（全範囲）66点
試験問題は○×形式と選択形式を併用する。
中間試験後に解説を行う
定期試験の結果は、隣接医学Ⅰの総合判定として掲示する

（教科書）

特に指定書はない。スライドコピーで代用する。

（参考書）

標準小児科学（第9版） 医学書院

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	4/3	鳥巢浩幸	ユニット1 小児の成長と発達	・新生児～青年期までの成長と発達過程を理解する。	小児の身体的特徴を年齢別に説明できる。	Ⅲ-3	小児と大人の違いについて考えておく	1.0
					小児の精神的発達を述べることができる。	Ⅲ-3		
			ユニット2 摂食機能の発達	・小児の摂食機能の発達を理解する。	小児の摂食機能の発達が説明できる。	Ⅲ-3		
2	4/10	鳥巢浩幸	ユニット3 先天異常	・頻度の高い先天異常を理解する。	ダウン症の特徴を説明できる。	Ⅲ-17	ダウン症について調べておく	1.0
					先天異常の原因を説明できる。	Ⅲ-17		
			ユニット4 小児の神経疾患	・小児の主な神経疾患を理解する。てんかん、脳性麻痺を理解する。	小児の主な神経疾患を知る。	Ⅲ-17		
					てんかんについて説明できる。	Ⅲ-17		
3	4/17	鳥巢浩幸	ユニット 5 小児の発達障害	・発達障害を理解する	発達障害の特徴を説明できる。	Ⅲ-16	発達障害について調べておく	1.0
			ユニット 6 小児保健	・小児保健と学校保健を理解する。	小児保健・学校保健の概略を説明できる。	Ⅲ-22		
			ユニット 7 小児の事故 児童虐待	・小児の虐待について理解する。	小児虐待について説明できる。	I -6		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4	4/24	奥園清香	中間試験				これまでの復習をしておく 小児の心臓病について調べておく	1.0
			ユニット 8 小児の循環器疾患と血液疾患	・口腔内所見を認める血液疾患および感染症心内膜炎の病態を理解する。	先天性心臓病と感染性心内膜炎について説明できる。 血液疾患による主な口腔症状を理解し、対策を述べることができる。	Ⅲ-12 Ⅲ-12		
5	5/8	岡田賢司	ユニット 9 小児の感染症	・小児の主な感染症の症状、治療を理解する。	主な感染症の症状と治療を述べることができる。	Ⅲ-4	小児の感染症について調べておく	1.0
			ユニット10 予防接種	・予防接種の目的と主な予防接種を理解する。	予防接種の目的、種類と接種時期を述べることができる。	Ⅲ-22		
6	5/15	岡田賢司	ユニット 11 小児のアレルギーと呼吸器疾患	・小児期のアレルギー、呼吸器疾患の病態と治療を理解する。	口腔症状を呈する主なアレルギー疾患と呼吸器疾患の症状を述べる ことができる。	Ⅲ-12	アナフィラキシーについて調べておく	1.0
					アナフィラキシーなど小児の全身的偶発症の現状を理解し、その対策を述べる。	Ⅳ-13		
7	5/22	岡田賢司	ユニット 12 小児の免疫異常	・小児の免疫異常を理解する。	口腔症状を呈する主な免疫異常の病態を説明できる。	Ⅲ-4	気管支喘息について調べておく	1.0
			ユニット 13 小児の消化器疾患	・小児の主な消化器疾患の症状、治療を理解する。	主な消化器疾患で手術が必要なものを述べる ことができる。	Ⅲ-17		

隣接医学 I (形成・美容) 【講義】

科目番号 0D031311D

前期：3コマ

評価責任者：萩家康弘

担当教員：【形成・美容外科学】
萩家 康弘

(一般目標)

【形成・美容外科学】

- 1) 審美(美容)的に高度な歯科治療を要求される現状に対応できる歯科医師となるための基本的知識と治療法を習得する。
- 2) 拡大する美容医療・抗加齢医学の分野に適応できる歯科医師に必要な基本的知識を理解する。
- 3) 形成・審美(美容)的施術は特殊であり、これを行う際の心構えを身につける。
- 4) 専門的な知識を自分の言葉で正確に理解し客観試験でそれを評価する。

(獲得できるディプロマ・ポリシー [DP])

Ⅲ-2, Ⅲ-3, Ⅲ-5, Ⅲ-17, IV-1, IV-2, IV-3, IV-4

(教育方法)

【形成・美容外科学】

参考書に基づく講義を行なうが講義テーマ毎に資料をMoodleで配布しスライドを使用して、この範囲で試験を行い評価する。学生との質疑応答を取り入れた講義を中心とし 講義中に確認小テストを実施しつつ学生の理解を確認する。

(実習・演習)

(学習方法)

【形成・美容外科学】

講義前に参考書を読み、講義後、資料と参考書を併せて読む。 【単位修得に必要な授業外学習(予習・復習)時間： 4.0 時間】

(評価)

【形成・美容外科学】

講義中の小テストにより講義内容についての理解を各自整理し、これを客観試験に活用するようにして定期試験を行い評価する。評価判定後、評価結果を呈示する。

(教科書)

【形成・美容外科学】

なし

医科歯科共通で用いるに適した内容の書物がない

(参考書)

【形成・美容外科学】

- 1) 塩谷信幸 監修、真田弘美・他 編集：創傷治癒、ブレーン出版 2005年
- 2) 日本抗加齢医学会分科会 見た目のアンチエイジング研究会 編者：見た目のアンチエイジング 皮膚・容貌・体型の若返りの手法、文光堂 2011年
- 3) 日本抗加齢医学会専門医・指導医認定委員会 監修、吉川敏一・他 編集：アンチエイジング医学の基礎と臨床、メディカルビュー社 2004年
- 4) 秦 維郎・野崎幹弘 編集：標準形成外科学、医学書院 2008年

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	5/8	萩家康弘	【形成・美容外科学1】ユニット1 形成外科学 概論	形成外科の概念、歴史、基本手技を理解する。	RSTL (relaxed skin tension line) を説明する。	Ⅲ-2	参考書4) 総論1-I・総論2-1-Ⅲ・総論2-1-Ⅳ・総論2-II・各論2-5-I-A・各論2-7-I-A	1.5
					真皮縫合を説明する。	Ⅳ-4		
					表面縫合の種類を説明する。	Ⅳ-4		
			【形成・美容外科学1】ユニット1 形成外科学 概論（創傷治癒）	創傷治癒における、炎症期、増殖期、再構築期の現象を理解する。	創傷治癒のステージを説明する。	Ⅲ-5		
					各ステージに現れる細胞成分、液性増殖因子について述べる。	Ⅲ-2		
					創傷治癒を阻害する因子を説明する。	Ⅳ-2		
			【形成・美容外科学1】ユニット2 形成外科学（急性創傷と慢性創傷）	急性創傷と慢性創傷を理解し治療方法について習得する。	湿潤療法の概念を説明する。	Ⅳ-4		
					急性創傷に対する管理の基本を説明する。	Ⅳ-4		
					慢性創傷の問題点と治療法を説明する。	Ⅳ-4		
					創感染の病態と管理法を説明する。	Ⅳ-4		
			【形成・美容外科学1】ユニット2 形成外科学（組織欠損に対するアプローチ）	組織欠損に対する形成外科的アプローチを理解する。	植皮術や皮弁形成術について説明する。	Ⅳ-4		
					遊離皮弁とマイクロサージャリーを説明する。	Ⅳ-4		
2	5/29	萩家康弘	【形成・美容外科学2】ユニット3 抗加齢医学 概論（医科）	老化のメカニズムと治療のメカニズムを理解する。	抗加齢医学の目的を説明する。	Ⅲ-3	参考書2) 総論・各論2-1)・各論2-4) 参考書4) 各論2-9-I・各論3	1.5
					抗加齢医学の対象と範囲を説明する。	Ⅲ-5		
			【形成・美容外科学3】ユニット5 美容医療学 概論	美容医療・抗加齢医学的アプローチを理解する。	美容医療の概念と対象を説明する。	Ⅲ-3		
					皮膚の老化・老化度・シワ・タルミの診断・治療を説明する。	Ⅳ-1		
					再生医療（PRP注入を含む）を説明する。	Ⅳ-3		
3	6/5	萩家康弘	【形成・美容外科学3】ユニット6 美容医療学（皮膚科・形成外科学）	抗加齢医学的美容医療の実技を理解する。	注入療法（ボツリヌス毒素製剤を含む）を説明する。	Ⅲ-17	参考書2) 各論2-9-II-A・参考書4) 総論1-II・Ⅲ・各論2-7)・各論2-8)・各論4	1.0
					レーザー・光治療を説明する。	Ⅳ-4		
					サプリメントの最新知識を説明する。	Ⅳ-4		
			【形成・美容外科学3】ユニット7 美容医療学（美容外科学）	美容外科の臨床アプローチや基本手技を理解する。	審美的施術に臨む心構えを具体的に述べる。	Ⅳ-1		
					他の美容外科治療法を説明する。	Ⅳ-4		

隣接医学Ⅰ（皮膚科）【講義】

科目番号 OD031311A

前期：3コマ

評価責任者：古村南夫

担当教員：古村南夫、吉田舞子、伊地知亜矢子

（一般目標）

口腔粘膜病変には、①口腔だけにみられる病変、②皮膚疾患と関連のある病変、③全身性疾患の一つの症状として現れるものがある。全身性疾患に加えて皮膚疾患全般の基本的事項を修得することによって、形態的な分類が難しい口腔粘膜病変についての理解を深める。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-17

（教育方法）

教科書・プリント・カラスライドなどを用いて臨床講義形式で行う。

（ディスカッション・ディベート）

（学習方法）

予習・復習方法：授業前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：3.0 時間】

（評価）

定期試験による客観試験とする。5肢択一式問題を約10問出題する。
フィードバックとして、試験後に模範解答を掲示し、学生の自己採点を通して重要な知識の再確認を促す。

（教科書）

山根源之ほか 「第3版 歯科医のための皮膚科学」、医歯薬出版株式会社、2023
歯科医師および歯科医師国家試験受験に必要な皮膚科学に関連した知識が簡潔に解説されている。

（参考書）

1. 日野治子編著、口腔粘膜病変アトラス（口の中をのぞいてみよう！見えない病気が見えてくる）、秀潤社/Gakken、2018
小児・成人の口腔粘膜病変およびその周辺にあらわれる特徴的な症状とそれに付随する皮膚症状を供覧。
2. 全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議監修、口の中がわかる ビジュアル 歯科口腔科学読本、クインテッセンス出版、2017
口腔粘膜病変と関連した全身疾患、皮膚疾患の病態や鑑別診断のポイントが、臨床写真やイラストを多用して、わかりやすく簡潔に解説されている。基礎（解剖、機能）、検査・診断から疾患まで、歯科・口腔外科領域が広くカバーされており、必要な情報がすぐに確認できる。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	6/26	吉田舞子	ユニット1 皮膚の構造と機能、湿疹・皮膚炎、蕁麻疹・紅斑症、角化症・炎症性角化症	皮膚の構造・機能を理解する。皮膚の炎症や蕁麻疹、乾癬について理解する。	皮膚の構造・機能を説明する。口腔粘膜のアレルギー性疾患について説明する。小児・成人の口腔粘膜病変とそれに付随する皮膚症状について説明する。金属アレルギーの病態と症候について説明する。	Ⅲ-17	授業前に教科書の該当箇所を読む。総論1章、各論1-3、8章	1.0
2	6/26	伊地知亜矢子	ユニット2 膠原病、薬剤アレルギー、皮膚感染症、性病	皮膚の免疫疾患、アレルギーや皮膚感染症の病態を理解し、口腔粘膜疾患との関連を学ぶ。	皮膚疾患の種類・病態・治療を説明する。口腔症状を呈する薬剤アレルギー、膠原病、性病について説明する。	Ⅲ-17	授業前に教科書の該当箇所を読む。各論6、9、10、16-19、20章	1.0
3	7/3	古村南夫	ユニット3 皮膚粘膜腫瘍、母斑・母斑症、口腔内病変、水疱症・膿疱症	皮膚粘膜腫瘍の病態を理解し、皮膚疾患・全身疾患と関連した口腔粘膜疾患を学ぶ。	皮膚・粘膜腫瘍の種類・病態・治療を説明する。皮膚疾患と口腔粘膜疾患との関連性や全身疾患と口腔粘膜疾患の関連性について説明する。	Ⅲ-17	授業前に教科書の該当箇所を読む。各論7、12-14、21、22章	1.0

隣接医学Ⅰ（産婦人科）【講義】

科目番号 OD031311B

前期：3コマ

評価責任者：学生部長、学生部次長

担当教員：石田 智大（福岡大学）

（一般目標）

全体的視野を有する歯科医師の養成のために、医学の基礎的な領域の1つである産婦人科学の基本的事項を習得する。具体的には、生殖内分泌学、婦人科腫瘍学、周産期学の代表的疾患と、それらの理解に必要な生殖器解剖・生殖器生理について理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-2, Ⅲ-3, Ⅲ-4, Ⅲ-5, Ⅲ-17

（教育方法）

参考書・スライド・プリントによる講義

（学習方法）

授業前後に参考書の該当箇所を読むこと。

【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：3.0時間】

（評価）

記述試験（100％）評価判定後、掲示により成績通知を行う。

（教科書）

なし

（参考書）

丸尾猛、岡井崇 編集「標準産科婦人科学 第4版」医学書院

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	6/10	石田	ユニット3 婦人科概論 婦人科腫瘍学	女性性器の解剖学および生理学的特性を理解する。婦人科疾患の症候、診断方法、治療の概要を理解する。主たる婦人科腫瘍について、その徴候、進行期、診断方法、治療方法を理解する。	女性性器の構造を具体的に説明する。 女性性器の生理学的特徴を説明する。 子宮頸癌の徴候、進行期、治療法の概要を説明する。 子宮体癌の徴候、進行期、治療法の概要を説明する。 卵巣癌の徴候、進行期、治療法の概要を説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-2 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	参考書のP30からP83 参考書のP229からP239	1.0
2	6/10	石田	ユニット1 生殖内分泌（月経/不妊症総論） 婦人科感染症（性感染症/付属器炎）	健全な生殖現象の成立に必要な生理機能とこれを阻害する因子を知る。各種性感染症について、基礎的知識と蔓延の実態、予防や治療等について理解する。	視床下部一下垂体一卵巣系の内分泌学的調節機構について説明する。 排卵のしくみを理解し、卵巣機能障害や月経異常の原因、診断法、治療法を述べる。 不妊/不育症の原因、診断法、治療法を述べる。 性感染症の概念を説明する。 性感染症の概念を理解し、予防/治療法を説明する。	Ⅲ-2 Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅲ-4 Ⅲ-5	参考書のP1からP13, P18からP29, P245からP269 参考書のP101からP164	1.0
3	6/17	石田	ユニット2 産科学の基礎 産科検査法 周産期の管理	母体、胎児を含めた正常妊娠経過について理解する。胎児、胎盤検査法の意義について理解する。正常分娩経過、産褥経過について理解する。	妊娠に伴う母体の生理的变化について説明できる。 正常胎児発育について理解する。妊娠の診断法を説明できる。 産科超音波検査法について説明できる。 分娩監視装置による検査法の意義と異常所見を説明できる。 正常分娩の経過について説明できる。正常産褥の経過を説明できる。	Ⅲ-2 Ⅲ-3 Ⅲ-2 Ⅲ-17 Ⅲ-2	参考書のP288からP316 参考書のP411からP445 参考書のP446からP463, P526からP531	1.0

後 期

課題解決演習Ⅱ（地域医療・災害口腔医学）【演習】

科目番号 OD031001A

後期：2コマ

評価責任者：今井裕子

担当教員：今井裕子 堤貴司

（一般目標）

1. 自ら考え、実践を積み、それをフィードバックし、知識・実践知を系統立てて整理するために必要な基本的能力を育む
2. 異なった専門的背景を持つ職種間で、共有した目標に向けて協働するために必要な基本的能力を育む

◆地域医療・災害口腔医学

地域包括ケアシステムにおいて、医療チームの一員として医科歯科連携の実践のために、必要な知識・技能・態度を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

IV-17

（教育方法）

問題解決型実習（PBL）

（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）（その他AL）

（学習方法）

事前学習を行っていることを前提に進めるので、必ず事前に教科書・参考書・授業プリントを用いて予習を行うこと。また実習終了後は必ず重要事項の復習を行い、理解を定着させるよう努めること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 7.0 時間】

（評 価）

評価シートを用いての評価：評価後、コメントとともに返却

口頭試問による評価：試問中に適宜、コメント

観察記録による評価：評価後、コメントとともに返却

（教 科 書）

今井裕、岩渕博史 監修「有病者歯科学」第3版 永末書店 2024

全身疾患と歯科治療時の注意点についてわかりやすく解説されている。

（参 考 書）

西田百代 監修 「有病高齢者歯科治療のガイドライン（上・下）」 クインテッセンス出版 2013

全身疾患と歯科治療についてわかりやすく解説されている。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	12/12	今井裕子、 堤貴司	全身管理実習	全身疾患を有する患者への 歯科治療時の対応について 理解する	歯科治療時にリスクのある全身疾 患について説明する	IV-17	教科書・参考書の該当部分 を予習	4.0
					服用薬剤と歯科治療に用いる薬剤 との相互作用を説明する	IV-17		
2	12/12	今井裕子、 堤貴司	全身管理実習	全身疾患を有する患者への 歯科治療時の対応について 理解する	全身疾患を有する患者の歯科治療 のリスクについて評価する	IV-17	教科書・参考書の該当部分 を予習	3.0
					全身疾患を有する患者の急変時の 対応を説明する	IV-17		

課題解決演習Ⅱ（口腔保健学実習）【演習】

科目番号 OD031001B

後期：2コマ

評価責任者：谷口奈央

担当教員：谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、内藤麻利江、矢田部尚子

（一般目標）

1. 自ら考え、実践を積み、それをフィードバックし、知識・実践知を系統立てて整理するために必要な基本的能力を育む
2. 異なった専門的背景を持つ職種間で、共有した目標に向けて協働するために必要な基本的能力を育む

◆口腔保健学実習

口腔内の状態やリスク検査をもとに疾病リスクを予測し、それに応じた健康管理や予防処置を実践する基本的技能を身につける。また、健康行動を習慣化させる支援として、患者の行動変容のプロセスを理解し、その段階に応じた対応を行うための実践力を培う。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

IV-6

（教育方法）

相互実習、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、レポート
（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）

実習前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。与えられた課題を解決する。実習要領にしたがって担当ケースに習熟しておくこと。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：3.0時間】

（評価）

各ユニット毎の実習態度（30%）と成果物と提出レポート（70%）による評価を行う。

（教科書）

1. 安井利一、山下喜久、廣瀬公治、小松崎明、山本龍生、弘中祥司編、「口腔保健・予防歯科学 第2版」、医歯薬出版、2023

（参考書）

1. 高江洲義矩 監、深井穂博 編、「保健医療におけるコミュニケーション・行動科学 第2版」医歯薬出版、2021（歯学分野を中心とした執筆者によるコミュニケーション・行動科学の書籍である）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	12/8	谷口奈央、島津篤、藤本暁江、内藤麻利江、矢田部尚子	保健指導（課題解決演習）①	特定健診・特定保健指導における歯科の役割を理解する。	特定健診・特定保健指導における歯科の役割を説明できる。	IV-6	特定健診・特定保健指導	1.0
2	12/8	谷口奈央、島津篤、藤本暁江、内藤麻利江、矢田部尚子	保健指導（課題解決演習）②	生活習慣の改善に向けた歯科からの保健指導を理解する。	食生活改善に向けた歯科からの保健指導を説明できる。	IV-6	動機づけ面接、行動変容、保健指導	2.0

課題解決演習Ⅱ（歯冠修復基礎実習）【演習】

科目番号 OD031001C

後期：2コマ

評価責任者：松浦尚志

担当教員：松浦尚志、加我公行

（一般目標）

1. 自ら考え、実践を積み、それをフィードバックし、知識・実践知を系統立てて整理するために必要な基本的能力を育む
2. 異なった専門的背景を持つ職種間で、共有した目標に向けて協働するために必要な基本的能力を育む

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-9,Ⅳ-7

（教育方法）

問題解決型実習(PBL)

印刷物として提示された症例の資料をステップごとに手渡し、グループで討論する。

（グループワーク）（実習・演習）

（学習方法）

ステップごとの課題についてグループで討論して、グループごとの結論を見出す。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）

時間： 2.0 時間】

（評 価）

実習態度（50%）

毎回の実習達成度（50%）

課題解決演習Ⅱの総合評価をポータルサイトで掲示する。

（教 科 書）

會田雅啓ほか 「冠橋義歯補綴学 第3版」、永末書店

歯科補綴学専門用語集 第5版、医歯薬出版

（参 考 書）

Rosenstielほか「Contemporary Fixed Prosthodontics, 5th ed.」, Mosby 日本語訳もある。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	12/19	松浦尚志、 加我公行	ユニット1 クラウンの種類と適応症例	クラウンの種類と適応症例について理解する。	症例に応じたクラウンの種類を選択できる。	Ⅲ-9	実習書の内容を確認しておく。	1.0
2	12/19	松浦尚志、 加我公行	ユニット2 クラウンの設計と技工操作	クラウンの設計と技工操作について理解する。	クラウンの製作にかかわる技工操作について説明できる。	Ⅳ-7	実習書の内容を確認しておく。	1.0

課題解決演習Ⅱ（基礎研究演習）【演習】

科目番号 OD031001D

後期：2コマ

評価責任者：基礎医歯学部部長

日高真純、谷口奈央、梅津桂子、田中芳彦、都留寛治
 稲井哲一朗、藤田亜美、八田光世、北尾洋之、島津 篤
 林 道夫、橋口一成、永尾潤一、丸田道人、児玉 淳
 担当教員：大谷崇仁、鍛冶屋浩、藤兼亮輔、飯森真人、藤本暁江
 内藤麻利江、梶本 昇、佐藤 平、林 慶和、吉本尚平
 和田 裕子、進 正史、矢田部尚子、谷口 卓、岸川咲吏
 豊永憲司、二階堂美咲、長岡良礼、武石幸容

（一般目標）

1. 自ら考え、実践を積み、それをフィードバックし、知識・実践知を系統立てて整理するために必要な基本的能力を育む
2. 異なった専門的背景を持つ職種間で、共有した目標に向けて協働するために必要な基本的能力を育む

◆基礎研究演習

基礎研究室において、研究の基本を体験するとともに、生命科学や医療技術の成果を学び、病因、病態を解明するなどの研究マインドを育成する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

I-8

（教育方法）

パワーポイントを用いた研究成果の公表

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）

小グループごとに公開発表会前に研究演習の成果をまとめる。

【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 7.0 時間】

（評価）

パワーポイントを用いた研究成果の公表結果を評価する。

各研究室での研究活動内容は、公開発表会にて学生全員並びに教員へ公表される。

（教科書）

配属研究室で別途指定する。

（参考書）

配属研究室で別途指定する。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	10/10	[1回] 基礎医歯学部部長、担当教員	ユニット1 研究成果の発表と議論の重要性の理解 （課題解決演習Ⅱ）	研究成果をまとめて、多数の聴衆に向けて公表し、質疑応答をおこなう。	小グループごとに研究内容を要約し、全体に向けて発表できる。	I-8	[1回] 小グループごとに公開発表会前に研究演習の成果をまとめる。	[1] 7.0
2	10/10				研究、実験データや新たな課題について他の学生（研究者）とディスカッションできる。	I-8		

臨床薬理学 【講義】

科目番号 0D031115

後期：15コマ

評価責任者：八田光世

担当教員：八田光世、長岡良礼

（一般目標）

医科および歯科疾患の治療に繁用される薬物の薬理作用・副作用、薬物動態、薬物相互作用を理解すると共に、薬物・医薬品の適正使用に関する知識を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

I-2, I-3, III-2, III-17, III-20

（教育方法）

教科書と配布資料を利用したパワーポイントによる講義を行う。

（実習・演習）

（学習方法）

【予習方法】授業前に教科書の該当箇所を読むこと。

【復習方法】授業後に教科書、配布資料、学習ノートを用いて講義内容を復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：17.0時間】

（評価）

【評価方法】

中間試験（25%）：ユニット1-6を範囲とする。

定期試験（75%）：ユニット1-6を範囲とする。

各ユニットでの小テストやレポート（他提出物）に対しての配点は上記の試験点数に含める。また、授業態度や出欠状況についても考慮に入れる。

【学生へのフィードバックの時期と方法】

各試験終了後に成績を通知する。

（教科書）

鈴木 邦明監修 「現代歯科薬理学」第7版 医歯薬出版 2024年

（薬理学に関する基本的事項及び歯科医療における標準的な薬物治療に必要な知識についてわかりやすく解説している。）

（参考書）

大浦 清ら編 「ポイントがよくわかるシンプル歯科薬理学 第3版」 永末書店 2023年

（理解しやすいように内容が簡潔にまとめられている。覚えるべき重要事項や薬物が示されており、理解度を図るための練習問題も設けられている。）

田中 千賀子ら編 「NEW薬理学 改訂第7版」南江堂 2017年

（作用メカニズム、分子薬理学などを中心に充実している。）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/2	八田	ユニット1 抗感染症薬	感染症の治療に用いられる薬物の分類、作用機序、薬理作用や副作用を理解する。	抗菌薬の選択毒性、抗菌特性（殺菌作用・静菌作用、濃度依存性・時間依存性）、菌交代現象、薬剤耐性<AMR>を説明できる。	III-20	教科書 p. 279-287を読む。	1.0
					β-ラクタム系抗菌薬（ペニシリン系、セフェム系など）について説明できる。	III-20		
2	9/9	八田	ユニット1 抗感染症薬	感染症の治療に用いられる薬物の分類、作用機序、薬理作用や副作用を理解する。	アミノグリコシド系抗菌薬、マクロライド系抗菌薬、テトラサイクリン系抗菌薬、クロラムフェニコールについて説明できる。	III-20	教科書 p. 288-295を読む。	1.0
					ニューキノロン系抗菌薬、グリコペプチド系抗菌薬、抗結核薬について説明できる。	III-20		
					小児、妊婦、高齢者および有病者に対する抗菌薬使用上の注意および菌性感染症に対する抗菌薬の選択について説明できる。	III-20		
3	9/11	八田	ユニット1 抗感染症薬	感染症の治療に用いられる薬物の分類、作用機序、薬理作用や副作用を理解する。	抗真菌薬の分類、作用機序および使用上の注意について説明できる。	III-20	教科書 p. 296-305を読む。	1.0
					抗ウイルス薬の分類、作用機序および使用上の注意について説明できる。	III-20		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4	9/16	長岡	ユニット2 抗腫瘍薬	悪性腫瘍の治療に用いられる薬物の分類、作用機序、薬理作用や副作用を理解する。	悪性腫瘍と化学療法について説明できる。	Ⅲ-20	教科書 p. 225-235を読む。	1.0
					細胞周期と抗腫瘍薬の分類・作用点について説明できる。	Ⅲ-20		
					抗腫瘍薬に特徴的な副作用について説明説明できる。	Ⅲ-20		
5	10/7	長岡	ユニット2 抗腫瘍薬	悪性腫瘍の治療に用いられる薬物の分類、作用機序、薬理作用や副作用を理解する。	アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍性抗生物質について説明できる。	Ⅲ-20	教科書 p. 225-235を読む。	1.0
					微小管阻害薬、白金化合物、ホルモン類、分子標的治療薬について説明できる。	Ⅲ-20		
6	10/14	長岡	ユニット3 唾液腺作用薬および和漢薬	口腔乾燥症の治療に用いられる薬物や歯科適応のある和漢薬の薬理作用や副作用を理解する。	唾液の分泌機構を理解する。	Ⅲ-20	教科書 p. 323-329, 351-360を読む。	1.0
					口腔乾燥症の治療に用いられる薬物を説明できる。	Ⅲ-20		
					歯科で使用される和漢薬とその適応を説明できる。	Ⅲ-20		
7	10/21	長岡	ユニット4 代謝および免疫に作用する薬物	代謝性疾患（骨粗鬆症、糖尿病、脂質異常症）の治療や免疫系の調節に用いられる薬物の薬理作用や副作用を理解する。	骨代謝と骨粗鬆症について理解する。	Ⅲ-17	教科書 p. 239-250を読む。	1.0
					血中カルシウム濃度を調節するホルモン、骨芽細胞、破骨細胞の働きを理解する。	Ⅲ-2		
					骨粗鬆症治療薬の分類、作用機序および使用上の注意について説明できる。	Ⅲ-20		
8	10/28	八田	ユニット4 代謝および免疫に作用する薬物	代謝性疾患（骨粗鬆症、糖尿病、脂質異常症）の治療や免疫系の調節に用いられる薬物の薬理作用や副作用を理解する。	血糖調節と糖尿病について理解する。	Ⅲ-17	教科書 p. 236-239, 250-252を読む。	1.0
					インスリン製剤、経口糖尿病薬の分類、作用機序および使用上の注意について説明できる。	Ⅲ-20		
					リポタンパク質代謝機構と脂質異常症について理解する。	Ⅲ-17		
					脂質異常症治療薬の分類、作用機序および使用上の注意について説明できる。	Ⅲ-20		
9	11/4	八田	ユニット4 代謝および免疫に作用する薬物	代謝性疾患（骨粗鬆症、糖尿病、脂質異常症）の治療や免疫系の調節に用いられる薬物の薬理作用や副作用を理解する。	免疫と自己免疫疾患について理解する。	Ⅲ-17	教科書 p. 215-224を読む。	1.0
					免疫抑制薬、免疫賦活薬の分類、作用機序および使用上の注意について説明できる。	Ⅲ-20		
					アレルギー治療薬の分類、作用機序および使用上の注意について説明できる。	Ⅲ-20		
10	11/11	八田	ユニット5 薬物の副作用・有害作用・相互作用	薬物の副作用・有害作用および薬物併用による相互作用について理解する。	口腔領域に現れる副作用・有害作用（歯肉増殖症、口腔乾燥症、歯の形成不全・着色、味覚異常など）と原因薬物について説明できる。	Ⅲ-20	教科書 p. 36-50を読む。	1.0
					薬物の一般的な副作用・有害作用とその対応について説明できる。	Ⅲ-20		
					薬物併用あるいは嗜好品との相互作用について説明できる。	Ⅲ-20		
11	11/18	八田	ユニット6 医薬品の適正使用の理解	薬物の連用、薬効に影響する要因、医薬品の開発、薬物・医薬品の法規制について理解する。	薬物の連用による影響（耐性、依存、蓄積など）を説明できる。	Ⅲ-20	教科書 p. 25-35, 51-56を読む。	1.0
					薬効に影響を及ぼす因子（生体側および薬剤側）について説明できる。	Ⅲ-20		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
12	11/25	八田	ユニット6 医薬品の適正使用の理解	薬物の連用、薬効に影響する要因、医薬品の開発、薬物・医薬品の法規制について理解する。	医薬品開発の臨床試験（GCP、二重盲検法、プラセボなど）について説明できる。 医薬品医療機器等法（劇薬、毒薬、特定生物由来製品など）、日本薬局方、その他の関連法規（麻薬および向精神薬取締法など）について説明できる。 医薬品医療機器総合機構（PMDA）が提供する医薬品情報（添付文書など）を活用することの重要性について理解する。 処方箋の役割と記載事項、服薬指導（コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス）について説明できる。 医薬品による健康被害、薬害についての情報を共有する。	I-3 I-3 I-2 I-3 I-2	教科書 p.60-71を読む。	1.0
13	12/2	八田、長岡	まとめ授業1	臨床薬理学（ユニット1-6の内容）について知識・理解を深める。	ユニット1-6について演習課題を達成する。	Ⅲ-20	ユニット1-6を復習する。	2.0
14	12/9	八田	中間試験	—	中間試験にてユニット1-6の学習目標の到達度を評価する。	Ⅲ-20	臨床薬理学（ユニット1-6）を復習する。	2.0
15	12/16	八田	まとめ授業2	薬理学全般について知識・理解を確認する。	薬理学全般について重要事項を確認し、知識を整理する。	Ⅲ-20	薬理学全般について復習する。	1.0

基礎研究演習 【演習】

科目番号 0D031110

後期： 21コマ
評価責任者： 基礎医歯学部門長
日高真純、谷口奈央、梅津桂子、田中芳彦、都留寛治
稲井哲一朗、藤田亜美、八田光世、北尾洋之、島津 篤
林 道夫、橋口一成、永尾潤一、丸田道人、児玉 淳
担当教員： 大谷崇仁、鍛冶屋浩、藤兼亮輔、飯森真人、藤本暁江
内藤麻利江、梶本 昇、佐藤 平、林 慶和、吉本尚平
和田 裕子、進 正史、矢田部尚子、谷口 卓、岸川咲吏
豊永憲司、二階堂美咲、長岡良礼、武石幸容

（一般目標）
基礎研究室において、研究の基本を体験するとともに、生命科学や医療技術の成果を学び、病因、病態を解明するなどの研究マインドを育成する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）
I-2, I-7, I-8

（教育方法）
研究倫理についてのプリント、コンピュータプロジェクションを用いた講義
小グループによる研究演習：9/29（月）～10/3（金）の5日間のうち、グループごとに定められた4日間の1限目～5限目
研究成果のレポート作成ならびにプレゼンテーション
（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）
研究倫理についてインターネットなどから情報を得ておく。
予め、配属学生に対して研究活動内容を連絡する。それに基づき、研究室ごとに研究活動を体験するために必要な予備知識を得る。
小グループごとに研究演習の成果をまとめる。
【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 3.0 時間】

（評 価）
研究倫理講義についてのレポート提出をユニット1の成績として、全成績の10%に算入する。レポートは後日返却する。
研究演習レポート、発表、態度などをもとにした、同一研究室に配属された学生間での相対評価をおこない、ユニット2の成績として全成績の90%に算入する。

（教 科 書）
配属研究室で別途指定する。

（参 考 書）
配属研究室で別途指定する。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/26	基礎医歯学部門長、研究倫理教育責任者	ユニット1 学部学生が口腔医学研究を体験する意義と研究上の行動規範の理解	学部学生が口腔医学研究を体験する意義と研究者に求められる行動規範を理解する。	学部学生が研究の基本を体験することの意義について説明する。 研究倫理違反の具体的事例に照らして、社会に対する科学者の基本的責任と姿勢を説明できる。 特定研究不正行為（ねつ造、改ざん、盗用）を説明できる。	I-8 I-2 I-2	研究倫理についてインターネットで調べておく。	0.6
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21		各研究室教員	ユニット2 研究室配属による口腔医学研究に必要な基本的事項の体験	生命科学の講義・実習で得た知識をもとに研究課題を設定し、課題の解決に向けて科学的な研究を体験する。	研究手法や研究・実験に用いる機器の操作、実験動物の扱い方などを説明できる。 情報図書館やインターネットを利用して、興味ある科学論文に関連する文献を検索できる。 小グループごとに研究テーマを挙げ、研究目的を説明できる。 仮説を設定して解決に向けた科学的な研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）を体験する。	I-7 I-7 I-8 I-8	研究室ごとの研究活動内容に基づき、必要な予備知識を得る。	2.4

社会歯科学 【講義】

科目番号 OD031116

後期：20コマ

評価責任者：島津 篤

担当教員：島津 篤、谷口奈央、矢田部尚子、藤本暁江、永嶋 哲也

（一般目標）

社会保障の一翼を担う歯科医師になるため、「国民の健康で文化的な生活を保障するために社会保障制度があり、社会保障制度を円滑に運営するために協働する職種の一つが歯科医師である」ことを認識する。歯科医師が多様な業務を担っていることを理解し、業務を通じて社会にいかに関与しているかを評価する。自身が歯科医師になってから社会にどのように貢献できるかを考察する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

I -1, I -2, III-22, V-5

（教育方法）

教科書と配布資料を利用したパワーポイントに講義を中心に行うが、e-learningシステム(Moodle)、学生参加型知識確認授業・グループディスカッション・PBL・協調・協同学習・体験学習・調査学習・ディベート・反転授業の方法を取り入れることがある。（その他AL）

（学習方法）

授業前後に下記予習の項目にある教科書や参考書の該当箇所を読むこと 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：40.0 時間】

（評 価）

定期試験（80～100%）ならびに各授業毎の受講態度および必要に応じた課題評価（0～20%）による評価を行う。総合評価はポータルサイトで掲示する。なお試験終了後、希望する者には講義資料および教科書を用いてフィードバックする。

（教 科 書）

1. 石井拓男、尾崎哲則、平田創一郎、平田幸夫、山本龍生編、「スタンダード社会歯科学」、学研書院、
2. 安井利一、宮崎秀夫、鶴本明久、川口陽子、山下喜久、廣瀬公治編、「口腔保健・予防歯科学」、医歯薬出版、
3. 安井利一、尾崎哲則、埴岡 隆、森田 学、山下喜久、岸 光男、嶋崎義浩編、「新編衛生学・公衆衛生学」、医歯薬出版、

（参 考 書）

1. 社会歯科学会 「歯科六法コンメンタール第3版」 ヒョーロン 2024
2. 医療情報科学研究所 「公衆衛生がみえる2024-2025」 メディックメディア 2024

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/1	島津	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	衛生行政と我が国の社会保障制度の概要について説明する。	III-22	日本の医療提供体制の概要	2.0
2	9/4	島津	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	地域保健における歯科医師の役割について説明する。	III-22	地域保健	2.0
3	9/8	谷口	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	児童福祉・母子保健における歯科医師の役割について説明する。	III-22	母子保健・児童福祉	2.0
4	9/11	谷口	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	学校教育・学校保健における歯科医師の役割について説明する。	III-22	学校保健	2.0
5	9/18	谷口	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	成人保健における歯科医師の役割について説明する。	III-22	成人保健	2.0
6	9/22	谷口	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	労働者保護・産業保健における歯科医師の役割について説明する。	III-22	労働者保健・産業保健	2.0
7	9/25	島津	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	高齢者福祉における歯科医師の役割について説明する。	III-22	高齢者の保健・福	2.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
8	10/9	島津	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	障害者福祉・保健における歯科医師の役割について説明する。	Ⅲ-22	障害者の保健・医療・福祉	2.0
9	10/16	矢田部	医療職	医療に関わる職種について理解する。	期待される歯科医師像について説明する。	I-1	歯科医師法	2.0
10	10/23	島津	医療職	医療に関わる職種について理解する。	歯科衛生士や歯科技工士との連携について説明する。	I-1	歯科技工士法・歯科衛生士法	2.0
11	10/30	島津	医療職	医療に関わる職種について理解する。	助産師、保健師、看護師、言語聴覚士、診療放射線技師、臨床検査技師との連携について説明する。	I-1	その他医療保健従事者、助産師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	2.0
12	11/6	藤本	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	薬機法、G C P、医薬品医療機器総合機構について説明する。	V-5	薬機法・治験・臨床試験	2.0
13	11/10	島津	社会保障制度・医療保険制度	社会保障制度について理解する。	我が国の社会保障制度の概要について説明する。	V-5	社会保障制度	2.0
14	11/13	島津	社会保障制度・医療保険制度	社会保障制度について理解する。	我が国の社会保障制度の概要について説明する。	V-5	医療法1；病院診療所・情報提供	2.0
15	11/20	島津	医療施設	医療を提供する体制について理解する。	医療提供の理念について説明する。	V-5	医療法2；医療の安全の確保	2.0
16	11/27	島津	医療施設	医療を提供する体制について理解する。	地域医療構想・医療介護総合確保推進法について説明する。	V-5	医療法3；地域医療構想・医療介護総合確保推進法	2.0
17	12/4	永嶋	医療職	医療に関わる職種について理解する。	歯科医師として具備すべき医療倫理について説明する。	I-2	歯科医師と医療倫理	2.0
18	12/8	島津	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	超高齢社会の保健・医療・福祉の制度について説明する。	V-5	健康増進法・歯科口腔保健の推進に関する法律	2.0
19	12/11	島津	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	超高齢社会の保健・医療・福祉の制度について説明する。	V-5	地域包括ケアシステム	2.0
20	12/15	島津	福祉と保健の制度	福祉と保健の制度について理解する。	国際保健について説明する。	V-5	国際歯科保健	2.0

医事法制 【講義】

科目番号 OD031117

後期：15コマ

評価責任者：学生部長、島津 篤

担当教員：奥田 貴介

（一般目標）

社会生活における様々な人間関係を法律関係として認識・理解できる素養を身につけ、歯科医師と患者との関係を法的に整理・把握できるようになるとともに、歯科医師に関する法律関係を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

I-3, I-4, I-5, II-1, II-2

（教育方法）

適宜設例を交え、板書を多用しながら講義する。

（学習方法）

授業を聞き、新聞報道等で歯科及び医科についての事件・事故等の事案に興味を持ち、接すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0 時間】

（評価）

定期試験 (80%)

授業出席 (10%)

授業態度 (10%)

評価判定後、評価結果を呈示する。

（教科書）

未定

（参考書）

未定

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/4	奥田	ユニット1 法体系の構造	法とは何かを理解する。	国内で通用する法の種類について説明できる。	II-1	国内で通用する「法」にはどのようなものがあるか調べる	1.0
2	9/11	奥田	ユニット1 法体系の構造	憲法と法律の意義を知り、公法と私法、実体法と手続法の別を理解する。	憲法の意義を説明できる。	II-1	憲法の意義、公法と私法、実体法と手続法について調べる	1.0
3	9/18	奥田	ユニット1 法体系の構造	憲法と法律の意義を知り、公法と私法、実体法と手続法の別を理解する。	公法と私法、実体法と手続法との違いを説明できる。 具体的な違法行為を例に、法の適用について説明できる。	II-1 II-1	憲法の意義、公法と私法、実体法と手続法について調べる	1.0
4	9/25	奥田	ユニット2 医療行為の法的性質 契約関係としての医療行為	刑罰法規の構成と適用、被害者の承諾を理解する。	刑罰法規の構成と適用を述べる。 医療行為がなぜ傷害罪とならないのかについて説明できる。	II-1 I-4	刑罰法規の構成と適用を調べる	1.0
5	10/9	奥田	ユニット2 医療行為の法的性質 契約関係としての医療行為	契約に基づく法律関係、基づかない法律関係を理解する。行政法規を理解する。	契約に基づく法律関係と契約に基づかない法律関係を具体的例を挙げて説明できる。 行政法規について具体例を挙げて説明できる。	II-2 II-1	契約に基づく法律関係と契約に基づかない法律関係と、行政法規の具体例を調べる	1.0
6	10/16	奥田	ユニット2 医療行為の法的性質 契約関係としての医療行為	契約関係に基づく法律関係、契約の成立と効果について具体的に述べる。	契約の成立要件と効果を説明できる。	II-2	契約関係に基づく法律関係、契約の成立と効果について調べる	1.0
7	10/23	奥田	ユニット3 医療契約	医療契約の成立とその効果を理解する。	医療契約の成立要件と効果を説明できる。	I-5	医療契約について調べる	1.0
8	10/30	奥田	ユニット4 法律で見る医療行為	医療契約上の医師の義務、歯科医師に求められる「倫理論」について	医療契約上の医師の義務を説明できる。	I-4	医療契約上の医師の義務について調べる	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
9	11/6	奥田	ユニット5 歯科医師法	歯科医師資格に関する規定を知る。	歯科医師資格の目的を述べる。	I-4	歯科医師資格に関する規定について調べる	1.0
					歯科医師の業務に関する規定の内容を説明できる。	I-4		
10	11/13	奥田	ユニット5 歯科医師法	歯科医師に対する行政処分について理解する。	歯科医師に対する行政処分の種類を説明できる。	I-4	義務違反による歯科医師資格への影響について調べる	1.0
					歯科医師資格に対する行政処分の考え方を説明できる。	I-4		
11	11/20	奥田	ユニット6 健康保険法、 歯科衛生士法、 歯科技工士法	健康保険法・歯科衛生士法・歯科技工士法について理解する。	健康保険の概要について説明できる。	I-3	歯科衛生士法・歯科技工士法・健康保険法・医療法について調べる	1.0
					歯科衛生士の資格、業務について説明できる。	I-3		
					歯科技工士の資格、業務について説明できる。	I-3		
12	11/27	奥田	ユニット7 医療法	医療法について概要を理解する。	医療計画、医療施設、広告、医療法人等について説明できる。	I-3	医療施設、広告、医療法人について調べる	1.0
13	12/4	奥田	ユニット8 歯科医師のトラブル ケーススタディ	歯科医師が直面しうるトラブルについて具体的事例を知る。	トラブルの具体的事例について問題点を理解する。	I-5	歯科医師が直面しうる法的トラブルについて調べる。	1.0
14	12/11	奥田	ユニット9 医事紛争 ケーススタディ	具体的事例を知る。	医事紛争の具体的事例につき、問題点を理解する。	I-5	医事紛争の具体的事例について調べ、問題点を考える	1.0
15	12/18	奥田	ユニット10 医事紛争 ケーススタディ	医事紛争の解決方法を考察する。	医事紛争を予測し予防する手段を説明できる。	I-4	医事紛争の予防と解決方法について考える	1.0
					医事紛争の解決方法を具体的に述べる。	II-2		

口腔保健学実習 【実習】

科目番号 OD031213

後期：15コマ

評価責任者：谷口奈央

担当教員：谷口奈央、島津 篤、藤本暁江、内藤麻利江、矢田部尚子、岡田彩子
安藤昌俊（インディアナ大学）

（一般目標）

口腔内の状態やリスク検査をもとに疾病リスクを予測し、それに応じた健康管理や予防処置を実践する基本的技能を身につける。また、健康行動を習慣化させる支援として、患者の行動変容のプロセスを理解し、その段階に応じた対応を行うための実践力を培う。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

IV-6, IV-10, VI-2

（教育方法）

相互実習、実験、ディスカッション、課題解決

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）

実習前後に下記教科書や参考書の該当箇所を読むこと。与えられた課題を解決する。実習要領にしたがって担当ケースに習熟しておくこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0 時間】

（評価）

各ユニット毎に実習態度と実習帳レポート評価のフィードバック（40%）および実習試験（60%）による評価を行う。

（教科書）

1. 安井利一、山下喜久、廣瀬公治、小松崎明、山本龍生、弘中祥司編、「口腔保健・予防歯科学 第2版」、医歯薬出版、2023
2. 安井利一、尾崎哲則、埴岡 隆、森田 学、山下喜久、岸 光男、嶋崎義浩編、「新編衛生学・公衆衛生学」、医歯薬出版、2021
3. 3年生口腔保健学実習帳

（参考書）

1. 日本口腔衛生学会編、「フッ化物応用の科学 第2版」、口腔保健協会 2018
（フッ化物の応用に必要な知識を解説している）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	10/20	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利江、 矢田部尚子、 岡田彩子	ユニット1 歯・口腔の健康指標	歯科疾患の数量評価法を理解する。	口腔の健康診査を説明できる。	IV-6	歯科疾患の数量評価法、口腔の健康診査、口腔疾患のリスク診断	1.0
2	10/20	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利江、 矢田部尚子、 岡田彩子	ユニット1 歯・口腔の健康指標	歯科疾患の数量評価法を理解する。	口腔の健康診査を説明できる。	IV-6	歯科疾患の数量評価法、口腔の健康診査、口腔疾患のリスク診断	1.0
3	10/20	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利江、 矢田部尚子、 岡田彩子	ユニット1 歯・口腔の健康指標	歯科疾患の数量評価法を理解する。	口腔疾患のリスク診断を説明できる。	IV-6	歯科疾患の数量評価法、口腔の健康診査、口腔疾患のリスク診断	1.0
4	10/27	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利江、 矢田部尚子、 岡田彩子	ユニット2 う蝕の予防、フッ化物応用	う蝕の予防、特にフッ化物の応用について理解する。	う蝕のリスク検査、初期う蝕の検査を説明できる。	IV-6	う蝕の予防、特にフッ化物の応用	1.0
5	10/27	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利江、 矢田部尚子、 岡田彩子	ユニット2 う蝕の予防、フッ化物応用	う蝕の予防、特にフッ化物の応用について理解する。	う蝕のリスク検査、初期う蝕の検査を説明できる。	IV-6	う蝕の予防、特にフッ化物の応用	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	10/27	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利 江、矢田部 尚子、岡田 彩子	ユニット2 う蝕の予防、 フッ化物応用	う蝕の予防、特にフッ化物 の応用について理解する。	う蝕予防法、特に、フッ化物応用 法の実施を説明できる。	IV-10	う蝕の予防、特にフッ化物 の応用	1.0
7	11/10	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利 江、矢田部 尚子、岡田 彩子	ユニット3 ブラークコン トロール	ブラークコントロールにつ いて理解する。	歯口清掃の各種指数による検査を 説明できる。	IV-6	ブラークコントロール	1.0
8	11/10	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利 江、矢田部 尚子、岡田 彩子	ユニット3 ブラークコン トロール	ブラークコントロールにつ いて理解する。	歯口清掃の各種指数による検査を 説明できる。	IV-6	ブラークコントロール	1.0
9	11/10	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利 江、矢田部 尚子、岡田 彩子	ユニット3 ブラークコン トロール	ブラークコントロールにつ いて理解する。	ブラッシング方法および化学的清 掃法を説明できる。	IV-6	ブラークコントロール	1.0
10	11/17	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利 江、矢田部 尚子、岡田 彩子	ユニット4 口臭、歯周病 の予防	口臭および歯周病の検査、 予防、管理について理解す る。	口臭検査、歯周組織のリスク検査 ができる。	IV-6	口臭および歯周病の検査、 予防、管理	1.0
11	11/17	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利 江、矢田部 尚子、岡田 彩子	ユニット4 口臭、歯周病 の予防	口臭および歯周病の検査、 予防、管理について理解す る。	口臭検査、歯周組織のリスク検査 ができる。	IV-6	口臭および歯周病の検査、 予防、管理	1.0
12	11/17	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利 江、矢田部 尚子、岡田 彩子	ユニット4 口臭、歯周病 の予防	口臭および歯周病の検査、 予防、管理について理解す る。	口臭・歯周病予防のセルフケアを 説明できる。	IV-6	口臭および歯周病の検査、 予防、管理	1.0
13	12/1	安藤昌俊 （インディ アナ大学）	ユニット5 予防歯科の実 践	予防歯科の実践を理解す る。	予防歯科の実践を説明できる。	VI-2	臨床予防歯科の実践（カリ オロジー）	1.0
14	12/1	安藤昌俊 （インディ アナ大学）	ユニット5 予防歯科の実 践	予防歯科の実践を理解す る。	予防歯科の実践を説明できる。	VI-2	臨床予防歯科の実践（カリ オロジー）	1.0
15	12/8	谷口奈央、 島津 篤、 藤本暁江、 内藤麻利 江、矢田部 尚子、岡田 彩子	ユニット5 予防歯科の実 践	予防歯科の実践を理解す る。	予防歯科の実践を説明できる。	VI-2	実習試験、予防歯科の実践	1.0

地域医療・災害口腔医学 【演習】

科目番号 OD031214

後期：29コマ
評価責任者：今井裕子
今井裕子 堤貴司
児玉淳
玉置幸雄 石井太郎 國見亮太
香川豊宏
森田浩光 田崎園子

担当教員：
*非常勤：佐藤慶太（鶴見大学）
*非常勤：田口則宏（鹿児島大学）
*非常勤：二木寿子（浜の町病院）
*非常勤：末永陽子（下関市立大学）
内田竜司
その他演習のため増員

（一般目標）

地域包括ケアシステムにおいて、医療チームの一員として地域医療・災害時医療・災害時の身元確認（歯科法医学）に貢献できる歯科医療の実践のために、必要な知識・技能・態度を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-24,Ⅳ-14,Ⅳ-17,Ⅴ-3

（教育方法）

教科書、参考書、プリントを中心とした講義と災害時の身元確認（歯科法医学）・歯科医療支援および全身管理についての実習（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（実習・演習）（その他AL）

（学習方法）

講義は事前学習を行っていることを前提に進めるので、必ず事前に講義内容を確認し、教科書・参考書を用いて予習を行うこと。また講義終了後は必ず重要事項の復習を行い、理解を定着させるよう努めること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 28.0 時間】

（評価）

定期客観試験（80%）、出席、授業・実習態度、レポート（20%）
試験に関しては、結果発表後掲示を行う。

（教科書）

①災害医学 2009年 第2版 南山堂
国内外を問わず津波、地震、列車事故、戦争等、大きな災害を経験し、災害に対する危機管理が行政、医療現場、関係職種の人々に浸透してきている。本書は前版の啓蒙的なニュアンスから脱却し、更に1歩前進させた内容となっている。災害現場の特殊性、教育、病院における備え、対処法などはもちろん、心得ておかなければならない知識やテクニックが具体的に網羅されている。
②槻木恵一、中久木康一 編「災害歯科医学」医歯薬出版 2018
災害時医療支援・歯科保健医療支援についてわかりやすく解説されている。
③日本歯科医療管理学会 編「歯科医療管理 医療の質と安全確保のために」医歯薬出版 2011
チーム医療についてわかりやすく解説されている。
⑤今井裕、岩淵博史 監修「有病者歯科学」第3版 永末書店 2024
全身疾患と歯科治療時の注意点についてわかりやすく解説されている。

（参考書）

①澤口彰子、一杉正仁 ほか 共著 「臨床のための法医学（第6版）」 朝倉出版 2010
②臨床のための法医学：改訂6版：朝倉出版2010年
③法歯科医学基礎知識から臨床・災害時の対応まで：永末書店2017年
④西田百代 監修 「有病高齢者歯科治療のガイドライン（上・下）」 クインテッセンス出版 2013
全身疾患と歯科治療についてわかりやすく解説されている。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/5	森田浩光	災害の実態、災害時の医療、災害と法	災害の実態、災害時医療に、災害に関する法律について理解する	災害の種類と規模および継続的変化（フェーズ）を説明する 災害支援の必要性を説明する 災害に関する法律を列挙する トリアージ（START法）について説明する 災害時の医療情報収集について説明する 災害時の組織運営について説明する	Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
2	9/5	今井裕子	全身疾患を有する患者への対応 ¹	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（腎疾患・肝疾患）に対する歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について理解する	腎疾患患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
					肝疾患患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17		
3	9/12	佐藤慶太	歯科法医学の社会的役割	法の意義、医療と法の関係を理解する	法の定義を説明できる	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（死と死体現象について）	0.5
					医療と法の関係を説明できる	Ⅲ-24		
			歯科法医学の実際	歯科法医学の実際について理解する	災害の実態を知る	Ⅲ-24		
					歯科法医学の社会的な必要性について説明できる	Ⅲ-24		
					歯科法医学の対象について説明できる	Ⅲ-24		
					死に関する法的な手続きについて説明できる	Ⅲ-24		
4	9/12	佐藤慶太	災害時の検案支援	法歯学と個人識別	災害時の検案支援の必要性を説明できる	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（大規模災害・事故と歯科との関連）	0.5
					個人識別に有効な方法を列挙できる	Ⅲ-24		
					デンタルチャートを説明できる	Ⅲ-24		
					解剖における関連法規について列挙できる	Ⅲ-24		
					死体現象について説明できる	Ⅲ-24		
			遺伝標識による個人識別	ヒト由来組織（血液、体液、組織等）からの血液型やDNA型を用いた個人識別の手法や原理を理解する	ABO式血液型を用いた個人識別を説明できる	Ⅲ-24		
					Rh式血液型を用いた個人識別を説明できる	Ⅲ-24		
					DNA型を用いた個人識別を説明できる	Ⅲ-24		
					親子鑑定の原理について説明できる	Ⅲ-24		
5	9/19	児玉淳	死体現象	個体死・死因、早期死体現象、晩期死体現象について理解する	個体死・死因を説明できる	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（外因死・内因死について）	1.0
					早期死体現象を説明できる	Ⅲ-24		
					晩期死体現象を説明できる	Ⅲ-24		
6	9/19	児玉淳	窒息死	窒息死の種類、そのメカニズムについて理解する	窒息死の種類を説明できる	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（骨からの鑑別について）	1.0
					窒息のメカニズムを説明できる	Ⅲ-24		
			損傷に基づく死	損傷の種類、成傷機転について理解する	損傷の種類、成傷機転を説明できる	Ⅲ-24		
					損傷による死因について説明できる	Ⅲ-24		
					死体の診方を説明できる	Ⅲ-24		
			異状環境下における死	凍死、熱傷、日射病、熱射病、感電死について理解する	凍死、熱傷、日射病、熱射病、感電死を説明できる	Ⅲ-24		
					熱傷を説明できる	Ⅲ-24		
					熱射病、日射病を説明できる	Ⅲ-24		
					感電死について説明できる	Ⅲ-24		
			虐待	虐待について理解する	小児の虐待による損傷について説明できる	Ⅲ-24		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
7	9/22	森田浩光	災害時支援 1	災害時の衛生管理と多職種連携、心のケアについて理解する	災害時要配慮者について説明する 災害時の衛生管理について説明する 災害時の感染対策について説明する 災害時の口腔衛生の必要性について説明する 災害時の多職種の役割を説明する 災害時の多職種連携について説明する 災害時の心的外傷について説明する 災害時の被災者および医療支援者の心のケアの必要性について説明する 心理的応急処置（PFA）について説明する	Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
8	9/22	田崎園子	災害時支援 2	災害時の歯科医療支援について理解する	災害時の口腔管理の必要性について説明する 災害時の歯科医療支援について説明する 災害時の歯科医療のニーズについて説明する	Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
9	10/9	児玉淳	硬組織からの個人識別	骨形態等の骨格上の特徴や指紋からの個人識別の原理及び手法について理解する	骨形態からの個人識別について説明できる 骨縫合度からの年齢推定について説明できる ヒトと動物の骨組織上の違いについて説明できる	Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（歯からの鑑別について）	1.0
			軟組織からの個人識別	指紋からの個人識別の原理及び手法について理解する	指紋を用いた個人識別を説明できる	Ⅲ-24		
10	10/10	児玉淳	歯科所見からの個人識別	身元特定に際しての歯科所見の有効性及び識別の原理と手法について理解する	歯科所見の有効性について説明できる 歯からの年齢推定について説明できる 歯からの性別推定について説明できる	Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（歯科所見の有効性について）	1.0
11	10/10	児玉淳	歯科所見からの個人識別	身元特定に際しての歯科所見の有効性及び識別の原理と手法について理解する	歯科所見の採取や記録法について説明できる	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（口腔内所見記録について）	1.0
12	10/17	児玉淳	実習（デンタルチャート作成1）	歯科所見からの個人識別法の修得のため、死後記録の作成及び生前記録との照会等に関する一連の異同識別を演習形式によって理解する	デンタルチャートを作成できる デンタルチャート作成時のヒューマンエラーを説明できる ヒューマンエラーの対策法を説明できる データベースソフトについて説明できる（操作できる）	Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24 Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（口腔内所見記録について）	0.5
13	10/17	児玉淳	実習（デンタルチャート作成1）	歯科所見からの個人識別法の修得のため、死後記録の作成及び生前記録との照会等に関する一連の異同識別を演習形式によって理解する	デンタルチャートから個人識別時の一致、不一致について説明できる	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（口腔内所見記録について）	0.5

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
14	10/24	玉置幸雄	実習（デジタル機器取り扱い1：口腔内写真撮影）	口腔内写真撮影	口腔内撮影に必要な器材を説明できる	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（口腔内写真について）	0.5
					口腔内撮影に必要な器材の取扱いが説明できる（操作できる）	Ⅲ-24		
15	10/24	玉置幸雄	実習（デジタル機器取り扱い2：口腔内写真撮影）	口腔内写真撮影	口腔内写真の撮影法を説明できる（操作できる）	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（口腔内写真について）	0.5
16	10/31	香川豊宏	実習（デジタル機器取り扱い3：携帯用X線撮影装置）	携帯用X線装置の取扱いと撮影・現像処理	X線写真撮影に必要な器材を説明できる	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（歯科放射線機器取扱いと撮影法）	0.5
					X線写真撮影に必要な機材の取扱いが説明できる（操作できる）	Ⅲ-24		
17	10/31	香川豊宏	実習（デジタル機器取り扱い3：携帯用X線撮影装置）	携帯用X線装置の取扱いと撮影・現像処理	IPやCCDの説明ができる（操作できる）	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習（歯科放射線機器取扱いと撮影法）	0.5
					デジタル写真のイメージ処理を理解する（操作できる）	Ⅲ-24		
18	11/7	二木寿子	全身疾患を有する患者への対応2	訪問診療での口腔健康管理とリスクマネジメント	高齢者の疾患の特徴について説明する	Ⅳ-17	教科書・参考書の該当部分を予習	1.0
					高齢・有病者の歯科診療における日常的な習慣づけについて説明する	Ⅳ-17		
19	11/7	今井裕子	全身疾患を有する患者への対応3	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（高血圧・不整脈・虚血性心疾患）と歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について理解する	歯科治療を行う際に留意すべき全身疾患を列挙する	Ⅳ-17	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
					高血圧症患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17		
					不整脈患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17		
					虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17		
20	11/14	田口則宏	訪問歯科1	離島・僻地での歯科診療について理解する	離島・僻地診療の現状を説明する	V-3	教科書・参考書の該当部分を予習	0.5
					離島・僻地での歯科ニーズについて説明する	V-3		
					離島・僻地での歯科診療について説明する	V-3		
21	11/14	今井裕子	全身疾患を有する患者への対応3	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（高血圧・不整脈・虚血性心疾患）と歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について理解する	心臓弁膜症患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
					歯科治療時の感染性心内膜炎の予防法について説明する	Ⅳ-17		
					心不全患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17		
22	11/17	堤貴司	訪問歯科2	患者の状態に応じた訪問歯科診療について理解する	訪問歯科診療の意義について説明する	V-3	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
					患者の状態に応じた訪問歯科診療の必要性を説明する	V-3		
					地域包括ケアシステムにおける訪問歯科診療の役割について説明する	V-3		
					訪問歯科診療における多職種協働の必要性を説明する	V-3		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
23	11/21	森田浩光 田崎園子 末永陽子	実習（災害時 歯科医療支援）	災害時の歯科医療支援の評価・方法を理解する	トリアージ（START法）を実践する ラピッドアセスメントを理解する	Ⅲ-24 Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
24	11/21	森田浩光 田崎園子 末永陽子	実習（災害時 歯科医療支援）	災害時の歯科医療支援の評価・方法を理解する	心理的応急処置を実践する	Ⅲ-24	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
25	11/28	今井裕子	全身疾患を有する患者への対応 4	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（心臓弁膜症・感染性心内膜炎・心不全）と歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について理解する	喘息患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する アレルギー疾患患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17 Ⅳ-17	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
26	11/28	今井裕子	全身疾患を有する患者への対応 4	歯科治療を行う際に留意すべき主な全身疾患（心臓弁膜症・感染性心内膜炎・心不全）と歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について理解する	自己免疫疾患患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する ステロイド服用患者の歯科治療時のリスク、偶発症への対処法について説明する	Ⅳ-17 Ⅳ-17	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
27	12/1	堤貴司	訪問歯科 3	急性期、終末期における訪問歯科診療について理解する	急性期で遭遇しやすい全身疾患を列挙する 周術期等口腔機能管理について説明する 終末期・緩和ケア患者の口腔管理について説明する	Ⅳ-14 Ⅳ-14 Ⅴ-3	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
28	12/1	堤貴司	訪問歯科 4	回復期、慢性期における訪問歯科診療について理解する	回復期、慢性期で遭遇しやすい全身疾患を列挙する 回復期、慢性期における口腔管理について説明する 訪問歯科診療機材を説明する 訪問診療における患者安全管理（セーフティーマネジメント）について説明する アドバンスド・ケア・プランニング（ACP）について説明する	Ⅴ-3 Ⅴ-3 Ⅴ-3 Ⅴ-3 Ⅴ-3	教科書・参考書の該当部分を予習	1.5
29	12/5	二木寿子	全身疾患を有する患者への対応 5	訪問診療での口腔健康管理とリスクマネジメント	高齢者に多い全身疾患と歯科治療・口腔ケア時のリスクマネジメントについて説明する 高齢者と薬剤について説明する	Ⅳ-17 Ⅳ-17	教科書・参考書の該当部分を予習	1.0

齲蝕学Ⅱ 【講義】

科目番号 0D031215

後期：19コマ

評価責任者：松崎 英津子

担当教員：松崎 英津子、山田 和彦、松本 典祥、水上 正彦

（一般目標）

近年、若年者の齲蝕に加えて高齢者の根面齲蝕も増加している。加えて、tooth wear等の非齲蝕性硬組織疾患も増加している。齲蝕および非齲蝕性硬組織疾患の検査・治療・管理に関する基礎的能力を身につけるために、齲蝕治療学および保存修復学に関する臨床的知識を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-7, Ⅲ-8, Ⅲ-13, Ⅲ-21, Ⅳ-2, Ⅳ-3, Ⅳ-4, Ⅳ-6

（教育方法）

教科書、プリントおよびスライドによる講義

（学習方法）

予習は、シラバスに記載された教科書「第六版 保存修復学21」「保存修復学 第7版」の授業関連項目を読むこととする。復習は、配布資料および教科書の関連ページを再読し、提示された問題(CBT PASSや見開き問題集)を解くことにより行う。さらに、参考書を用いて関連領域の学習を行うことを推奨する。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：7.0 時間】

（評価）

定期試験：100%（記述試験および客観試験）

試験終了後、希望する者には教科書および講義資料を用いてフィードバックする。

（教科書）

田上 順次、奈良 陽一郎、山本 一世、斎藤 隆史 監修『第六版 保存修復学21』永末書店、2022

千田 彰 編集代表『保存修復学 第7版』医歯薬出版、2019

（参考書）

日本接着歯学会編『接着歯学 第2版』医歯薬出版、2015

千田 彰、寺下正道、田上順次ほか編集『保存修復クリニカルガイド 第2版』医歯薬出版、2009

田上順次、花田信弘、桃井保子編集『う蝕学—チェアサイドの予防と回復のプログラム—』永末書店、2008

日本歯科保存学会編 保存修復学専門用語集 第3版 医歯薬出版、2023

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/1	松崎	ユニット1 接着修復の理論と治療法	接着修復材料を用いた治療を適確に行うために、接着メカニズムの理論と治療法を修得する。	接着性修復の臨床的意義を説明できる。 コンポジットレジン修復の接着メカニズムを説明できる。	Ⅳ-3 Ⅲ-21	保存修復学 第7版 P141-147 第6版 保存修復学21 第8章 コンポジットレジン修復 P170-179	1.0
2	9/5	松崎	ユニット2 コンポジットレジン修復の特徴	直接修復であるコンポジットレジン修復の特徴を知り、適応症・窩洞形態・形成法について理解する。	コンポジットレジン修復の窩洞形態と形成法について説明できる。	Ⅳ-2	保存修復学 第7版 P147-170 第6版 保存修復学21 第8章 コンポジットレジン修復 P180-192	1.0
3	9/8	松崎	ユニット3 コンポジットレジン修復の術式	コンポジットレジン修復を行うために、その種類に関する知識を身につけるとともに、術式について理解する。	コンポジットレジン修復の種類および術式について説明できる。	Ⅲ-21	保存修復学 第7版 P147-170 第6版 保存修復学21 第8章 コンポジットレジン修復 P180-192	1.0
4	9/12	松崎	ユニット4 コンポジットレジン修復における留意点	円滑なコンポジットレジン修復を行うために、修復の各ステップにおける留意点について理解する。	コンポジットレジン修復の術式について説明できる。 各ステップ毎の留意点（隔壁形成等）について説明できる。	Ⅳ-2 Ⅳ-2	保存修復学 第7版 P147-170 第6版 保存修復学21 第8章 コンポジットレジン修復 P192-206	1.0
5	9/19	松崎	ユニット5 コンポジットレジン修復における問題点とその対処	コンポジットレジン修復における問題点とその対処法について理解する。	コンポジットレジンの重合収縮に起因するコントラクションギャップやホワイトマージンとその対処法について説明できる。	Ⅳ-4	保存修復学 第7版 P147-170 第6版 保存修復学21 第8章 コンポジットレジン修復 P192-206	1.0
6	10/17	松崎・松本	ユニット6 従来型ガラスアイオノマーセメント	従来型ガラスアイオノマーセメントの組成および硬化機序を知り、その特徴について理解する。	ガラスアイオノマーセメントの硬化機序について説明できる。 ガラスアイオノマーセメントの長所・短所について説明できる。 ガラスアイオノマーセメント修復の特徴と術式について説明できる。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅳ-2	保存修復学 第7版 P170-177 第6版 保存修復学21 第9章 ガラスアイオノマーセメント修復 P209-214	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
7	10/17	松崎・松本	ユニット7 光硬化型ガラスアイオノマーセメント	光硬化型ガラスアイオノマーセメントの特徴を理解し、その修復手順について理解する。	光硬化型ガラスアイオノマーセメントの特徴について説明できる。	Ⅲ-21	保存修復学 第7版 P170-177 第6版 保存修復学21 第9章 ガラスアイオノマーセメント修復 P214-219	1.0
					光硬化型ガラスアイオノマーセメントとコンポジットレジンの違いについて説明できる。	Ⅲ-21		
					光硬化型ガラスアイオノマーセメント修復の術式について説明できる。	Ⅳ-6		
8	10/24	松本	ユニット8 セメント、接着システムのまとめ	各種セメントの組成・特徴、接着システムについて理解する。	セメントの種類、特徴を説明できる。	Ⅲ-21	保存修復学 第7版 P181-P224 第6版 保存修復学21 第14章 合着・接着 P275-278	1.0
					セメントの用途を説明できる。	Ⅲ-21		
					接着システムについて説明できる。	Ⅳ-6		
9	10/31	松本	ユニット9 間接修復法	広範囲に及ぶ歯冠欠損に対処するために、間接修復法の種類と方法を理解する。	間接修復法の種類（コンポジットレジン、セラミック、メタル）、特徴を説明できる。	Ⅳ-4	保存修復学 第7版 P181 第6版 保存修復学21 第7章 修復方法 P133-156	1.0
					間接修復法の治療の流れを説明できる。	Ⅳ-4		
					合着・接着について説明できる。	Ⅲ-21		
10	10/31	松本	ユニット10 コンポジットレジンインレー修復	コンポジットレジンインレー修復の特徴について理解するとともに、窩洞形態・適応症・種類・材料の組成・修復手順に関する知識を身につける。	コンポジットレジンインレー修復の特徴について説明できる。	Ⅳ-6	保存修復学 第7版 P207-P211 第6版 保存修復学21 第11章 コンポジットレジンインレー修復 P225-241	1.0
					コンポジットレジンインレー修復の製作手順について説明できる。	Ⅲ-21		
11	11/7	水上	ユニット11 セラミックインレー修復	セラミックインレー修復の特徴について理解するとともに、窩洞形態・適応症・種類・材料の組成・修復手順に関する知識を身につける。	セラミックスの種類とインレー窩洞の特徴について説明できる。	Ⅳ-6	保存修復学 第7版 P212-224 第6版 保存修復学21 第12章 セラミックインレー修復 P241-251	1.0
					セラミックインレー修復の製作手順について説明できる。	Ⅲ-21		
12	11/14	山田	ユニット12 鑄造修復1	メタルインレー修復法の特徴について理解する。印象法、間接法模型の作製、蠟形（ワックスパターン）の調整、埋没・鑄造法に関する知識を身につける。	メタルインレー修復の特徴について説明できる。	Ⅳ-6	保存修復学 第7版 P193-207 第6版 保存修復学21 第13章 メタルインレー修復 P253-274	1.0
13	11/14	山田	ユニット13 鑄造修復2	インレー修復に必要な材料の特徴について理解する。印象法、間接法模型の作製、蠟形（ワックスパターン）の調整、埋没・鑄造法に関する知識を身につける。	鑄造用合金の種類と組成について説明できる。	Ⅲ-21	保存修復学 第7版 P193-207 第6版 保存修復学21 第13章 メタルインレー修復 P253-274	1.0
					作業用模型の種類と特徴について説明できる。	Ⅲ-21		
14	11/21	水上	ユニット14 歯の変色に対する治療：歯の漂白、ラミネートベニア	歯の変色の原因を知り、各種漂白法、ラミネートベニア修復の特徴・適応症について理解する。	歯の変色の原因について説明できる。	Ⅲ-8	保存修復学 第7版 P224-231 第6版 保存修復学21 第15章 ラミネートベニア修復、第16章 歯の漂白 P287-306	1.0
					漂白法の種類について説明できる。	Ⅳ-6		
					各漂白法の適応症について説明できる。	Ⅳ-4		
					変色歯修復の特徴について説明できる。	Ⅳ-6		
					ラミネートベニア修復の適応症と術式について説明できる。	Ⅳ-6		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
15	11/28	水上	ユニット15 アマルガム修復、回転切削器具	アマルガム修復の特徴について理解するとともに、水銀の取り扱いに関する知識を身につける。各種回転切削器具の適応、使用方法に関する知識を身につける。	アマルガム修復の特徴と除去、水銀の取り扱いについて説明できる。 保存修復治療に必要な回転切削器具の種類と取り扱いについて説明できる。	IV-6 IV-6	保存修復学 第7版 P177-179 第6版 保存修復学21 第10章 アマルガム修復 P221-223	1.0
16	11/28	松本	ユニット16 補修修復	補修修復の考え方について理解するとともに、術前検査・接着面への接着の術式に関する知識を身につける。	補修の考え方とMIDの理念について説明できる。 補修範囲診断の検査と術式について説明できる。	IV-6 IV-6	保存修復学 第7版 P68, P241-248 第6版 保存修復学21 補修修復、修復治療の術後管理、MIからMIDへ P44, P307-310	1.0
17	12/5	水上	ユニット17 高齢者における保存修復治療	高齢者に特徴的な歯の硬組織疾患に対処するために、歯科治療上の留意点を理解する。	歯の生理的な加齢変化を説明できる。 高齢者の歯の硬組織疾患の特徴（根面齲蝕、Tooth Wear）を説明できる。 根面齲蝕、Tooth Wear の治療について説明できる。	Ⅲ-7 Ⅲ-13 IV-4	保存修復学 第7版 P77-78, P237-239 第6版 保存修復学21 高齢者の歯の保存修復治療、根面齲蝕 P33, P311-314	1.0
18	12/12	松崎・松本	ユニット18 齲蝕学前半まとめ	齲蝕学前半（齲蝕の基礎、検査、窩洞形成等）について理解する。	齲蝕の基礎、検査、窩洞形成について説明できる。	Ⅲ-8	齲蝕学Ⅱ 講義資料	1.0
19	12/15	松崎・松本	ユニット19 齲蝕学後半まとめ	齲蝕学後半（各種修復法、変色歯の治療等）について理解する。	各種窩洞形成法、変色歯の対応等について説明できる。	IV-6	齲蝕学Ⅱ 講義資料	1.0

科目番号 0D031204

後期：17コマ

評価責任者：松崎 英津子

松崎 英津子

担当教員：松本 典祥

水上 正彦

（一般目標）

歯の硬組織疾患から始まる一連の歯髄疾患・根尖性歯周疾患の病因および病態生理について学習するとともに、各疾患の診査・診断・治療方法の詳細について理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー〔DP〕）

Ⅲ-4、Ⅲ-5、Ⅲ-6、Ⅲ-7、Ⅲ-8、Ⅲ-21、Ⅳ-2、Ⅳ-3、Ⅳ-4、Ⅳ-5

（教育方法）

教科書、プリントおよびスライドによる講義

（学習方法）

予習はシラバスに記載された教科書「エンドドンティクス第6版」の授業関連項目を読むこととする。また、復習は教科書の関連ページ、配布資料を再読する。CBT PASS、見開き問題集で提示された問題を解くことにより行う。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：11.0時間】

（評価）

定期試験：100%（記述試験および客観試験）

試験終了後、希望する者には教科書および講義資料を用いてフィードバックする。

（教科書）

興地 隆史、石井 信之、林 美加子、北村 知昭 編集主幹『第6版 エンドドンティクス』永末書店、2022

〔選定理由〕歯科基礎医学の知識、基本的な手技から最新の診断・治療方法にいたるまで歯内療法学全般にわたって詳細に解説したベストセラーテキストである。国家試験参考図書、歯内療学会指定図書。

（参考書）

勝海 一郎、興地 隆史、石井 信之、中田 和彦 編集『第5版 歯内治療学』医歯薬出版、2018

（2025年度に改版予定あり）

日本歯科保存学会、日本歯内療学会 編「歯内療法学専門用語集 第2版」医歯薬出版、2023

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/2	松崎	ユニット1 歯髄腔の基本形態と歯髄の機能	歯と歯根周囲組織の構造と機能に関する知識を理解する。	歯髄の構造と機能について説明できる。	Ⅲ-6	第6版 エンドドンティクス 第1章 歯と歯根周囲の組織学 P2-11、第2章 歯根と歯髄腔の解剖学 P12-28	0.5
					根尖周囲組織の構造と機能について説明できる。	Ⅲ-6		
2	9/2	松本	ユニット2 歯の痛みと象牙質知覚過敏症	歯の痛みの生理学と象牙質知覚過敏症のメカニズム・治療法について理解する。	象牙質知覚過敏症の病態について説明できる。	Ⅲ-8	第6版 エンドドンティクス 第3章 歯の痛みの生理学 P29-35	0.7
					象牙質知覚過敏症の治療法について説明できる。	Ⅳ-3		
3	9/9	松崎	ユニット3 歯髄疾患の病態	歯髄疾患の病態について理解する。	歯髄疾患の病因、発症機序について説明できる。	Ⅲ-4	第6版 エンドドンティクス 第4章 歯髄疾患 P36-50	0.7
					歯髄疾患の病態について説明できる。	Ⅲ-8		
					歯髄疾患の臨床的分類について説明できる。	Ⅳ-3		
4	9/16	松崎	ユニット4 根尖性歯周疾患の病態	根尖性歯周疾患の病態について理解する。	根尖性歯周炎の病因、発症機序について説明できる。	Ⅲ-5	第6版 エンドドンティクス 第5章 根尖性歯周疾患 P51-66	0.7
					根尖性歯周疾患の病態について説明できる。	Ⅳ-3		
					根尖性歯周疾患の臨床的分類、病理組織所見に基づく分類について述べる。	Ⅲ-8		
5	10/7	松崎	ユニット5 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の検査・診断（概要）	歯髄疾患・根尖性歯周疾患における検査法・治療方針について理解する。	歯髄疾患、根尖性歯周疾患の検査と治療方針について説明できる。	Ⅳ-2	第6版 エンドドンティクス 第6章 歯内療法における診査・検査・診断 P67-84	0.7

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	10/14	松本	ユニット6 無菌的処置	歯内療法における無菌的処置について理解する。	歯内療法で使用する器具・器材の滅菌消毒法について説明できる。	Ⅲ-21	第6版 エンドドンティクス 第8章 無菌的処置 P94-102	0.7
					ラバーダム防湿・歯内療法における隔壁形成について説明できる。	Ⅲ-21		
7	10/21	松崎	ユニット7 歯髄疾患・根尖性歯周疾患の検査・診断（各論）	自覚症状、他覚症状の診査・検査について理解する。	自覚症状・他覚症状の診査・検査について説明できる。	Ⅲ-21	第6版 エンドドンティクス 第6章 歯内療法における診査・検査・診断 P67-84、第7章 症例選択、治療計画 P85-93	0.7
					歯内療法領域の特定診査・検査について説明できる。	Ⅲ-21		
8	10/24	松本	ユニット8 歯髄保存療法（1）歯髄鎮痛消炎療法、覆髄法	歯髄鎮痛消炎療法・覆髄法について理解する。	歯髄保存療法の目的について説明できる。	Ⅳ-4	第6版 エンドドンティクス 第9章 歯髄保護と歯髄保存療法 P103-114	0.7
					歯髄鎮痛消炎療法について説明できる。	Ⅳ-4		
					間接覆髄法について説明できる。	Ⅳ-4		
					暫間的間接覆髄法について説明できる。	Ⅳ-4		
					直接覆髄法について説明できる。	Ⅳ-4		
9	10/28	松本	ユニット9 歯髄保存療法（2）生活断髄法、アペキシゲネーシス	生活断髄法、アペキシゲネーシスについて理解する。	生活断髄法について説明できる。	Ⅳ-4	第6版 エンドドンティクス 第9章 歯髄保護と歯髄保存療法 P103-114、第19章 根未完成歯 P217-222	0.7
					アペキシゲネーシスについて説明できる。	Ⅳ-4		
10	11/4	水上	ユニット10 歯髄除去療法：抜髄法	抜髄法について理解する。	抜髄法の目的について説明できる。	Ⅲ-8	第6版 エンドドンティクス 第10章 歯髄除去療法 P115-129、第12章 根管形成 P130-145	0.7
					抜髄法の術式について説明できる。	Ⅳ-4		
					抜髄に使用する器具について説明できる。	Ⅲ-21		
					手用ファイルとNi-Tiロータリーファイルの特徴について説明できる。	Ⅲ-21		
					抜髄における根管拡大・形成の意義について説明できる。	Ⅲ-21		
11	11/7	松本・水上	ユニット11 根尖性歯周疾患の治療：感染根管治療	感染根管治療について理解する。	感染根管治療の目的について説明できる。	Ⅲ-8	第6版 エンドドンティクス 第11章 根尖性歯周疾患の治療 P124-129、第12章 根管形成 P130-145、第13章 根管貼薬・仮封 P146-153、第19章 根未完成歯 P217-222	0.7
					感染根管治療の術式について説明できる。	Ⅲ-21		
					根管の化学的清掃と根管貼薬剤について説明できる。	Ⅲ-21		
					アペキシフィケーション、再生歯内療法について説明できる。	Ⅳ-4		
					感染根管治療における根管拡大・形成の意義について説明できる。	Ⅲ-4		
12	11/11	水上	ユニット12 根管充填、仮封	根管充填、歯内療法で使用する仮封材について理解する。	根管充填の目的について説明できる。	Ⅳ-4	第6版 エンドドンティクス 第13章 根管貼薬・仮封 P146-153、第14章 根管充填 P154-171	0.5
					根管充填の術式について説明できる。	Ⅳ-2		
					根管充填に使用する器具・材料について説明できる。	Ⅲ-21		
					根管充填後の根尖部創傷の治癒機転と予後について説明できる。	Ⅳ-5		
					歯内療法で使用する仮封材について説明できる。	Ⅳ-2		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
13	11/18	松本	ユニット13 再根管治療、 歯の吸収、失 活歯の変色	再根管治療について理解するとともに、失活歯の変色・歯の病的吸収の原因と処置を理解する。	失活歯の変色の原因と処置を理解している。 根管治療後の病変発症の原因について説明できる。 再根管治療の術式について説明できる。 歯の吸収（内部吸収・外部吸収）とその治療について説明できる。	IV-4 IV-4 IV-5 IV-4	第6版 エンドドンティクス 第16章 再根管治療 P190-199、第17章 歯根吸収 P200-206	0.7
14	11/25	水上	ユニット14 マイクロスコープを応用した歯内療法、高齢者の歯内療法、歯の外傷	マイクロスコープを応用した歯内療法、高齢者の特徴を踏まえた歯内療法、歯の外傷について理解する。	歯内療法処置にマイクロスコープを用いる目的と意義について説明できる。 歯内療法におけるCBCTの有用性について説明できる。 歯内療法における実体顕微鏡の適応症について説明できる。 高齢者の歯、歯髄および根尖歯周組織の加齢変化を説明できる。 高齢者における歯内療法の留意点を説明できる。 全身疾患と歯内療法の関連性について説明できる。 歯の外傷と処置について説明できる。	IV-3 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-7 IV-4 IV-5 IV-3	第6版 エンドドンティクス 第22章 マイクロスコープを応用した歯内療法 P244-250、第23章 高齢者の歯内療法 P251-260、第18章 歯の外傷 P207-216	0.6
15	12/2	松崎	ユニット15 歯内—歯周疾患	歯内—歯周疾患について理解する。	歯髄と歯周組織の交通路について説明できる。 歯内—歯周疾患の基本的な診察について説明できる。 歯内—歯周疾患の診査・診断・分類について説明できる。 歯内—歯周疾患の治療方法を類型別に説明できる。	Ⅲ-6 IV-2 IV-3 IV-4	第6版 エンドドンティクス 第20章 歯内—歯周疾患 P223-230	0.5
16	12/9	松崎	ユニット16 外科的歯内療法	外科的歯内療法について理解する。	外科的歯内療法の適応症と禁忌症について説明できる。 外科的歯内療法の術式と治癒機転について説明できる。 マイクロスコープを用いた外科的歯内療法について説明できる。	IV-4 IV-4 IV-4	第6版 エンドドンティクス 第21章 外科的歯内療法 P231-243、第22章 マイクロスコープを応用した歯内療法 P244-250	0.5
17	12/16	松崎	ユニット17 歯内療法の安全対策、緊急処置	歯内療法時の偶発症、緊急処置について理解する。	歯内療法の偶発症について説明できる。 歯内療法の安全対策について説明できる。 歯内療法における緊急処置の意義と対応について説明できる。	IV-2 IV-4 IV-4	第6版 エンドドンティクス 第15章 歯内療法の安全対策 P172-188、第24章 緊急処置 P261-266	0.7

歯周治療学Ⅰ 【講義】

科目番号 0D031205

後期：15コマ

評価責任者：吉永泰周

担当教員：大城希美子、丸尾直樹、吉村篤利、金子高士

（一般目標）

歯周病学における基礎を身につけるために、歯周組織の構造、歯周疾患の病態と病因、および基本的な治療法を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅲ-1, Ⅲ-4, Ⅲ-5, Ⅲ-6, Ⅲ-7, Ⅲ-8, Ⅲ-19, Ⅲ-21, IV-1, IV-2, IV-3, IV-4, IV-5, IV-6

（教育方法）

講義

問題演習

（実習・演習）

（学習方法）

予習方法：教科書を熟読する。

復習方法：配布プリントを用いて自分でノートを作る。

臨場感を持って想像しながら学習する。

問題演習で理解到達度を確認する。

学習者同士や教員との討議を行って理解を深める。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評価）

定期試験（80%）：客観試験

試験終了後、質問に来た学生に対して解説を行う。

中間試験（20%）：客観試験

試験終了後、質問に来た学生に対して解説を行う。

（教科書）

村上伸也他編、『臨床歯周病学 第3版』、医歯薬出版、2020

（現在の歯周病学、歯周治療学を網羅して編纂された教科書）

（参考書）

Jan Lindhe他、『Lidhe 臨床歯周病学とインプラント第4版（基礎編）』、クインテッセンス出版、2005

（研究論文に裏づけされた臨床歯周病学のバイブル）

加藤 照他著、『新版最新歯周病学』、医歯薬出版株式会社、2011

（現在の歯周病学、歯周治療学を網羅して編纂された教科書）

天野敦雄他監修、『ビジュアル歯周病を科学する』、クインテッセンス出版、2012

（基礎的な内容がしっかりと盛り込まれた美しいカラーイラストの本）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/2	吉永	ユニット1 歯周治療学概論 歯周治療の意義及び目的	歯周病学の口腔医学における位置づけ、歯周療法の意義と目的を理解する。	歯周疾患の概念を説明する。 歯周疾患の進行について説明する。 歯周療法の目的を列記する。	Ⅲ-8 Ⅲ-5 IV-4	1)「歯周疾患」をキーワードに調べてくる。	1.0
2	9/9	吉永	ユニット2 歯周組織の構造と病理変化	歯周組織の構造と病理変化を理解する。	健康な歯周組織の構造と機能を理解する。 歯肉炎の病態を理解する。 歯周炎の病態を理解する。 加齢に伴う歯周組織の変化を理解する。	Ⅲ-6 Ⅲ-8 Ⅲ-8 Ⅲ-7	1)教科書を読む（pp. 1 - 14） 2)口腔解剖学、口腔組織学の該当範囲の復習	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
3	9/16	大城	ユニット3 歯周病の原因と症状	歯周病の原因と症状を説明できる。	歯周病が多因子性疾患であることを説明する。	Ⅲ-8	1)教科書を読む（pp. 15 - 31）	1.0
					細菌因子・宿主因子・環境因子について説明する。	Ⅲ-8		
					歯周病の臨床的症状を説明する。	Ⅲ-8		
					歯周病活動性および感受性に影響する因子を説明する。	Ⅲ-8		
			ユニット4 歯周病のリスクファクター	歯周病のリスクファクターを説明できる。	リスクファクターの概念を説明する。	Ⅲ-8		
					歯周病のリスクファクターを説明する。	Ⅲ-8		
					歯周病の細菌因子を説明する。	Ⅲ-8		
					歯周病の宿主因子を説明する。	Ⅲ-8		
					歯周病の環境因子を説明する。	Ⅲ-8		
					喫煙による歯周組織への影響を説明する。	Ⅲ-19		
4	10/7	金子	ユニット6 炎症反応・免疫反応	歯周病における炎症反応・免疫反応を説明できる。	好中球、マクロファージ、T細胞、B細胞の機能を説明する。	Ⅲ-1	1)教科書を読む（pp. 42 - 68）	1.0
					自然免疫と獲得免疫の違いを説明する。	Ⅲ-4		
					IL-1、TNF- α 、IL-6の機能を説明する。	Ⅲ-4		
					骨吸収に関与する細胞とサイトカインをあげ、説明する。	Ⅲ-4		
					炎症歯周組織で認められる免疫担当細胞がわかる。	Ⅲ-4		
					歯周病の発症と進行に関与するサイトカインがわかる。	Ⅲ-4		
			ユニット7 ペリオドンタルメディシン	ペリオドンタルメディシンについて説明できる。	ペリオドンタルメディシンの概念を説明する。	Ⅲ-19		
					歯周炎の発症や進行に影響を及ぼす疾患群を概説する。	Ⅲ-19		
					歯周炎によって影響を受ける疾患群を概説する。	Ⅲ-19		
					歯周炎と全身疾患の関連性を裏づけるメカニズムを説明する。	Ⅲ-19		
			ユニット8 遺伝的要素	歯周病に関する遺伝的要素について概説できる。	遺伝因子が歯周病に及ぼす影響を概説する。	Ⅲ-8		
					遺伝子多型による遺伝子診断を概説する。	Ⅲ-8		
					歯周病感受性に関与する遺伝子多型を概説する。	Ⅲ-8		
5	10/7	吉永	ユニット5 デンタルプラーク	デンタルプラークについて説明できる。	デンタルプラークの性状と形成機序を説明する。	Ⅲ-8	1)教科書を読む（pp. 32 - 41）	1.0
					歯周病原細菌の条件と種類を説明する。	Ⅲ-4		
					細菌性病原因子の種類と歯周病における役割を説明する。	Ⅲ-5		
					歯石の種類と性状について説明する。	Ⅲ-8		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	10/14	丸尾	ユニット10 咬合性外傷	咬合性外傷について説明できる。	咬合性外傷の原因因子を列挙する。	Ⅲ-8	1)教科書を読む（pp. 78 - 85)	1.0
					咬合性外傷による歯周組織破壊のメカニズムを説明する。	Ⅲ-8		
					一次性咬合性外傷と二次性咬合性外傷の違いを説明する。	Ⅲ-8		
					外傷性咬合に原因となるブラキシズムを説明する。	Ⅲ-8		
7	10/21	[7回] 吉村 [8回] 吉永	ユニット12 医療面接と基本的な歯周病検査	医療面接と基本的な歯周病検査について説明できる。	医療面接の目的と構成を説明する。	Ⅳ-1	[7回] 1)教科書を読む（pp. 95-107) [8回] 1)教科書を読む（pp. 69 - 77, pp. 86 - 107, pp. 116 - 123)	[7] 1.0 [8] 1.0
医療面接における対人コミュニケーションに配慮する。	Ⅳ-5							
基本的な歯周病検査について説明する。	Ⅳ-3							
ユニット14 先進的な歯周病検査	先進的な歯周病検査を理解する。		歯周病検査の意義と観点を理解する。	Ⅳ-3				
歯周病検査の対象とそれに対する検査方法を理解する。			Ⅳ-3					
医科歯科連携医療に求められる歯周病検査を理解する。			Ⅳ-3					
8	10/28	吉永	ユニット9 歯周病の分類	歯周病の分類について理解する。	歯周病の分類の変遷について理解する。	Ⅲ-8	1)教科書を読む（pp. 69 - 77, pp. 86 - 107, pp. 116 - 123)	1.0
					歯肉炎および歯周炎の分類について理解する。	Ⅲ-8		
					歯周炎および歯肉炎以外の分類について理解する。	Ⅲ-8		
			ユニット11 歯周病の疫学	歯周病の疫学について説明できる。	歯周病の疫学研究に用いる指数を説明する。	Ⅲ-8		
					これまで行われてきた疫学調査の流れを理解する。	Ⅲ-8		
					日本の歯周病罹患状況について説明する。	Ⅲ-8		
					歯周病予防の概念を説明する。	Ⅳ-5		
					9	11/4		
10	11/11	大城	ユニット13 歯周病の診断と治療計画	歯周病の診断と治療計画について説明できる。	歯周治療の流れを概説する。	Ⅳ-4	1)教科書を読む（pp. 108 - 115)	1.0
					歯周病の診断上のポイントを理解する。	Ⅳ-6		
					治療計画の立案に必要な項目を列挙する。	Ⅲ-8		
					歯周治療の原則を説明する。	Ⅳ-4		
					再評価の意義を説明する。	Ⅳ-4		
11	11/18	丸尾	ユニット15 歯周基本治療の概要	歯周基本治療の概要を説明できる。	歯周基本治療の目的を理解する。	Ⅳ-4	1)教科書を読む（pp. 124 - 137)	1.0
					歯周基本治療の概要を説明する。	Ⅳ-5		
					歯周基本治療の内容を説明する。	Ⅳ-2		
		ユニット16 応急処置・疼痛への対応	歯周疾患の応急処置・疼痛への対応について説明できる。	応急処置を必要とする症状を説明する。	Ⅳ-6			
				歯肉膿瘍、歯周膿瘍の急性症状に対する処置を説明する。	Ⅳ-6			
				疼痛、出血の原因を説明する。	Ⅲ-8			

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
12	11/25	大城	ユニット17 ブラークコントロール	ブラークコントロールについて説明できる。	ブラークコントロールの定義を説明する。	IV-5	1)教科書を読む（pp. 138 - 148）	1.0
					機械的ブラークコントロールについて説明する。	IV-5		
					化学的ブラークコントロールについて説明する。	IV-5		
					モチベーションについて理解する。	IV-5		
13	12/2	吉永	ユニット18 スケーリング・ルートプレーニング	スケーリング・ルートプレーニングについて説明できる。	スケーリングとルートプレーニングの定義・意義を説明する。	IV-6	1)教科書を読む（ pp. 149 - 164）	1.0
					スケーラーの種類を説明する。	Ⅲ-21		
					手用スケーラーについて説明する。	Ⅲ-21		
					超音波スケーラーの特徴について説明できる。	Ⅲ-21		
					スケーリング・ルートプレーニングの時期・方法を説明する。	IV-6		
					シャープニングに用いる砥石の種類とその方法を説明する。	IV-6		
14	12/9	吉永	ユニット19 その他の歯周基本治療	その他の歯周基本治療について説明できる。	暫間固定の定義、目的、適応症、分類について説明する。	IV-6	1)教科書を読む（pp. 165 - 180）	1.0
					咬合性外傷の臨床的診断ができる。	IV-6		
					歯周治療における咬合調整について説明する。	IV-6		
					口臭の分類と検査法、治療法について説明する。	IV-6		
15	12/16	吉永	演習	第1-14回についての演習	演習問題が解ける。	IV-6	1) 第1-14回までの復習を行う	1.0

冠橋義歯学Ⅰ 【講義】

科目番号 OD031206

後期：15コマ

評価責任者：松浦尚志

担当教員：松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄

（一般目標）

全部鑄造冠、一部被覆冠の製作法を通じて、歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。さらに、適切な歯科材料の選択基準ならびに取扱い方法を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-9, Ⅲ-21, Ⅳ-3, Ⅳ-7

（教育方法）

パワーポイントによるプレゼンテーションと板書による講義スタイルとする。予め講義ノート用の資料を配布し、学生が自分で資料に書き込みながらノートを作成していき、理解を深めるようにする。

（学習方法）

授業前後に下記教科書や参考書の該当部分を読むこと。講義と教科書、参考書を参考に自分で講義ノートに加筆して、完成した講義ノートを卒業までの参考書とすること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0時間】

（評価）

定期試験（記述約20%、客観試験約80%）。定期試験終了後、解答を掲示する。随時質問を受け付ける。

（教科書）

- ①小峰太ほか 『冠橋義歯補綴学 テキスト 第6版』、永末書店
最新の全国教科書
- ②三浦宏之ほか 『クラウン・ブリッジテクニック 第2版』、医歯薬出版
全国共通に使用されている基礎ならびに臨床実習用教科書

（参考書）

Rosenstielほか『Contemporary Fixed Prosthodontics 6th ed』、Mosby
世界でよく使用されている教科書の一つ、図が見やすく理解しやすい（5版日本語訳有り）。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOS）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/3	[1回] 松浦尚志	ユニット1 支台歯形成	金属冠製作のための支台歯の形態と形成方法を理解する。	全部金属冠の支台歯形成法を説明する。	Ⅳ-7	[1回] 教科書① p11-p24	1] 1.0
2	9/10	[2回] 松浦尚志					[2回] 教科書① p11-p24	2] 1.0
3	9/17	松浦尚志	ユニット1 支台歯形成	金属冠製作のための支台歯の形態と形成方法を理解する。	部分金属冠の支台歯形成法を説明する。	Ⅳ-7	教科書① p11-p24	1.0
4	9/24	松浦尚志	ユニット2 プロビジョナルレストレーション	プロビジョナルレストレーションの意義と製作方法を理解する。	プロビジョナルレストレーションの意義と製作方法を説明する。	Ⅲ-21	教科書① p40-44	1.0
5	10/8	松浦尚志	ユニット3 印象採得	印象採得の意義と方法を理解する。	印象採得の方法を説明する。	Ⅳ-7	教科書① p24-p33	1.0
6	10/15	松浦尚志	ユニット4 顎間関係の記録	顎間関係の記録の意義と方法を理解する。	咬合採得と作業用模型製作の方法を説明する。	Ⅲ-21	教科書① p33-p39, p44-p47	1.0
7	10/22	松浦尚志	ユニット5 咬合器装着	咬合器装着の方法を理解する。	作業用模型の咬合器への装着法を説明する。	Ⅲ-21	教科書① p48-p51、教科書② p85-p90	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
8	10/29	高江洲雄	ユニット6 技工操作	金属冠の技工操作を理解する。	ろう型形成の方法を説明する。	Ⅲ-21	教科書① p52-p53、教科書② p105-p114	1.0
9	11/5	加我公行	ユニット6 技工操作	金属冠の技工操作を理解する。	埋没、鑄造、研磨の方法を説明できる。	Ⅲ-21	教科書① p54-p60, p150-151	1.0
10	11/12	加我公行	ユニット7 口腔内試適・装着	口腔内試適と装着の方法を理解する。	試適と装着の方法を説明する。	Ⅳ-7	教科書① p60-p66	1.0
11	11/19	山口雄一郎	ユニット8 支台築造	支台築造の目的、種類および方法を理解する。	支台築造の目的と種類を説明する。	Ⅲ-9	教科書① p80-p92	1.0
12	11/26	山口雄一郎	ユニット8 支台築造	支台築造の目的、種類および方法を理解する。	支台築造の方法を説明する。	Ⅲ-21	教科書① p80-p92	1.0
13	12/3	山口雄一郎	ユニット9 部分被覆冠	全部被覆冠と比較した部分被覆冠の特性を理解する。	部分被覆冠による治療を説明する。	Ⅳ-3	教科書① p228-p232	1.0
14	12/10	山口雄一郎	ユニット10 特殊な手法と治療の流れ	咬合印象法、FGPテクニックを理解し、単冠修復の治療の流れを理解する。	咬合印象法とFGPテクニックによる治療を説明する。	Ⅳ-3	教科書① p234-p239	1.0
15	12/17	松浦尚志	ユニット10 特殊な手法と治療の流れ	咬合印象法、FGPテクニックを理解し、単冠修復の治療の流れを理解する。	単冠修復の治療の流れに沿って説明する。	Ⅳ-3	教科書① p1-p10	1.0

科目番号 OD031208

後期： 43コマ

評価責任者： 松浦尚志

担当教員： 松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄、宮園祥爾

（一般目標）

鑄造歯冠修復物の製作を通じて臨床に必要な基本的鑄造歯冠修復手法と技術を習得するとともに、適切な材料の選択基準並びに取扱い方法を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅲ-9、Ⅲ-21、Ⅳ-7

（教育方法）

配布する実習書に沿った実技実習。

ライターによる説明およびデモ。

部分的なビデオの上映。

（実習・演習）

（学習方法）

実習前に、配布する実習書や下記教科書の該当箇所を読むこと。

実習前に、講義の該当箇所の予習を行うこと。

実習中に、ライターの説明をよく聞き、デモを見学すること。

疑問な点はライターに質問すること。

実習中に、実践ビデオを見ること。

実習後に、行ったことの復習を行うこと。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 4.0 時間】

（評価）

・ レジン歯の形成（支台歯形成20%）

・ 歯冠修復物（30%）

・ カービング課題（10%）

・ 実習態度（20%）

・ 実習試験（20%）（筆記、実技）

最終日の実習試験終了後、模範解答を開示し、質問を受け付ける。

（教科書）

・ クラウンブリッジテクニック第2版 医歯薬出版 2018年

・ 実習書

・ 冠橋義歯補綴学テキスト第5版 永松書店 2023年

（参考書）

なし

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/3	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄、宮園祥爾	ユニット1 支台歯形成	全部金属冠の支台歯形成の意義と方法を理解する。	全部金属冠の支台歯形態と形成法を説明する。	Ⅳ-7	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック第2章 A, B	1-12] 0.1
2	9/3							
3	9/3							
4	9/10							
5	9/10							
6	9/10							
7	9/17							
8	9/17							
9	9/17							
10	9/24							
11	9/24							
12	9/24							
13	10/8	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄、宮園祥爾	ユニット2 個人トレーの製作	個人トレーの意義と製作法を理解する。	個人トレーの設計と製作法を説明する。	Ⅲ-21	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック第4章 A	13-15] 0.1
14	10/8							
15	10/8							

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
16	10/15	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄、宮園祥爾	ユニット3 精密印象採得	精密印象（シリコーンラバー印象材）の特徴と方法を理解する。	歯肉圧排の必要性和精密印象採得の方法を説明する。	Ⅲ-21	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック 第4章 A 第7章	16-18] 0.1
17	10/15		ユニット4 咬合採得	咬合採得の意義と方法を理解する。	咬頭嵌合位での顎間関係の記録の意義と方法を説明する。	Ⅲ-21		
18	10/15							
19	10/22	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄、宮園祥爾	ユニット5 作業用模型の製作	作業用模型の製作法を理解する。	作業用模型の構成、種類および製作方法を説明する。	Ⅳ-7	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック 第8章	19-21] 0.1
20	10/22							
21	10/22							
22	10/29	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄、宮園祥爾	ユニット6 咬合器装着	咬合器装着の意義と方法を理解する。	咬合器装着の意義と方法を説明する。	Ⅲ-21	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック 第7章 第8章 B	22-24] 0.1
23	10/29							
24	10/29							
25	11/5	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄、宮園祥爾	ユニット7 ワッキング	ワックスアップの方法を理解する。	ろう型形成の種類と方法を説明する。	Ⅲ-21	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック 第9章	25-33] 0.1
26	11/5							
27	11/5							
28	11/12							
29	11/12							
30	11/12							
31	11/19							
32	11/19							
33	11/19							
34	11/26	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄、宮園祥爾	ユニット8 埋没・鋳造	埋没・鋳造の原理と方法を理解する。	埋没材の種類、鋳造収縮の補償および埋没と鋳造の方法を説明する。	Ⅲ-21	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック 第10章	34-36] 0.1
35	11/26							
36	11/26							
37	12/10	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄、宮園祥爾	ユニット9 口腔内試適・装着	口腔内試適と装着の方法を理解する。	口腔内試適の意義と手順および装着法を説明する。	Ⅳ-7	実習書の該当ページ、クラウンブリッジテクニック 第17章	37-39] 0.1
38	12/10							
39	12/10							
40	12/17	松浦尚志、山口雄一郎、加我公行、高江洲雄、宮園祥爾	ユニット10 実習試験および解説	-	-	Ⅲ-9	実習書全ページ、上記の教科書の該当項目	40-42] 0.1
41	12/17							
42	12/17							
43	12/19	松浦尚志、加我公行	ユニット11 課題解決演習	歯質欠損に対する検査・診断・治療計画の立案の流れを理解する。	歯質欠損に対する検査・診断・治療計画の立案を説明できる。	Ⅲ-9	当日配布	0.1

有床義歯補綴学Ⅰ 【講義】

科目番号 0D031210

後期：15コマ

評価責任者：都築 尊

担当教員：都築 尊、川口智弘、吉田兼義、濱中一平

（一般目標）

一顎または上下顎の全部の歯を喪失した、いわゆる無歯顎者の口腔の特性と歯の喪失に伴う顎口腔系の形態系、機能的変化および全身におよぼす影響を理解する。さらに、歯の喪失によって生じる部分無歯顎者の歯列および咬合を主体とした顎口腔系の形態系、機能的な変化とその病態、ならびに審美的な変化を理解するとともに、部分無歯顎の特異な咬合圧負担形式の様相とその神経筋機構を理解し、これらを踏まえ、診察、検査、診断、治療計画の立案、治療の方法、補綴装置の概念と作製方法、治療の経過、術後の管理に必要な基礎的理論と実際について習得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅲ-9, Ⅲ-21

（教育方法）

教科書を基本として義歯製作の手順に従って臨床術式の目的と方法、義歯設計の基本原則を理解する。

配布講義ノートに書き込む形式の講義を展開する。学生は国家試験対策ノートを自分の手で作り上げる。

講義の中で動画を用いて視覚的に理解を深める。

講義内容に関連したCBTPassおよび国家試験過去問を解説する。

（学習方法）

【予習方法】

Moodleにアップしている教科書のハイライト部分を自分の教科書に写しておく。

【講義】

講義ノートに書き込む形式の講義を展開する。3～5色のペンを用意しておいてください。

【復習】

Moodleにアップしている復習動画およびCBTPass解説動画を視聴する。講義で解説した厳選問題とCBTPass関連問題を解いて理解を深める。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

【進級要件】

- ①中間試験が100点満点換算で60点以上であること。60点に満たない学生は個別に口頭試問を行う。合格すれば中間試験の成績は60点となる。
- ②定期試験が100点満点換算で60点以上であること。60点に満たない学生は再試験を行う。再試験で合格した場合、成績は60点となる。

【評価】

最終成績は中間試験と定期試験の平均点で算出する（小数点以下四捨五入）。定期試験を再試験で合格した場合、最終成績は60点となる。定期試験に中間試験の範囲は含まない。

【フィードバック】

マークシート問題は持ち帰り可とする。試験終了後に、マークシート問題のみフィードバック動画をMoodle にアップロードするので各自で復習すること。
成績不振の学生は個別指導を行う。

【備 考】

中間試験は日程を変更することがある。

（教科書）

- ①市川哲雄他編 「無歯顎補綴治療学 第4版」 医歯薬出版
（全部床義歯補綴治療を臨床手順に沿ってまとめた学生必読書である。かなり詳しいのでこれを基本教科書とする。）
- ②細井紀雄他編 「コンプリートデンチャーテクニック 第6版」 医歯薬出版
（全部床義歯の製作過程が写真でわかりやすく説明されている。CBTや国家試験の写真問題に対応するために必読である。）
- ③三谷春保他編 「歯学生のパーシャルデンチャー 第7版」 医歯薬出版
（部分床義歯補綴治療を臨床手順に沿ってまとめた学生必読書である。かなり詳しいのでこれを基本教科書とする。）
- ④五十嵐順正他編 「パーシャルデンチャーテクニック 第6版」 医歯薬出版
（部分床義歯の製作過程が写真でわかりやすく説明されている。CBTや国家試験の写真問題に対応するために必読である。）

(参 考 書)

- ①日本補綴歯科学会編 「歯科補綴学専門用語集第6版」 医歯薬出版
(専門用語の検索に用いる。顎口腔機能学で購入済み。下記URLより無償ダウンロードできる。)
- ②「有床義歯補綴学」 永末書店
(全部床義歯と部分床義歯が1冊にまとまっている。別角度からの知識の確認に有用である。)
- ③「歯科国試パーフェクトマスター 全部床義歯補綴学第2版」 医歯薬出版
(教科書が簡潔にまとめられている。知識の確認のために使いやすい。)
- ④「歯科国試パーフェクトマスター パーシャルデンチャー補綴学第2版」 医歯薬出版 (教科書が簡潔にまとめられている。知識の確認のために使いやすい。)

回	日	担当者	ユニット	学習目標 (G I O)	行動目標 (S B O s)	DP	予習の項目	必要時間
1	9/4	都築尊	ユニット1 全部床義歯補綴の臨床ス	全部床義歯の臨床ステップを理解する。	全部床義歯製作の順番を説明する。	Ⅲ-21	コンプリートデンチャーテクニック第6版 P10～P172	1.0
2	9/11	都築尊	ユニット5 前処置	前処置の目的と方法を理解する。	補綴的前処置を説明する。 外科的前処置を説明する。 その他の前処置を説明する。	Ⅲ-9 Ⅲ-9 Ⅲ-9	無歯顎補綴治療学第4版第8章	1.0
3	9/18	都築尊	ユニット6 可撤性義歯の印象採得	可撤性義歯の印象採得を理解する。	印象材の種類を説明する。 無圧印象と加圧印象を説明する。	Ⅲ-21 Ⅲ-21	無歯顎補綴治療学第4版P108～P111	1.0
4	9/25	都築尊	ユニット6 可撤性義歯の印象採得	可撤性義歯の印象採得を理解する。	印象材の組み合わせ別印象法を説明する。 目的別印象法の種類を説明する。 ダイナミック印象を説明する。 咬座印象を説明する。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	無歯顎補綴治療学第4版P112～P119、歯学生のパーシャルデンチャー第6版 18章	1.0
5	10/9	都築尊	ユニット1 全部床義歯補綴の臨床ステップ ユニット6 可撤性義歯の印象採得	全部床義歯の臨床ステップを理解する。 可撤性義歯の印象採得を理解する。	研究用模型の目的を説明する。 個人トレーの目的を説明する。 概形印象を説明する。 精密印象を説明する。 ウォッシュインプレッションを説明する。 模型改造印象法を説明する。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	無歯顎補綴治療学第4版P120～P128、歯学生のパーシャルデンチャー第6版 18章	1.0
6	10/16	都築尊	ユニット6 可撤性義歯の印象採得	可撤性義歯の印象採得を理解する。	ボクシングの目的を説明できる。 可撤性義歯制作における個人トレーの製法を説明する。 筋圧形成の方法を説明する。 コンパウンドの取り扱い方を説明する。 義歯床縁決定の解剖学的根拠を理解する。 作業用模型の製法を説明する。	Ⅲ-9 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	無歯顎補綴治療学第4版P128～P141	1.0
7	10/23	都築尊	中間試験	-	-	Ⅲ-21	中間試験	1.0
8	10/30	都築尊	ユニット7 可撤性義歯の咬合採得	可撤性義歯の咬合採得を理解する。	咬合床の試適を説明する。 リップサポートを説明する。 仮想咬合平面の設定法を説明する。 下顎咬合床の高さの調整を説明する。	Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21 Ⅲ-21	無歯顎補綴治療学第4版P142～P150	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
9	11/6	都築尊	ユニット7 可撤性義歯の 咬合採得	可撤性義歯の咬合採得を理解する。	形態的根拠に基づく垂直的顎間関係の記録法を説明する。	Ⅲ-21	無歯顎補綴治療学第4版 P150～P161	1.0
					機能的根拠に基づく垂直的顎間関係の記録法を説明する。	Ⅲ-21		
10	11/13	都築尊	ユニット7 可撤性義歯の 咬合採得	可撤性義歯の咬合採得を理解する。	標示線を説明する。	Ⅲ-21	無歯顎補綴治療学第4版 P161～P172、歯学生の パーシャルデンチャー第6 版 P174～P181	1.0
					特に器具を必要としない水平的顎間関係の記録法を説明する。	Ⅲ-21		
					ゴシックアーチ描記法を説明する。	Ⅲ-21		
11	11/20	都築尊	ユニット10 可撤性義歯の 人工歯排列	可撤性義歯の人工歯排列を理解する。	前歯部人工歯の選択と排列を説明する。	Ⅲ-9	無歯顎補綴治療学第4版 P197～P209	1.0
					リップサポート、笑線、微笑線を説明する。	Ⅲ-9		
					人工歯を材質、形態により分類する。	Ⅲ-21		
12	11/27	都築尊	ユニット10 可撤性義歯の 人工歯排列	可撤性義歯の人工歯排列を理解する。	デンチャースペースの記録法を説明する。	Ⅲ-9	無歯顎補綴治療学第4版 P209～P218、P172～P179	1.0
					上顎法と下顎法の違いを説明する。	Ⅲ-9		
13	12/4	都築尊	ユニット10 可撤性義歯の 人工歯排列	可撤性義歯の人工歯排列を理解する。	臼歯部人工歯排列を説明する。	Ⅲ-9	無歯顎補綴治療学第4版 P218～P226、歯学生の パーシャルデンチャー第6 版 P55～P57	1.0
			ユニット11 可撤性義歯の 咬合様式	可撤性義歯の咬合様式を理解する。	全部床義歯の咬合様式を説明する。	Ⅲ-9		
14	12/11	都築尊	ユニット12 可撤性義歯の ろう義歯試 適・重合	可撤性義歯のろう義歯試適、埋没、重合、研磨を理解する。	歯肉形成の目的を説明する。	Ⅲ-21	無歯顎補綴治療学第4版 第13・14章、歯学生の パーシャルデンチャー第6 版 P241～P242	1.0
					ろう義歯試適時の検査事項を説明する。	Ⅲ-21		
					加熱重合法を説明する。	Ⅲ-21		
					流し込み法を説明する。	Ⅲ-21		
					マイクロ波重合法を説明する。	Ⅲ-21		
			ユニット13 可撤性義歯の 咬合器再装 着・削合	可撤性義歯のと咬合器再装着・削合を理解する。	研磨を説明する。	Ⅲ-21		
15	12/18	都築尊	ユニット13 可撤性義歯の 咬合器再装 着・削合	可撤性義歯のと咬合器再装着・削合を理解する。	スプリットキャスト法を説明する。	Ⅲ-21	無歯顎補綴治療学第4版 第15章	1.0
					テンチの歯型法を説明する。	Ⅲ-21		
					選択削合を説明する。	Ⅲ-21		
					自動削合を説明する。	Ⅲ-21		

小児歯科学 I 【講義】

科目番号 0D031211

後期： 15コマ
 評価責任者： 岡 暁子
 岡 暁子
 柏村晴子
 担当教員： 熊谷徹弥
 中嶋真理子
 湯浅健司（非常勤講師）

（一般目標）

胎生期から成人に至る期間における小児の全身および口腔領域の正常な発育について理解する。小児の成長発達の標準的な値、評価方法について学ぶ。小児の齲蝕治療について、乳歯・幼若永久歯の特徴をふまえて理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

I-5, III-3, III-7, IV-10

（教育方法）

教科書およびサブノートを用いた説明。

（学習方法）

教科書およびサブノートの流れに沿って授業が行われるので、シラバスに沿って予習復習を行うこと。また、参考書には、小児歯科疾患特有の硬組織疾患および軟組織疾患がカラー写真で掲載されているので、理解を深めるため復習に使用すること。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 17.0 時間】

（評 価）

記述試験 採点后2週間程度で成績を通知する。模範解答も配布を行う。

（教 科 書）

白川哲夫・福本 敏・岩本 勉・森川和政 編：小児歯科学 医歯薬出第6版（小児歯科全般の内容が分かりやすくカラーで解説されている）

（参 考 書）

パーフェクトマスター小児歯科学 第5版 医歯薬出版：（ポケットサイズで図表が多く分かり易く解説されている）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/3	岡	ユニット1 小児歯科概論・小児歯科学の臨床的意義	小児歯科学の歯科における位置づけと小児歯科治療の意義と目的を理解する。	小児歯科学の概念を説明できる。	I-5	小児歯科学と小児歯科医療教科書1・2章 サブノート（心身の発達）	1.0
2	9/10	柏村	ユニット2 小児の発育概論・頭部・顎・顔面形態の発達	小児歯科治療に必要な心身の発育・頭蓋・顎および顔面の発育を理解する。	発育の評価法と小児の生理的特徴を説明できる。	III-3	小児の発育総論・頭部・顎・顔面の発育 教科書3章 サブノート（心身の発達）	1.0
3	9/17	柏村	ユニット3 小児の口腔機能の発達	小児の成長発達に伴い獲得される口腔機能を理解する。	顎・顔面領域の発育の特徴を歴齡を基準に説明できる。	III-7	小児における口腔機能の発達 教科書4章 サブノート（口腔機能の発達）	1.0
4	9/24	岡	ユニット4 歯の発生と発育	歯の発生に関する組織学的知識を復習する	歯の発生における組織像を説明できる。	III-7	歯の発生と発育 教科書5章 サブノート（歯の発育）	1.0
5	10/8	熊谷	ユニット5 歯の形態異常・萌出異常 1	歯の形態異常について理解し、臨床的対応法を学ぶ。	歯の形態異常が起こる時期を歯の発生に照らし合わせて説明できる。	III-7	歯の発育の異常 萌出の異常 教科書5章 サブノート（歯の形成異常・萌出異常）	1.0
6	10/15	熊谷	ユニット6 歯の形態異常・萌出異常 2	歯の萌出異常について理解し、臨床的対応法を学ぶ。	歯の形態異常が起こる時期を歯の発生に照らし合わせて説明できる。	III-7	歯の発育の異常 萌出の異常 教科書5章 サブノート（歯の形成異常・萌出異常）	1.0
7	10/22	熊谷	ユニット7 歯の形態異常・萌出異常 3	歯の萌出異常について理解し、臨床的対応法を学ぶ。	歯の形態異常が起こる時期を歯の発生に照らし合わせて説明できる。	III-7	歯の発育の異常 萌出の異常 教科書5章 サブノート（歯の形成異常・萌出異常）	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
8	10/29	岡	中間テスト	これまでの授業内容の理解を確認するため中間テストを実施する	7割以上の獲得を目指す。	Ⅲ-7	中間テスト	5.0
9	11/5	柏村	ユニット8 乳歯・幼若永久歯の特徴	乳歯および幼若永久歯の解剖学的特徴を確認し、臨床的対応法を学ぶ。	乳歯・幼若永久歯の定義を説明できる。	Ⅲ-7	乳歯・幼若永久歯の特徴 教科書 7章 サブノート （乳歯・幼若永久歯の特徴）	1.0
10	11/12	柏村	ユニット9 小児の歯列および咬合の発育 1	乳歯列及び永久歯列の発育変化、咬合発育異常について理解する。	ヘルマンの歯齢における標準的な年齢を説明できる。	Ⅲ-7	小児における歯列・咬合発育の特徴 教科書6章 サブノート（歯列・咬合発育の特徴）	1.0
11	11/19	柏村	ユニット10 小児の歯列および咬合の発育 2	第一大臼歯の萌出・混合歯列期の初期咬合、永久歯列における最終咬合の推移を理解する	ターミナルプレーン・リーウェイスペースを理解している。	Ⅲ-7	小児における歯列・咬合発育の特徴 教科書6章 サブノート（歯列・咬合発育の特徴）	1.0
12	11/26	中嶋	ユニット11 小児の診療方針・小児患者への対応 1	小児の歯科診療において配慮すべき事項について理解する	小児歯科診療における医療面接の要点を説明できる。	I-5	小児の臨床における対応 教科書8章 サブノート （歯科診療と歯科対応）	1.0
13	12/3	湯浅	ユニット12 小児の診療方針・小児患者への対応 2	不協力児への医療心理学的対応法を学ぶ	治療の優先順位や行動変容法を説明できる。	IV-10	小児の歯科診療の流れ・医療安全 教科書9・10章 サブノート（齲蝕の診断と治療）	1.0
14	12/10	柏村	ユニット13 小児の齲蝕（総論）と齲蝕予防 1	乳歯・幼若永久歯の齲蝕の好発年齢・好発部位を知る。	年齢別の齲蝕の好発部位とその理由と対応法を説明できる。	IV-10	齲蝕治療 教科書11章 サブノート（齲蝕と予防）	1.0
15	12/17	柏村	ユニット14 小児の齲蝕（総論）と齲蝕予防 2	診断に基づいて、成長発達に配慮した治療計画の立て方を理解する	小児の成長発達に合わせた齲蝕予防法を説明できる。	IV-10	齲蝕治療 教科書11章 サブノート（齲蝕の診断と治療）	1.0

歯科矯正学Ⅰ 【講義】

科目番号 OD031212

後期：15コマ

評価責任者：玉置幸雄

担当教員：玉置幸雄、阿部朗子、梶原弘一郎、河村 純

（一般目標）

顎顔面骨格、歯・歯列および神経筋機構の成長発育に関する基礎知識を修得し、それらに基づいて正常咬合の成立と不正咬合の発現について理解する。また、不正咬合の診断法および治療に必要な生体力学や歯科材料学の基本的事項を理解するとともに、不正咬合の治療に必要な基本的知識を修得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-1, Ⅲ-3, Ⅲ-7, Ⅲ-11, Ⅲ-18, Ⅲ-21, IV-9

（教育方法）

プリントおよびパワーポイントによる講義

教科書を適宜使用

（実習・演習）

（学習方法）

各ユニットの授業開始までに「予習の項目」にある教科書の該当箇所を予習し、授業では知識の整理と理解に努め、復習ではプリントと講義後にmoodleによる毎回の小テストを核として知識の定着化をはかる。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0 時間】

（評価）

定期試験（後期終了後）：100%（記述試験および客観試験 ※但し、毎回の講義後小テストについては設定された合格点をクリアする必要がある）

希望者に解答用紙を呈示し、講義プリントと教科書を参照しながらフィードバックする。

（教科書）

後藤滋己、齋藤 功、西井 康、榎 宏太郎、森山啓司、山城 隆 他編『歯科矯正学 第7版』、医歯薬出版、2024

（参考書）

William R. Proffit著、高田健治訳、『新版 プロフィットの現代歯科矯正学』、クインテッセンス出版、2004

（歯学生から専門医までを対象に歯科矯正学の理論をわかりやすく解説した本）

西井 康、新井一仁他著、歯科矯正学エッセンシャルテキスト、永末書店、2023

（歯科矯正学の講義の理解を助け、知識の整理をするための本）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/2	玉置	ユニット1 歯科矯正学序論	歯学における歯科矯正学の位置づけ、および矯正治療の目的と意義を理解する。	成長発育と不正咬合の発現の概要を述べる。	Ⅲ-11	教科書1章・2章	1.0
					不正咬合による障害を列挙する。	Ⅲ-11		
					矯正治療手段の概要を述べる。	IV-9		
					予防矯正・抑制矯正・本格矯正を説明する。	IV-9		
2	9/9	玉置	ユニット2 成長と発育Ⅰ・概論	成長発育の概念と評価方法を理解する。	成長発育の定義を述べる。	Ⅲ-3	教科書3章—Ⅰ	1.0
					成長発育パターンを説明する。	Ⅲ-3		
					成長発育段階の評価方法を説明する。	Ⅲ-3		
3	9/16	玉置	ユニット3 成長と発育Ⅱ・骨の成長発育	頭蓋・顎顔面骨格の成長発育を理解する。	骨形成様式を述べる。	Ⅲ-7	教科書3章—Ⅱ・Ⅲ	1.0
					脳頭蓋の成長発育機構を説明する。	Ⅲ-7		
					顔面頭蓋の成長発育機構を説明する。	Ⅲ-7		
4	9/22	玉置	ユニット4 成長と発育Ⅲ・口腔機能の発達	口腔機能の発達過程を理解する。	乳児型嚥下と成熟型嚥下を比較する。	Ⅲ-7	教科書3章—Ⅳ	1.0
					咀嚼・発音機能の発達を説明する。	Ⅲ-7		
			ユニット5 成長と発育Ⅳ・特論	顎顔面の成長発育に関する基本的理論を理解する。	顎顔面成長におけるV理論を説明する。	Ⅲ-7		
					ファンクショナルマトリックスを説明する。	Ⅲ-7		
					個成長と平均成長を比較する。	Ⅲ-3		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
5	10/7	阿部	ユニット6 正常咬合	正常咬合の概念および成立の条件を理解する。	正常咬合の特徴を述べる。	Ⅲ-11	教科書4章—Ⅱ	1.0
					正常咬合の種類と定義を述べる。	Ⅲ-11		
					正常咬合の成立・保持条件を説明する。	Ⅲ-11		
6	10/14	梶原	ユニット7 不正咬合Ⅰ・不正咬合の種類	不正咬合の概念と特徴を理解する。	個々の歯の位置異常を列挙する。	Ⅲ-11	教科書4章—Ⅲ—2 教科書4章—Ⅲ—3	1.0
					数歯にわたる位置異常を列挙する。	Ⅲ-11		
					歯列弓形態の異常を列挙する。	Ⅲ-11		
					上下歯列弓関係の異常を列挙する。	Ⅲ-11		
			ユニット8 不正咬合Ⅱ・不正咬合の分類	不正咬合の分類法の種類と定義を理解する。	Angleの分類を説明する。	Ⅲ-11		
					高橋の分類を説明する。	Ⅲ-11		
7	10/21	玉置	ユニット9 不正咬合Ⅲ・不正咬合の原因1	先天的原因による不正咬合の発現を理解する。	Angleの分類を説明する。	Ⅲ-11	教科書5章—I・Ⅱ	1.0
					顎顔面領域に関連した先天異常と歯列・咬合の特徴を述べる。	Ⅲ-18		
					先天的・局所的原因による不正咬合の発現を説明する。	Ⅲ-11		
8	10/28	玉置	ユニット10 不正咬合Ⅳ・不正咬合の原因2	後天的原因による不正咬合の発現を理解する。	後天的・全身的原因による不正咬合の発現を説明する。	Ⅲ-18	教科書5章—Ⅲ	1.0
					後天的・局所的原因による不正咬合の発現を説明する。	Ⅲ-11		
9	11/4	玉置	ユニット11 診断学概論	矯正診断の概念と診断過程を理解する。	診査・検査から診断にいたる流れを説明する。	Ⅳ-9	教科書9章—I	1.0
					一般的・全身的・局所的診査を説明する。	Ⅳ-9		
					口腔模型を用いた検査方法を述べる。	Ⅳ-9		
					各種X線写真を用いた検査方法を述べる。	Ⅳ-9		
10	11/11	玉置	ユニット12 症例分析	不正咬合の形態的分析と機能的分析を理解する。	模型計測・歯冠幅径の予測方法を説明する。	Ⅳ-9	教科書9章—I・Ⅱ	1.0
					セファロ分析の概要を説明する。	Ⅳ-9		
					機能的異常の検査と分析方法を説明する。	Ⅳ-9		
11	11/18	阿部	ユニット13 矯正力と固定	矯正力の性質と固定の概念を理解する。	矯正力の種類と作用様式を説明する。	Ⅳ-9	教科書13章・14章	1.0
					歯の移動様式を列挙する。	Ⅳ-9		
					固定の意義を述べる。	Ⅳ-9		
					固定を性質・抵抗源の部位・強さにより分類する。	Ⅳ-9		
12	11/25	阿部	ユニット14 矯正材料と器具	矯正治療に用いる器材の種類と用途を理解する。	矯正治療に用いる器具の名称と用途を述べる。	Ⅲ-21	教科書15章—I・Ⅱ・Ⅲ、 付録—I・Ⅱ	1.0
					矯正歯科材料の種類と用途を述べる。	Ⅲ-21		
					矯正歯科材料の物理的性質と所要条件を説明する。	Ⅲ-21		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
13	12/2	梶原	ユニット15 矯正力による 生体反応 1	矯正力によって生じる生体反応を理解する。	矯正力によって圧迫側歯周組織に生じる組織学的変化を説明する。	Ⅲ-1	教科書 7 章—Ⅰ・Ⅱ	1.0
					矯正力によって牽引側歯周組織に生じる組織学的変化を説明する。	Ⅲ-1		
14	12/9	河村	ユニット16 矯正力による 生体反応 2	効率的で安全な歯の移動を行う矯正力を理解する。	最適な矯正力の考え方を説明する。	Ⅳ-9	教科書 7 章—Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	1.0
					過大な矯正力による障害を説明する。	Ⅳ-9		
					差動矯正力を説明する。	Ⅳ-9		
15	12/16	玉置	ユニット17 成長発育および咬合のまとめ	これまでに学習した成長と発育、正常咬合および不正咬合に関する知識を整理して理解する。	成長と発育、正常咬合および不正咬合に関する重要事項を説明する。	Ⅲ-11	配布資料	1.0

介護実習 【実習】

科目番号 0D031209

後期：15コマ

評価責任者：内藤 徹（高齢者歯科）

梅崎一朗、益崎孝（高野台歯科）、

鍵山智子（特定医療法人社団三光会 誠愛リハビリテーション病院）、武富賢治（たけとみクリニック）、

担当教員：秋竹 純（福岡医療短期大学）、

青木久恵、宮園真美、晴佐久 悟、中島富有子、内田莊平、岩本利恵、門司真由美、秋永和之（福岡看護大学）

（一般目標）

口腔医学の基本となる全人的歯科医療の実践に役立てるため、また超高齢社会における高齢者医療と要介護高齢者の福祉のシームレスな状態に対応できるような医療職の養成に資するために、高齢者への対応に必要な身体介護の基本的なスキルを学び、食事介助・口腔ケアなどの基本的な介護技法を身につける。また、医療人に必要とされる基本的態度と倫理観と要介護者への多職種によるチーム介護を知るために、看護学生と歯学生の協働をふまえた実習を行う。さらに、高齢者の心身の特徴に対する理解を深め、保健・福祉の法制や仕組みに関する基礎知識の習得を図る。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

I-4, II-3, III-13, IV-17, V-4

（教育方法）

身体介護と高齢者コミュニケーションについての基本的な技術を身につけるための実習を行う。また、要介護高齢者への医療や介護について実践的な感覚を養うため、地域医療に携わる医療者によって、高齢社会における医療と福祉の現状への理解を深めるための講義を受講する。

（ディスカッション・ディベート）（グループワーク）（プレゼンテーション）（実習・演習）

（学習方法）

実習要領に添付する資料に基づく介護に関する基本的な要項の予習。高齢者介護施設での食事介助、口腔ケア、コミュニケーションなどの介護体験とそれをもとにした高齢者介護、高齢者医療、高齢社会などに関する討議を行う。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 15.0 時間】

（評 価）

実習時の行動観察記録（50%）、提出物・レポート（50%）。

実習終了後に、行動観察記録およびレポートへのコメントを配布。

（教 科 書）

内藤徹、秋竹純、牧野路子、水谷慎介：高齢者の歯科診療はじめての一步介護介助の基本スキル、医歯薬出版、東京、2017

（介護に必要なスキルがコンパクトにまとめられている。とくに歯科診療への応用ができる手技についての解説が詳しい。）

（参 考 書）

内藤・秋竹・牧野・水谷：「高齢者の歯科診療はじめての一步 介護・介助の基本スキル」、医歯薬出版株式会社、¥3300

歯科診療に必要な介護、介助のスキルについて、豊富な写真で解説している。実習の際に活用できる内容。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/26	内藤、梅崎、益崎、秋竹、青木、宮園、晴佐久、三好、門司	ユニット1 介護演習オリエンテーション	高齢社会における医療と福祉の位置づけや要介護高齢者の居住施設の概要について理解する。	要介護高齢者の保健・医療・福祉の概要を説明できる。	I-4	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
2	9/26	[2回] 鍵山、内藤、梅崎、益崎、秋竹、青木、宮園、晴佐久、中島、内田、岩本、門司、秋永	ユニット2 多職種グループ学習	歯科と看護のそれぞれの立場から、患者に対する口腔ケア・医療について協議し、全体発表の資料を作成する。	歯科と看護のそれぞれの立場から、患者に対する口腔ケア・医療について協議し、全体発表の資料を作成する。	Ⅱ-3	[2回] 実習書（事前に配布）の該当部分を確認	[2] 1.0
3	9/26							[3] 1.0
4	9/26						[3回] 実習書（事前に配布）の該当部分を確認	[4] 1.0
		[3回] 武富、内藤、梅崎、益崎、秋竹、青木、宮園、晴佐久、中島、内田、岩本、門司、秋永 [4回] 内藤、梅崎、益崎、秋竹、青木、宮園、晴佐久、中島、内田、岩本、門司、秋永					[4回] 実習書（事前に配布）の該当部分を確認	
5		内藤、梅崎、益崎、秋竹、青木、宮園、晴佐久、中島、内田、岩本、門司、秋永	ユニット3 介護基本技術演習	介護に必要な高齢者とのコミュニケーション、基本的な身体介助技術、介護に関わる職種、食事介助、口腔ケアを理解する。	高齢者とのコミュニケーションを説明できる。	V-4	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	[5] 1.0
6								[6] 1.0
7								[7] 1.0
8					車椅子の操作を行うことができる。	Ⅲ-13		[8] 1.0
9								[9] 1.0
10					口腔ケアの手順を説明できる。	Ⅲ-13		[10] 1.0
11	10/6	内藤、梅崎、益崎、秋竹、青木、宮園、晴佐久、中島、内田、岩本、門司、秋永	ユニット4 多職種連携ケーススペースド・ラーニングⅠ	歯学生と看護学生との全体発表を通じて、介護老人福祉施設の入所者に対する多職種連携の口腔ケア・医療について学習する。	歯学生と看護学生との全体発表を通じて、介護老人福祉施設の入所者に対する多職種連携の口腔ケア・医療について学習する。	Ⅲ-13	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	[11] 1.0
12	10/6							[12] 1.0
13	10/6							[13] 1.0
14	10/20	内藤、梅崎、益崎、秋竹、青木、宮園、晴佐久、中島、内田、岩本、門司、秋永	ユニット5 多職種連携ケーススペースド・ラーニングⅡ	地域包括ケアや在宅医療、終末期の医療について理解し、要介護高齢者のサポートのための医療と福祉の連携について考察する。	在宅医療の概要を説明できる。	Ⅲ-13	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
15	10/20	同上	ユニット5 多職種連携ケーススペースド・ラーニングⅡ	地域包括ケアや在宅医療、終末期の医療について理解し、要介護高齢者のサポートのための医療と福祉の連携について考察する。	在宅医療の概要を説明できる。	Ⅲ-13	実習書（事前に配布）の該当部分を確認	1.0

内科学Ⅱ 【講義】

科目番号 OD031314

後期：15コマ

評価責任者：得能智武

担当教員：得能智武、松元幸一郎

（一般目標）

口腔は体の中の重要な臓器であり、口腔の障害が全身の疾患を引き起こし、同時に全身疾患が口腔に病変を引き起こす。また、超高齢化社会においては、全歯科領域においても全身疾患を有する患者を診療する機会が増加している。そこで、医口腔医学概論および内科学Ⅰで学んだことを基礎として、口腔医学を学習し実践する上で必要となる臨床医学をさらに主要臓器別に学習する。すなわち、生体活動の基本である体液循環・呼吸を担う循環器・呼吸器・腎臓の病態生理と代表的な疾患の臨床を学び、口腔医学における全体的な視点の重要性を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー〔DP〕）

Ⅲ-17

（教育方法）

教科書・プリントによる講義

マルチメディアによる説明

（学習方法）

授業前に下記教科書や参考書の該当箇所を読み、授業後は教科書や参考書と共に授業時に配布された資料・プリント等を参照して学習する。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：15.0時間】

（評価）

中間試験（30%）、定期試験（70%）

小テストを行い、次の授業で解答状況にあわせて解説を行う。

各試験の後にも質問を受け付ける。

（教科書）

井村裕夫 編集、『わかりやすい内科学 第5版』、文光堂、2023

（参考書）

千葉俊美、山田浩之 編集、『歯科医師のための内科学』第1版、医歯薬出版、2021（歯科医師向けの内科学の教科書）

西田 次郎 他 編集、『歯科のための内科学』第4版、南江堂、2018（歯科のための内科学の教科書）

矢崎義雄 総編集、『内科学』第12版、朝倉書店、2022（内科学の代表的なテキスト）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOS）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/4	得能	ユニット1 腎疾患の診断と電解質異常	腎臓の形態と機能を知り、腎疾患の診断手順と電解質異常を理解する。	腎臓の構造と機能を説明する。 腎臓疾患の臨床検査を列挙し、説明する。 腎疾患の症候を列挙する。 腎疾患のスペクトラムを述べる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第10章腎・尿路疾患791-807頁	1.0
2	9/11	得能	ユニット1 腎疾患の診断と電解質異常	腎臓の形態と機能を知り、腎疾患の診断手順と電解質異常を理解する。	体液調節の機序を説明する。 ナトリウム、カリウムの電解質異常の診断と治療を述べる。 酸塩基平衡異常を説明する。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第10章腎・尿路疾患862-885頁	1.0
3	9/18	得能	ユニット2 代表的腎疾患	代表的な腎疾患と腎不全の診断と治療を理解する。	糸球体疾患、ネフローゼ症候群の病態と診断・治療を説明する。 糖尿病性腎症の診断と治療を述べる。 腎尿路系の結石症、感染症、腫瘍の臨床を述べる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第10章腎・尿路疾患827-853頁、892-899頁	1.0
4	9/25	得能	ユニット2 代表的腎疾患	代表的な腎疾患と腎不全の診断と治療を理解する。	慢性腎疾患の診断基準を述べる。 急性腎不全の診断と治療を説明する。 慢性腎不全の診断と治療を説明する。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第10章腎・尿路疾患808-827頁、853-862頁、885-891頁	1.0
5	10/9	得能	ユニット1 腎疾患の診断と電解質異常				中間試験	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
6	10/16	得能	ユニット3 循環器疾患診療の基礎と心機能不全	循環器疾患の診療の基礎と診断法を知り、循環生理の異常である心不全の診断と治療を理解する。	循環器疾患の病歴聴取と診察法を説明できる。 循環器に関する主要な症候を列挙できる。 循環器疾患の代表的な検査法を説明できる。 心機能の病態生理と評価法を列挙できる。 急性心不全の診断と治療を説明できる。 慢性心不全の診断と治療を説明できる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第2章循環器疾患 97-99頁、921-922頁	1.0
7	10/23	得能	ユニット4 心筋虚血と不整脈	虚血性心疾患と不整脈疾患の診断と治療を理解する。	動脈硬化の発症機序を説明できる。 心筋虚血の病態生理に基づき、狭心症の症候を説明できる。 急性心筋梗塞の診断と治療を説明できる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第2章循環器疾患 100-106頁	1.0
8	10/30	得能	ユニット4 心筋虚血と不整脈	虚血性心疾患と不整脈疾患の診断と治療を理解する。	不整脈の検査法を列挙できる。 頻脈性不整脈疾患を分類できる。 徐脈性不整脈疾患を分類できる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第2章循環器疾患 133-155頁	1.0
9	11/6	得能	ユニット5 代表的循環器疾患	代表的循環器疾患のスペクトラムと臨床像を知り、脈管疾患の臨床を理解する。	先天性心疾患と弁膜症を説明できる。 心筋症と心筋炎の臨床を説明できる。 心内膜炎と心外膜炎を説明できる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第2章循環器疾患 177-191頁	1.0
10	11/13	得能	ユニット5 代表的循環器疾患	代表的循環器疾患のスペクトラムと臨床像を知り、脈管疾患の臨床を理解する。	大動脈疾患の診断を説明できる。 高血圧症の診断基準と合併症を列挙する。 高血圧症の治療を説明する。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第2章循環器疾患 106-132、155-176頁、206-239頁	1.0
11	11/20	松元	ユニット6 呼吸器の構造・機能と代表的呼吸器疾患	呼吸器の構造と機能に関する知識を身につけ、代表的な呼吸器疾患を理解する。	呼吸器（気道・肺・縦隔）系の基本的な構造と呼吸生理を説明する。 呼吸器症状を分類して、具体的に述べる。 主な呼吸器疾患の検査異常所見を理解し、説明する。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第1章呼吸器疾患 3-6頁、909-923頁	1.0
12	11/27	松元	ユニット6 呼吸器の構造・機能と代表的呼吸器疾患	呼吸器の構造と機能に関する知識を身につけ、代表的な呼吸器疾患を理解する。	慢性閉塞性肺疾患の診断と治療を述べ、喫煙との関係を説明する。 ウイルス感染症、細菌感染症の病因と治療法を述べる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第1章呼吸器疾患 7-14頁、909-923頁	1.0
13	12/4	松元	ユニット6 呼吸器の構造・機能と代表的呼吸器疾患	呼吸器の構造と機能に関する知識を身につけ、代表的な呼吸器疾患を理解する。	代表的なアレルギー性疾患の病因と臨床症状を説明する。 間質性肺疾患の病態と特徴を述べる。 塵肺と職業性肺疾患の原因と診断について述べる。 肺結核の病態と診断について述べる。	Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17 Ⅲ-17	教科書の第2章呼吸器疾患 14-20頁、29-63頁	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
14	12/11	松元	ユニット6 呼吸器の構造・機能と代表的呼吸器疾患	呼吸器の構造と機能に関する知識を身につけ、代表的な呼吸器疾患を理解する。	肺癌の病因・疫学・生物学的特徴を述べる。	Ⅲ-17	教科書の第2章呼吸器疾患 63-81頁、85-89頁	1.0
					胸膜の構造・生理を理解し、気胸・胸膜系の症状を述べる。	Ⅲ-17		
					縦隔について述べ、縦隔腫瘍を説明する。	Ⅲ-17		
					嚥下性肺炎の成因を説明できる。	Ⅲ-17		
					嚥下性肺炎の治療を説明する。	Ⅲ-17		
15	12/18	得能	ユニット5 代表的循環器疾患				臨床検査全体	1.0

隣接医学Ⅱ（整形）【講義】

科目番号 OD031312B

後期：5コマ
評価責任者：西尾淳
西尾淳
担当教員：千々岩芳朗
篠原由紀

（一般目標）

1. 運動器の解剖と正常な機能を修得する。
2. 骨組織の解剖、発生、成長、老化、代謝について基本的知識を修得する。
3. リハビリテーションの意義、目的、方法について理解する。
4. 主要な運動器外傷の病態、原因、症候、診断・鑑別診断と治療を知る。
5. 主要な運動器疾患の病態、原因、症候、診断・鑑別診断と治療を知る。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-2, Ⅲ-3, Ⅲ-5, Ⅲ-17

（教育方法）

講義

1. 基礎的な事柄を解りやすく説明する。
2. 代表的疾患について、原因、病態、治療を解説する。
3. 暗記型でなく、考え方を重視した講義を行う。
4. 理解度を確かめるため、学生からの質問を積極的に受け入れる。

視聴覚教育

1. パワーポイントを使った代表的疾患の説明（適宜講義の中に組み込まれる）。

（学習方法）

予習方法：筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時の学習内容）について復習しておく。
復習方法：配付資料で重点項目を理解する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 5.0 時間】

（評価）

1. 客観試験
約15題の正誤式試験（100%）
2. レポート
客観試験で学力が劣る学生に行う。
3. 最終評価の方法
客観試験を中心に評価する。
4. 学生へのフィードバックの時期と方法
定期試験時に問題を持ち帰らせ、自己学習を促す。

（教科書）

なし

（参考書）

井樋栄二、津村弘 監修 田中栄、高木理彰、松田秀一 編集『標準整形外科学 第15版』医学書院
医学生用に書かれた標準的な教科書のため

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/1	千々岩	ユニット1 運動器の解剖と正常な機能	運動器の解剖と正常な機能について基礎的知識を理解する	運動器の解剖と正常な機能を具体的に述べる	Ⅲ-2	筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時履修）の知識整理	1.0
2	9/8	千々岩	ユニット2 骨組織の解剖、発生、成長、老化、代謝	骨組織の解剖、発生、成長、老化、代謝について基本的知識を修得する	骨組織の解剖、発生、成長、老化、代謝について具体的に説明する	Ⅲ-3	筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時履修）の知識整理	1.0
3	9/22	篠原	ユニット3 リハビリテーション	リハビリテーションの意義、目的、方法について理解する	リハビリテーションの意義、目的、方法について説明できる	Ⅲ-5	筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時履修）の知識整理	1.0
4	10/6	西尾	ユニット4 主要な運動器外傷	主要な運動器の外傷の病態、原因、症候、診断・鑑別診断と治療を知る	主要な運動器外傷の診断・治療を具体的に述べる	Ⅲ-5	筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時履修）の知識整理	1.0
5	10/27	西尾	ユニット5 主要な運動器疾患	主要な運動器疾患の病態、原因、症候、診断・鑑別診断と治療を知る	主要な運動器疾患の病態、原因、症候、診断・鑑別診断を列記する	Ⅲ-17	筋骨格系（運動器）の解剖・生理（1年時、2年時履修）の知識整理	1.0

隣接医学Ⅱ（泌尿器）【講義】

科目番号 OD031312D

後期：2コマ

評価責任者：学生部長、学生部次長

担当教員：高橋 康一

（一般目標）

歯科領域における診察、治療を行う場合、全身疾患に対し注意を払わなければ重篤な合併症をきたすことを知る。全身循環動態の一旦を担う泌尿生殖器系臓器に生じる疾患の基礎的知識は、歯科治療を全身治療の一環として捉えた場合、必須のものとなることを理解する。排尿を障害する尿路閉塞性疾患の病態の理解、および致死状況にも至る可能性のある、尿路性器疾患の概念修得を目標とする。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-4, Ⅲ-5, Ⅲ-17, Ⅲ-19

（教育方法）

教科書・スライド・プリントによる講義

（学習方法）

概説であり、詳細は各自が成書を熟読すること 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：2.0 時間】

（評価）

記述試験（100%）評価判定後、評価結果を呈示する。

（教科書）

なし

（参考書）

内藤誠二編 新泌尿器科学 改訂4版 南山堂

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	11/20	高橋	尿路閉塞性疾患の概説 尿路結石症、神経因性膀胱、前立腺肥大症、腎不全など	上部尿路閉塞の代表的疾患として尿路結石症、下部尿路閉塞疾患として、神経因性膀胱や前立腺肥大症、これらの進行による腎後性腎不全を説明できる。	尿路閉塞を生じたときの病理を述べる。	Ⅲ-5	参考書P165～P173、225～243、201～205	1.0
					尿路結石症の症状、診断、治療を説明できる。	Ⅲ-17		
					前立腺肥大症の症状、診断、治療を説明できる。	Ⅲ-17		
					神経因性膀胱の症状、診断、治療を説明できる。	Ⅲ-17		
2	11/27	高橋	尿路性器感染症	腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎、精巣上体炎の定義、診断、治療を説明でき、そのなかで重症尿路性器感染症を提示する。	それぞれの感染症の診断を適確に行える。	Ⅲ-4	参考書P143～P163、P343～P361、P245～P257	1.0
					抗菌薬（内科的）治療の限界と外科的治療の有用性を理解する。	Ⅲ-5		
			泌尿器科的緊急症、外傷	外科的治療を要する泌尿器科的緊急症を知り、その対処法を理解する。	緊急的処置を要する泌尿器科疾患を列挙する。	Ⅲ-19		
					上記の治療法を知り、適確な対処法を判断する。	Ⅲ-19		

隣接医学Ⅱ（耳鼻科）【講義】

科目番号 OD031312C

後期：5コマ

評価責任者：山野貴史

担当教員：山野貴史
縫田竜青

（一般目標）

耳鼻咽喉科領域は解剖学的にも生理学的にも歯科領域ときわめて深い関連性を持っている。したがって、歯科医学を学ぶためには、隣接する耳鼻咽喉科領域を十分に理解することが不可欠ある。

聴器、平衡器、鼻副鼻腔、咽頭喉頭の構造と機能を理解し、病理生理を把握する。各疾患の病因、診断、治療に関する知識を獲得する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅲ-17

（教育方法）

プリント・スライドなどによる講義

（実習・演習）

（学習方法）

参考書・プリントによる予習復習 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 3.0 時間】

（評価）

定期試験、小テスト等の解説を授業の中で行う。

（教科書）

（参考書）

「歯科医師のための耳鼻咽喉科頭頸部外科学 著者：五十嵐文雄ほか」医歯薬出版

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/5	縫田竜青 山野貴史	耳	聴覚の機能と構造を理解する。	耳疾患の症候、検査治療を説明できる。	Ⅲ-17	プリント・参考書の該当箇所	1.0
2	9/12	縫田竜青 山野貴史	鼻・副鼻腔	鼻副鼻腔疾患の症候、検査治療を理解する。	副鼻腔の解剖と炎症、アレルギー疾患について説明できる。	Ⅲ-17	プリント・参考書の該当箇所	1.0
3	9/16	縫田竜青 山野貴史	口腔・咽頭	口腔咽頭の構造と疾患を理解する。	口腔咽頭の疾患について、歯科との関連を説明できる。	Ⅲ-17	プリント・参考書の該当箇所	1.0
4	9/19	縫田竜青 山野貴史	喉頭	喉頭の構造と機能について理解する。	喉頭疾患について急性期の対応を含めた診断治療について説明できる。	Ⅲ-17	プリント・参考書の該当箇所	1.0
5	10/10	縫田竜青 山野貴史	頭頸部	頭部、気管、食道の構造を理解する。	耳下腺、顎下腺疾患や悪性腫瘍について説明できる。	Ⅲ-17	プリント・参考書の該当箇所	1.0

隣接医学Ⅱ（眼科）【講義】

科目番号 OD031312A

後期：5コマ

評価責任者：大島裕司

担当教員：大島裕司

（一般目標）

臨床医として必要な眼科学の基礎的知識の習得を目的とする。眼科学各論においては各疾患の病態の理解を通じて、局所の病変と全身疾患との関連を考える能力をつける。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP]）

Ⅲ-2, Ⅲ-4, Ⅲ-5, Ⅲ-17

（教育方法）

講義（プリント、スライド）による。

（学習方法）

授業前に下記教科書の該当部分を予習すること。

授業後に配布したシラバスの内容を復習する。【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間：5.0時間】

（評価）

論述試験、もしくは多枝選択試験による。

フィードバックとして試験後に模範解答、解説を配布し、学生の自己採点を通して重要な知識の再確認を行わせる。

（教科書）

松橋正和 編 「よくわかる病態生理 13 眼疾患」 日本醫事新報社 2009

目の解剖、生理、疾患のポイントが、わかりやすいイラストで簡潔に解説されている。

（参考書）

大鹿哲郎 他 編集「眼科学」文光堂 2020

中澤満 他 編集「標準眼科学」医学書院 2024

歯科医にとって必要で十分な記載がある。

回	日	担当者	ユニット	学習目標（GIO）	行動目標（SBOs）	DP	予習の項目	必要時間
1	10/14	中村武彦	ユニット1 眼の解剖と生理	1) 眼球、眼付属器の解剖と機能を理解する。	視球の構造と役割を説明することができる。	Ⅲ-2	「よくわかる病態生理 13 眼疾患」の該当箇所	1.0
			ユニット2 眼の神経支配とその異常	2) 眼周囲組織の神経支配とその異常について理解する。	眼周囲組織の神経支配とその異常について説明できる。	Ⅲ-2		
2	10/21	姫野夏季	ユニット3 結膜疾患	1) 結膜炎（感染性、アレルギー性）の病像、治療について理解する。	結膜炎（感染性、アレルギー性）の病像、治療について説明できる。	Ⅲ-4	「よくわかる病態生理 13 眼疾患」の該当箇所	1.0
			ユニット4 角膜疾患	2) 代表的角膜疾患の病態について理解する。	代表的角膜疾患の病態について説明ができる。	Ⅲ-17		
			ユニット5 ドライアイ	3) ドライアイの病態と治療について理解する。	ドライアイの病態と治療について説明できる。	Ⅲ-5		
			ユニット6 シェーグレン症候群	4) シェーグレン症候群の病態と治療について理解する。	シェーグレン症候群の病態と治療について説明できる。	Ⅲ-5		
			ユニット7 Stevens-Johnson症候群	5) Stevens-Johnson症候群の病態について理解する。	Stevens-Johnson症候群の病態について説明できる。	Ⅲ-5		
3	10/28	中村武彦	ユニット8 白内障	1) 白内障の病態を理解する。	白内障の病態を説明できる。	Ⅲ-17	「よくわかる病態生理 13 眼疾患」の該当箇所	1.0
			ユニット9 緑内障	2) 緑内障の病態を理解する。	緑内障の病態を説明できる。	Ⅲ-17		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
4	11/4	大島裕司	ユニット10 糖尿病網膜症	1) 糖尿病網膜症の病態を理解する。	糖尿病網膜症の病態について説明することができる。	Ⅲ-17	「よくわかる病態生理 13 眼疾患」の該当箇所	1.0
			ユニット11 加齢黄斑変性	2) 加齢黄斑変性について理解する	加齢黄斑変性について説明できる	Ⅲ-17		
			ユニット12 その他の眼底疾患	3) その他の代表的な眼底疾患について理解する	その他の代表的な眼底疾患について説明できる。	Ⅲ-17		
5	11/11	大島裕司	ユニット13 ぶどう膜炎	1) ぶどう膜炎の病態について理解する。	ベーチェット病、サルコイドーシスの病態と治療について説明することができる。	Ⅲ-5	「よくわかる病態生理 13 眼疾患」の該当箇所	1.0
			ユニット14 IgG4関連疾患	2) IgG4関連疾患について理解する。	IgG4関連疾患の病態について説明することができる。	Ⅲ-17		

臨床栄養学 【講義】

科目番号 0D031310

後期：15コマ

評価責任者：内藤 徹

担当教員：中園栄里（福岡医療短期大学）、馬場篤子（福岡医療短期大学）、園田英人、得能智武、内藤 徹

（一般目標）

健康を維持する上で必要な栄養素の代謝や機能を理解し、ライフステージにおける食生活と栄養の関わりを把握するとともに、病気と栄養との関連性や栄養管理などを修得する。さらに国民栄養の現状と問題点を知り、健康の維持、増進をはかる方法を理解する。

（獲得できるディプロマ・ポリシー [DP] ）

Ⅲ-1, Ⅲ-3, Ⅲ-5, Ⅲ-13, IV-1, IV-3, IV-4, IV-5

（教育方法）

講義と示説

（学習方法）

各ユニットの授業項目に該当する教科書や参考書の関連箇所および予習の項目について予習、復習する。 【単位修得に必要な授業外学習（予習・復習）時間： 22.5 時間】

（評 価）

定期試験（客観試験、記述試験の両方のスタイルを含む）（100%）
試験終了後に、随時学生からの質問に回答する。

（教 科 書）

指定しない。プリントを配布する。

（参 考 書）

五明紀春他 編集 スタンダード人間栄養学「基礎栄養学」、「応用栄養学」朝倉書店、2010
（基礎と応用の2編よりなっており、図や表が多く、分かりやすく解説されている）
・ 貴邑富久子、根来英雄 共著「シンプル生理学」（改訂第5版）、南江堂、2005
（生体の基本的な機能とそのメカニズムを理解する上で有用である）
・ 佐藤雅志、鈴木俊夫 著、「在宅老年者の歯科治療入門」、医歯薬出版、1991
（概論は簡潔に記載しており、実例により実践的な内容で理解しやすい。別講義にて教科書指定）
・ Poul Holm-Pedersen・Harald Løe 著、渡邊 誠 監修、「高齢者歯科学」、末永書店、2000
（栄養とケアを組み合わせる記載、バランスがとれている）
・ 日本老年医学会 編、「老年医学 系統講義テキスト」西村書店、2013
（老年医学の全般について詳細な記述。栄養、診察、老年疾患、在宅医療まで幅広くカバー）
・ 渡邊 昌 著、「食事でがんは防げる」、光文社、2004
（がん発生とがん予防に関わる食生活が読みやすく解説されている）

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
1	9/1	中園	栄養素と代謝および機能（栄養素の摂取、吸収および代謝）	栄養素の摂取、吸収および代謝について理解する	栄養素を分類し、各々の吸収機序について述べる。	Ⅲ-1	スタンダード人間栄養学「基礎栄養学」 1) 栄養の吸収、代謝に関する部分 2) 基礎代謝に関する部分	1.5
					糖質、脂質、タンパク質の代謝について説明する	Ⅲ-1		
					基礎代謝に影響する因子を挙げ、代謝への影響を説明する	Ⅲ-1		
2	9/5	中園	栄養素と代謝および機能（栄養素の機能）	栄養素の機能について理解する。	三大栄養素、ビタミン、無機質の機能を述べる	Ⅲ-1	スタンダード人間栄養学「基礎栄養学」 1) 栄養の機能に関する部分 2) 栄養素の欠乏に関する部分	1.5
					栄養素の欠乏によって生じる生体機能への影響を述べる	Ⅲ-5		
3	9/8	中園	食事と栄養指導（日本人の食事摂取基準の成り立ち）	日本人の食事摂取基準の成り立ちを理解する	食事摂取基準策定の目的を説明する	IV-1	厚生労働省HP：「日本人の食事摂取基準」（2025年版）を参照	1.5
					食事摂取基準に設定されている指標を示す	IV-3		
					栄養指導の場面で、食事摂取基準をどのように活用するかを述べる	IV-5		
4	9/12	中園	食事と栄養指導（国民の栄養状態の問題点考察）	国民健康・栄養調査の結果より、国民の栄養状態の問題点を考察する。	国民健康・栄養調査の概要を説明する	Ⅲ-5	厚生労働省HP：国民健康・栄養調査報告結果 を参照	1.5
					栄養評価を行うための食事調査の方法を述べる	IV-3		

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
5	9/19	中園	食事と栄養指導（生活習慣病を予防するための食事）	生活習慣病を予防するための食事を理解する。	生活習慣病を予防するための食事について食事バランスガイドを使って説明する	Ⅳ-5	スタンダード人間栄養学「応用栄養学」p83～106 「コメディカル病理学」第2版 P.2, 6-7, 24-25, 43-44, 65-66 農林水産省HP：「食事バランスガイド」について	1.5
6	10/17	中園	運動・ストレス・環境と栄養管理（ストレス負荷や異常環境下で必要な栄養）	ストレス負荷や異常環境下で必要な栄養について理解する	ストレス管理のための正しい食生活について述べる 異常環境下における栄養管理について述べる	Ⅳ-5 Ⅳ-5	スタンダード人間栄養学「応用栄養学」の運動・ストレス・環境と栄養管理に関する部分	1.0
7	10/24	中園	運動・ストレス・環境と栄養管理（運動時の食事摂取量）	運動時の食事摂取量について理解する	運動時の栄養管理について述べる	Ⅲ-5	スタンダード人間栄養学「応用栄養学」の運動・ストレス・環境と栄養管理に関する部分	1.5
8	10/31	馬場	小児の栄養と食行動	小児期に必要な栄養と心身の発育を理解し、更に乳幼児期における食行動について考察する。	小児栄養の特徴、栄養所要量を説明する 新生児期・乳児期の栄養管理（母乳栄養、人工栄養）、離乳、乳児の栄養を説明する 幼児期・学童期の栄養を説明する	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	スタンダード人間栄養学「応用栄養学」人の栄養必要量、人の成長・発達、授乳期～学童期の栄養の項 p2～20 p51～82	1.5
9	11/7	馬場	小児の栄養と食行動	小児期に必要な栄養と心身の発育を理解し、更に乳幼児期における食行動について考察する。	乳幼児期における摂食・嚥下機能の発達について述べる 哺乳に関する原始反射を列挙する 咬合の発育と咀嚼について説明する	Ⅲ-3 Ⅲ-3 Ⅲ-3	スタンダード人間栄養学「応用栄養学」人の栄養必要量、人の成長・発達、授乳期～学童期の栄養の項 p2～20 p51～82	1.5
10	11/14	園田	栄養と外科的疾患	癌と食品の関わりを理解し、癌患者・外科患者における栄養管理・食生活を考察する	がん発生に関わる食品を列挙する がん予防のための食生活を具体的に説明する 食生活におけるがん予防を生活習慣病予防と関係づける	Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅲ-5	参考書「食事でがんは防げる」の第四章「臨床医学概論（2年後期）」の「外科と栄養」	1.5
11	11/21	園田	栄養と外科的疾患	癌と食品の関わりを理解し、癌患者・外科患者における栄養管理・食生活を考察する	経腸栄養の適応と方法について述べる 経静脈栄養の適応と方法について述べる 症例に応じて適切な栄養法を選択する	Ⅳ-4 Ⅳ-4 Ⅳ-4	参考書「食事でがんは防げる」の第四章「臨床医学概論（2年後期）」の「外科と栄養」	1.5
12	11/28	得能	栄養と生活習慣病	臨床栄養学の基本と、主要な生活習慣病の栄養学的問題を理解する	栄養欠乏の臨床的問題を説明する 栄養過多の臨床的問題点を述べる 高血圧症の治療におけるライフスタイルの是正の重要性を説明する	Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅳ-4	3年前期「生体調節医学」の中の「代謝栄養疾患」に関する講義内容 3年後期「循環・呼吸・腎臓病学」の「高血圧」に関する講義内容	1.5
13	12/5	得能	栄養と生活習慣病	臨床栄養学の基本と、主要な生活習慣病の栄養学的問題を理解する	糖尿病における食事療法を説明する 脂質異常症の食事療法を述べる 生活習慣病の一般療法における共通点を列挙する	Ⅳ-5 Ⅳ-5 Ⅳ-5	3年前期「生体調節医学」の中の「代謝栄養疾患」に関する講義内容	1.5
14	12/12	内藤	ライフステージと栄養	思春期、成人期に必要とされる栄養や栄養障害の特徴を理解し考察する。	思春期の栄養の特徴を述べる 思春期の栄養障害の原因を列挙する 思春期の貧血、肥満と高血圧、やせおよび神経性摂食障害の特徴を説明する 過剰栄養や低栄養と高脂血症や動脈硬化症などの生活習慣病の発症との関連を説明する	Ⅲ-3 Ⅲ-5 Ⅲ-5 Ⅳ-4	「老年医学 系統講義テキスト」p87-126	1.0

回	日	担当者	ユニット	学習目標（G I O）	行動目標（S B O s）	DP	予習の項目	必要時間
15	12/15	内藤	高齢者の栄養	高齢期の食の重要性や栄養障害の特徴、高齢者の栄養評価の方法を理解する。	高齢期の食の重要性を説明する	Ⅲ-13	「老年医学 系統講義テキスト」p87-126	1.0
					サルコペニアを説明する	Ⅲ-5		
					老年症候群における栄養の関わりを説明する	Ⅲ-5		
					高齢者の栄養評価の方法を列挙できる	Ⅳ-3		

成績評価方法、GPA（Grade Point Average）の活用について

GPA（Grade Point Average）

各授業科目の評点を5段階評価し（A・B・C・C-・D）、それを4から0の点数（GP: Grade Point）に置き換えて、その点数と単位数を掛け、その総和（GPT: Grade Point Total）を履修単位数の合計で割った平均点

評点	評語	Grade Point (GP)
100点～80点	A	4
79点～70点	B	3
69点～60点	C	2
再試60点	C-	1
59点～0点	D	0

GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \text{GPT} \div \text{履修単位数の合計}$$

(GPT = [GP × 単位数] の総和)

実際の計算例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	GP(b)	(a × b)
〇〇学講義	1	86	A	4	4
〇〇学講義	2	再試60	C-	1	2
〇〇学演習	2	60	C	2	4
〇〇学実習	3	72	B	3	9
計	8 ^{*1}				19 ^{*2}

$$\text{GPA} = 19(\text{GPT}^{*2}) \div 8 (\text{単位数の合計}^{*1}) = 2.38 \quad (\text{小数第3位四捨五入})$$

対象教科

原則として、進級あるいは卒業により認定された全ての授業科目を対象とする。

ただし、次の授業科目や修得単位等は計算に含めない。

- 1) 基礎教養科目で必要単位数を超えて取得した科目
- 2) 編入学または転入学した際の単位認定科目
- 3) 本学入学前に修得した単位認定科目
- 4) その他教授会で認めた GPA 算出除外科目

GPAの活用目的

- 1) 学生の個別の学習指導に活用

前年度 GPA が2.00未満の学生は、進級するのにかなりの努力が必要な状況にあります。

- 2) 特待生等の選考の参考資料に活用

授 業 要 綱

編集
発行 福岡歯科大学

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
電話 092 (801) 0447番
Fax 092 (801) 0427番